

このたびは、スバル車をお買い上げいただき、 ありがとうございます。




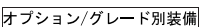
本書は、プレオ プラスの正しい取り扱いかたや、
お手入れの方法などについて説明しているほか、
車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、
また、万一のときの処置についても記載しています。
安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、
ご使用の前に必ずお読みください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は下記の通りです。

 警告	警告事項を守らないと、生命にかかわるけが、あるいは重大なけがにつながるおそれがあります。
 注意	注意事項を守らないと、けがや事故、車の破損につながるおそれがあります。
 アドバイス	お車のために守っていただきたい事項です。
 オプション/グレード別装備	オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。

ご愛車のために

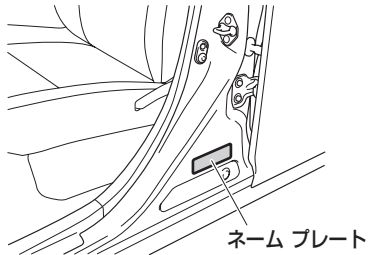
- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくとう便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますのでお読みください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
 - ・車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
 - ・本書は別冊の「メンテナンス ノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
 - ・ご不明な点は、ご購入先のスバル販売店（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネーム プレートをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	KF- 型エンジン
総排気量	658cc
車体色(番号)	
トランスミッション	CVT

ネーム プレートは助手席側ドアを開けたところに貼り付けしてあります。



MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

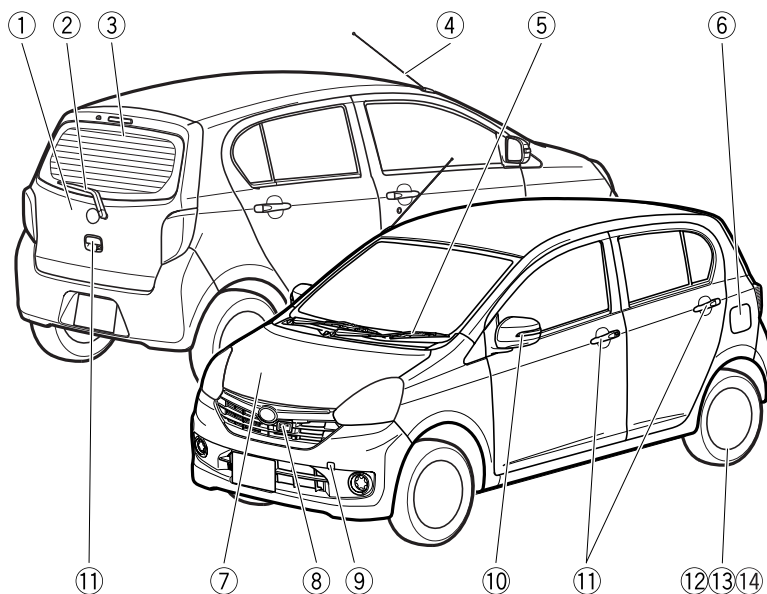
目 次

絵目次	2
必読！ドライバーのみなさまへ	9
走行する前に-----	10
エンジンをかけるときは-----	13
走行しているときは-----	14
駐停車するとき-----	17
安全な燃料給油のために-----	19
SRSエアバッグについて-----	21
CVT車について-----	23
お子さまを乗せるときは-----	25
お車を長持ちさせるには-----	29
こんなときは-----	32
知っておいていただきたいこと-----	35
安全装備	37
シート-----	38
シート ベルト-----	45
チャイルド シート-----	50
SRSエアバッグ-----	63
ABS-----	75
エマージェンシー ストップ シグナル-----	77
VDC&TRC-----	78
スマートアシスト-----	86
車を運転する前に	107
車体各部の開閉-----	108
車体各部の調整-----	145
車を運転するにあたって	153
メーターのはたらき-----	154
表示灯、警告灯のはたらき-----	167
スイッチの使いかた-----	179
運転装置の使いかた-----	190
エンジンのかけかた-----	200
CVT車の運転-----	202
アイドリング ストップ システムの 使いかた-----	212
発電制御-----	225
装備品の使いかた	227
空調-----	228
オーディオ-----	248
室内装備品-----	266
いざというときに	275
工具類-----	276
いざというときの処置-----	282
車のお手入れ	325
車のお手入れ-----	326
積雪、寒冷時の取り扱い	349
積雪、寒冷時の取り扱い-----	350
サービス データ	357
さくいん	363

絵目次

外観

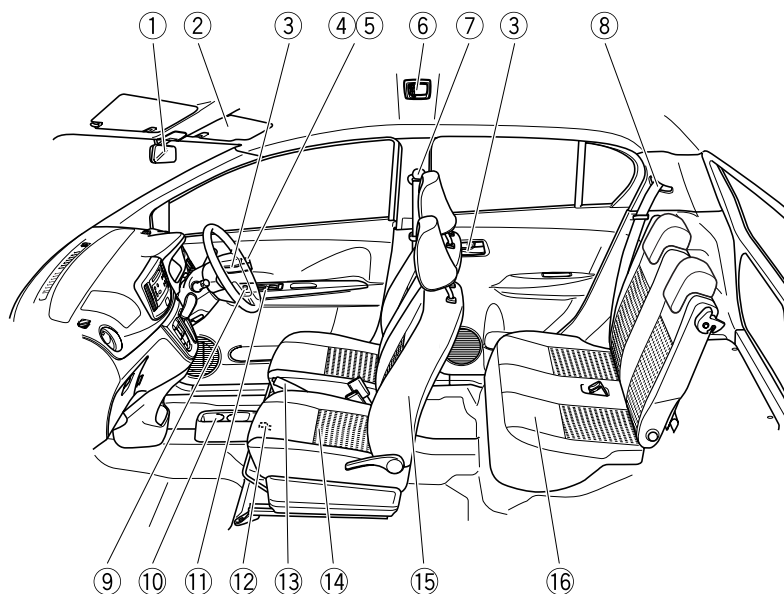
グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①リヤ ゲート	131
②リヤ ワイパー	185
③リヤ ウィンドウ デフォッガー	187
④アンテナ	248
⑤フロント ワイパー	184
⑥フューエル リッド	137
⑦ボンネット	135
⑧レーザー レーダー	88
⑨けん引フック	287
⑩ドア ミラー	145
⑪ドアの開閉	122
⑫タイヤ交換	332
⑬タイヤのローテーション	331
⑭タイヤ チェーン	352

内装

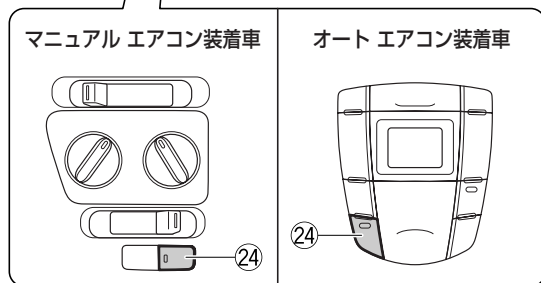
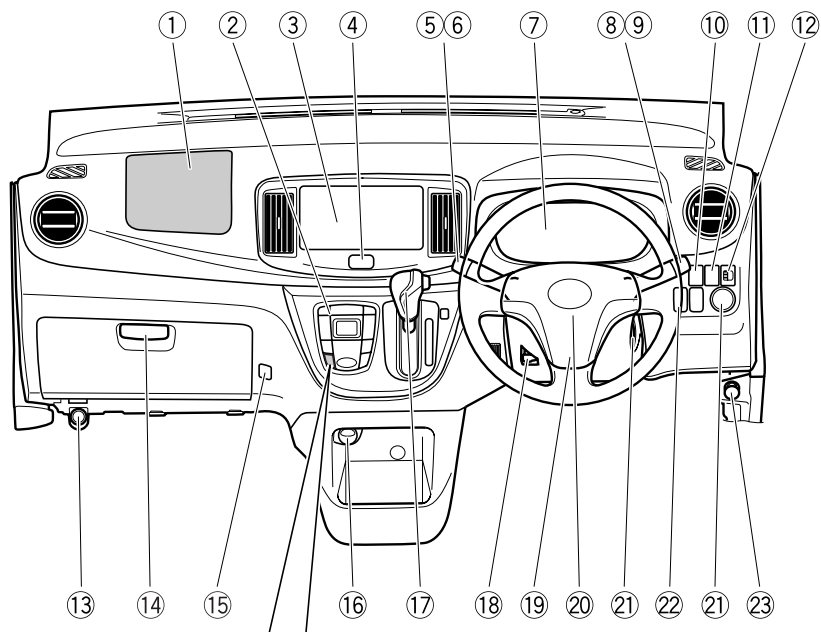
グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①ルーム ミラー-----	145
②サン バイザー-----	268
③ドアの開閉-----	122
④車内からの施錠・解錠-----	124
⑤集中ドア ロック-----	125
⑥ルーム ランプ-----	266
⑦シート ベルト (フロント) -----	47
⑧シート ベルト (リヤ) -----	47
⑨電動格納式ドア ミラー スイッチ-----	146
⑩カップ ホルダー-----	270
⑪パワー ウィンドウ-----	140
⑫フューエル リッド オープナー -----	139
⑬駐車ブレーキ-----	197
⑭フロント シート -----	39
⑮SRSサイド エアバッグ-----	69
⑯リヤ シート -----	41

インストルメント パネル

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①助手席SRSエアバッグ	63
②エアコン	228
③オーディオ	248
④非常点滅灯スイッチ	183
⑤フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチ	184
⑥リヤ ワイパー・ウォッシャー スイッチ	185
⑦メーター	154
⑧ライティング スイッチ	180
⑨方向指示レバー	183
⑩VDC&TRC OFFスイッチ	84
⑪「アイドリング ストップ」OFFスイッチ	222
⑫光軸調整ダイヤル	182
⑬発炎筒	284
⑭グローブ ボックス	269
⑮ショッピング フック	271
⑯アクセサリー ソケット	267
⑰セレクト レバー	202
⑱チルト ステアリング レバー	150
⑲ホーン スイッチ	189
⑳運転席SRSエアバッグ	63
㉑エンジン スイッチ	190
㉒スマートアシストOFFスイッチ	104
㉓ボンネット オープナー	136
㉔リヤ ウィンドウ デフォッガー スイッチ	187

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

安全のためにぜひ守りましょう



必読！

ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。



警告に値する項目です



注意に値する項目です

走行する前に -----	10
エンジンをかけるときは -----	13
走行しているときは -----	14
駐停車するとき -----	17
安全な燃料給油のために -----	19
SRSエアバッグについて -----	21
CVT車について -----	23
お子さまを乗せるときは -----	25
お車を長持ちさせるには -----	29
こんなときは -----	32
知っておいていただきたいこと ----	35

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをおこなわず行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。点検・整備はメンテナンス ノートにしたがって実施してください。詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

各部を正しく調整してください

シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

(シート→ 38 ページ)

(車体各部の調整→ 145 ページ)

シート ベルトはしっかりと着用してください

走行する前に必ず運転者、同乗者とも全員がシート ベルトを着用してください。(リヤ シートでも必ずシート ベルトを着用してください。)
シート ベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。必ず正しい着用方法を身に付けてください。

(正しい着用→ 45 ページ)



妊娠中の方もシートベルトを着用してください

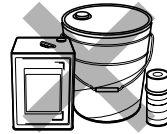
妊娠中の方も下記の要領でシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師にご相談のうえ、注意事項を確認してください。

- 腰ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
- 肩ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。



危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。



ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください。ペダル操作が確実にできないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

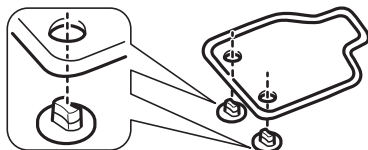
運転席足元に物を置かないでください

走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなるなどのおそれがあり危険です。

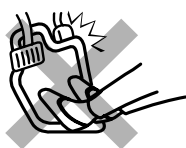


**車に合わないフロア マットは
使用しないでください**

- フロア マットはペダルに引っかからないよう、車に合った物を正しく敷いてください。また、ずれないように固定フックなどで必ず固定してください。



- フロア マットを正しく敷かなかつたり、重ねて敷くとペダル操作をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



荷物を積み過ぎないでください

- 助手席やリヤ シートに荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体にあたるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧の点検をしてください

タイヤ空気圧の点検は法的に義務付けられています。

タイヤ空気圧は、最低でも月に1回は点検を行ってください。

タイヤ空気圧が極端に低い状態のまま走行すると、偏摩耗や早期摩耗します。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。タイヤの点検については、別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災になるおそれがあり危険です。



CVT車の場合に注意していただきたいこと

駐車ブレーキをかけた状態でセレクトレバーを必ずPレンジにして、ブレーキペダルをしっかりと踏みエンジンを始動してください。

(エンジンのかけかた→ 200 ページ)

排気ガスには気を付けてください

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。

排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、スバル販売店で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。

車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。また、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めない てください

走行中にエンジンを止めると、下記のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあります。
- 各警告灯が作用しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

(車両を緊急停止するには→ 320 ページ)

下り坂ではエンジン ブレーキ を併用してください

長い下り坂や急な下り坂を \textcircled{R} レンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。

このようなときにフット ブレーキに頼ると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。路面状態やスピードに応じてセレクト レバーを \textcircled{R} レンジまたは、 \textcircled{R} レンジに入れてエンジン ブレーキを併用しましょう。

その際には、急激なエンジン ブレーキ（セレクト レバー操作）を避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあります。

また、ぬれた路面や、積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジン ブレーキを使用してください。

エンジン ブレーキ

エンジン ブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。

万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

深い水たまりを走行したあとや洗車をしたあとは、ブレーキパッドがしめり、効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの効き具合が正常かを確かめてください。

効き具合が悪いときは前後の車に十分注意し、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速でしばらく走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。



スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき

→ 282 ページ）



高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジン オイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。



必読！ドライバーのみなさまへ 走行しているときは

正しいシート位置で走行してください

シートを倒した状態で人を乗せたまま走行しないでください。

また、リヤ シートの背当てを前倒した状態で荷室に人を乗せての走行もしないでください。急ブレーキをかけたときなど、体が固定されず大変危険です。

人を乗せて走行するときは必ず通常のシート位置で走行してください。

(シート→ 38 ページ)

ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、万有的时候に大変危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジン ブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物に気を付けてください

ルーム ミラー、ドア ミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。



駐停車するときには

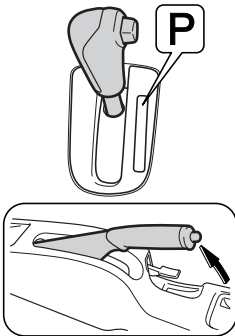
駐停車するときを知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

長時間駐車するときには注意していただきたいこと

エンジンを必ず止めて駐車してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐停車するときには、必ず駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをPレンジに入れます。坂道で駐車するときには、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。



燃えやすい物のそばに車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災になるおそれがあり危険です。車の後方に可燃物があるときは、車両後端を30cm以上離して止めてください。

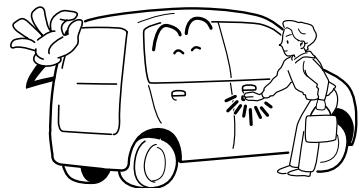
隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、車を止めたりしないでください。

車から離れるときに注意していただきたいこと

車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。

車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。

また、乳幼児のみを車内に残して車を離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。



必読！ドライバーのみなさまへ 駐停車するときは

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

エンジンがかかった状態のまま仮眠すると、無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

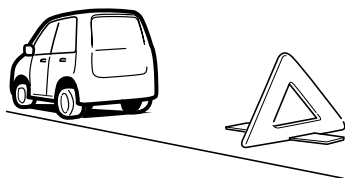
また、排気管が損傷していた場合、風通しの良くない所や、風向きによっては排気ガスの侵入により、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。



高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。

万一のために停止表示板（停止表示灯）は車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。



高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足がマフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスクホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスクホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

車が雪でおおわれたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあり危険です。

安全な燃料給油のために

セルフ ガソリン スタンドなどで、お客様自身で燃料給油する場合に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいこと、特に注意していただきたいことをまとめています。

よくお読みになり、安全に給油を行ってください。

必ず指定燃料をご使用ください

必ず、無鉛レギュラー ガソリンを使用してください。

給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。

指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料*、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。



燃料給油時には、必ず下記のことをお守りください

燃料は引火しやすいため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。必ず下記のことをお守りください。

- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。



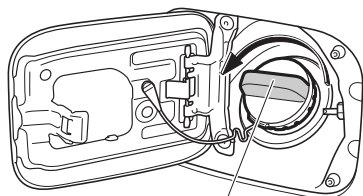
- フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。

身体に静電気を帯びていると、放電による火花で引火するなどして、やけどのおそれがあり危険です。

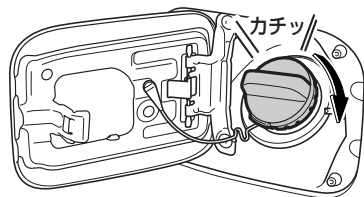
* アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオ ガソリンは使用できます。

必読！ドライバーのみなさまへ 安全な燃料給油のために

- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエル キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方一人で行ってください。
- フューエル キャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。



ツマミ部分



- フューエル キャップを少しゆるめたときに「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布などでふき取ってください。
- こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したまま放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。
- スバル指定のフューエル キャップ以外は使用しないでください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

燃料の気化ガスを吸わないようにしてください

燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、ご注意ください。

SRSエアバッグについて

SRSエアバッグのページも併せてお読みください。

シート ベルトを着用してください

SRS*エアバッグの効果を発揮させるため、必ずシート ベルトと併用してください。SRSエアバッグはシート ベルトを補助するための装置でシート ベルトの代わりではありません。

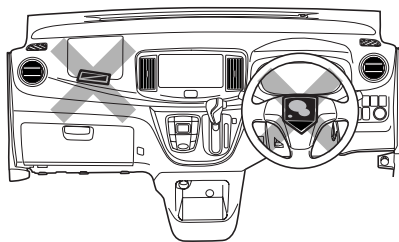
いざというとき効果を発揮しないばかりでなく、重大な事故につながるおそれがあります。

修理、分解、取り外しをしないでください

修理、分解、取り外しなどをお客様自身で行わないでください。修理の際は、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

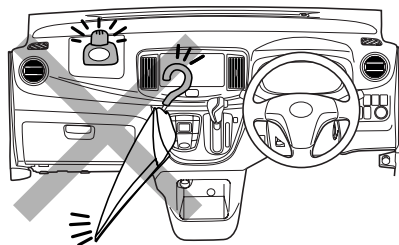
パッド部、インストルメントパネルにステッカーなどを貼らないでください

パッド部、インストルメント パネルにステッカーを貼ったりカバーをおおうと、いざというときSRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。



インストルメント パネルに物を置かないでください

インストルメント パネルの上に芳香剤など物を置いたり傘を立てかけたりしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で飛ばされたり、SRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。



* Supplemental Restraint System (サブリメンタル レストレイント システム) の略で、乗員保護補助装置の意味です。

走行中は正しいシート位置に座ってください

シートの前端に座ったり、ハンドルに近付きすぎたりしないでください。お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたりしないでください。

また、インストルメント パネルにもたれかからないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRSサイド エアバッグ装着車について

SRSサイド エアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがありますので、下記のことを守ってください。

- ドア近辺にもたれかからないでください。
- ドアやその周辺にカップ ホルダーなどを取り付けしないでください。
- フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうとSRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがありますので、フロント シートにSRSサイド エアバッグ専用のスバル指定のシート カバー以外は取り付けしないでください。

(SRSサイド エアバッグ→ 69 ページ)

チャイルド シートは正しく取り付けてください

- お子さまはリヤ シートに乗せてください。
- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- 6歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずスバル純正チャイルドシートを使用してください。スバル純正チャイルド シートの使用方法はチャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- 助手席にチャイルド シートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。

(SRSエアバッグ→ 63 ページ)

CVT車について

CVT車の運転のページも併せてお読みください。

CVT車の特性や操作上で注意 していただきたいこと

CVT車には、いくつかの特性があります。思わぬ事故につながるおそれがありますので、正しく理解し、操作する習慣を身に付けてください。

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、Nレンジ以外では、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと車が動き出します。

停車中は平坦路であっても車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

エンジンをかける前にペダルの 位置を確認してください

ペダルの踏み間違えがないように、右足でアクセルペダルおよびブレーキペダルの位置を確認し、必ずセレクトレバーがPレンジの位置になっていることを確認してください。

ブレーキペダルは右足で操作 してください

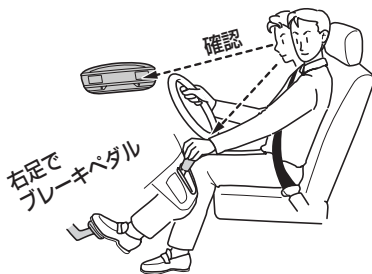
ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作する習慣を身に付けてください。



スタートするときはブレーキ ペダルを踏んだままセレクト レバーを操作してください

セレクトレバーがどの位置にあるかをセレクトレバーまたはメーター内のインジケーターを必ず目で見て確認し、必ず右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだままセレクトレバーを操作してください。また、アクセルペダルを踏んでのセレクトレバー操作はしないでください。

(運転のしかた→ 206 ページ)



必読！ドライバーのみなさまへ CVT車について

走行中はセレクト レバーをNレンジの位置に入れしないでください

走行中はセレクト レバーをNレンジに入れると、エンジン ブレーキが全く効かず思わぬ事故の原因となります。

また、下り坂などでは必ず路面状態やスピードに応じてセレクト レバーをRレンジまたは、Dレンジに入れてエンジン ブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏み続けることはやめてください。



坂道などで注意していただきたいこと

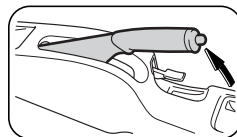
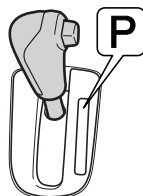
坂道などでは、セレクト レバーをR、SレンジまたはDレンジに入れたまま惰性で後退したり、Dレンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。

エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

駐停車するときは

駐停車するときは、必ずセレクト レバーをPレンジの位置にし、しっかりと駐車ブレーキをかけてください。

また、車が完全に停止するまでセレクト レバーをRレンジには入れないでください。

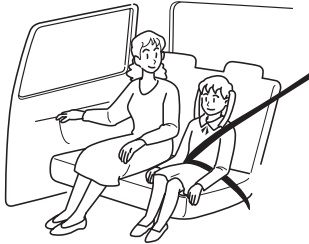


お子さまを乗せるときは

ドアの開閉は、大人が注意しながら操作してください

ドアを閉めるときなど、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。開閉、施錠は大人が行い、安全のためにもチャイルド ブルーフを使用してください。

(車体各部の開閉→ 108 ページ)



シートの操作は大人が注意しながら行ってください

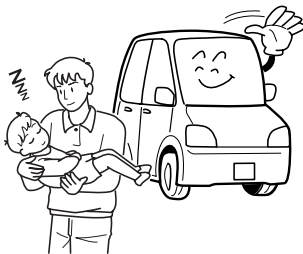
操作を行うときは動いている部分にお子さまの手や足を挟まないように注意してください。

隙間に指などが挟まると、けがをするおそれがあります。

車を離れるときはお子さまも一緒に離れてください

お子さまのいたずらによる車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。

必ずお子さまと一緒に車を離れてください。



必読！ドライバーのみなさまへ お子さまを乗せるときは

お子さまは大人と一緒にリヤシートにお座りください

助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあります。

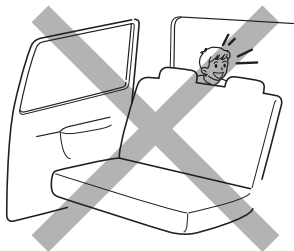
また、万一のとき、お子さまがインストルメント パネルに頭をぶつけたり、放り出されるおそれがあります。



お子さまを荷室に乗せたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキ時などに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。



お子さまにもシート ベルトを着用させてください

- お子さまにも必ずシート ベルトを着用させてください。急ブレーキ時など体が固定されず大変危険です。また、お子さまをひざに抱いて走行しないでください。ひざの上でお子さまを抱いていても、衝突したときなど十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 6歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずスバル純正チャイルドシートを使用してください。通常のシート ベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。
- チャイルド シートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。

(チャイルド シート→ 50 ページ)

- チャイルド シートを取り付けたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。取り付け要領は、それぞれのチャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んでください。
- お子さまを乗せていないときでもチャイルド シートは、しっかりとシートに取り付けるか、荷室へ収納してください。
シートから取り外した状態で室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物などに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤ シートの左右席に、ISO* FIX対応 ISO FIX固定バー＆テザー アンカー対応のチャイルド シートを取り付けることができます。

(チャイルド シートの固定のしかた
→ 58 ページ)

シート ベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。



* ISOはInternational Organization for Standardization (国際標準化機構) の略

必読！ドライバーのみなさまへ お子さまを乗せるときは

チャイルド シートは正しく取り付けてください

- お子さまはリヤ シートに乗せてください。
- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- 6 歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずスバル純正チャイルドシートを使用してください。
スバル純正チャイルド シートの使用方法はチャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- 助手席にチャイルド シートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。

(SRSエアバッグ→ 63 ページ)

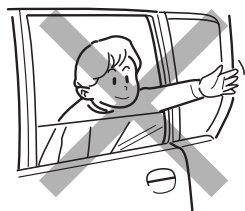
パワー ウィンドウはお子さまに操作させないでください

パワー ウィンドウは大変強い力で開閉します。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ロック スイッチを“OFF” にすると、運転席ウィンドウ ガラス以外は開閉できなくなります。お子さまを乗せているときは、ロック スイッチを“OFF” にしてください。



お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。



お車を長持ちさせるには

点検整備を行いましょ

車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、スバルが推奨するものに基づいています。

詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。

腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態では、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

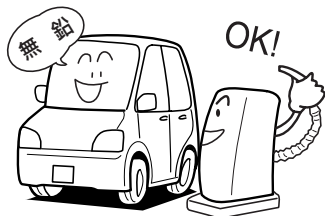
必読！ドライバーのみなさまへ お車を長持ちさせるには

無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラー ガソリンを使用してください。

給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。

指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料*、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。



* アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオ ガソリンは使用できます。

車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロント ガラスおよびフロント ドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、この車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、スバル販売店にご相談ください。
- 無線機やスバル指定部品以外の電装品などの取り付け、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スバル販売店にご相談ください。
- バッテリー端子にスバル指定部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- お客様自身でのハンドルの取り外しはしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

指定部品を使いましょう

部品を交換する場合は「スバル指定部品」のご使用をおすすめします。



こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

(警告灯→ 172 ページ)

オーバー ヒートしたとき

水温警告灯が赤色に点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバー ヒートが考えられます。そのときボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にボンネットを開けないでください。

また、あわてて冷却水注入口を外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

(オーバー ヒートの処置→ 300 ページ)

エンストしたとき

エンストしたときは落ち着いて操作してください。

ブレーキの倍力装置やパワー ステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れてハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

(タイヤ パンク応急修理セット
→ 288 ページ)

(タイヤ交換→ 332 ページ)

床下に強い衝撃を感じたとき

車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所に車を停車し、下回りを点検してください。

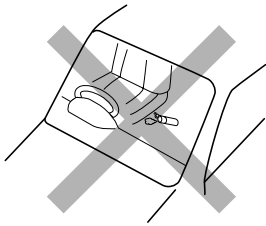
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

いつもと違うとき

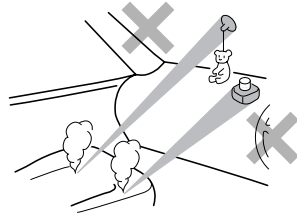
地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、車に異常のおそれがあります。このようなときは、スバル販売店で点検を受けてください。

車両の火災につながるおそれがあるため、下記の点に注意をしてください

- 車内（特にインストルメント パネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブ ボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災になるおそれがあり危険です。



- ウィンドウ ガラスには吸盤を付けないでください。また、インストルメント パネルの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。



- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウ ガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウィンドウ ガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- エンジン始動前にエンジン ルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジン ルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。
また、走行中にエンジン ルームからこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

こんな点にも注意をしてください

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。
- 車内に飲み物をこぼしたり、雨水などがかからないよう注意してください。インストルメント パネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、飲み物、雨水などがかかった場合は、すみやかにスバル販売店にご相談ください。
- インストルメント パネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者はハンズ フリー以外の自動車電話や携帯電話などを走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は走行中、テレビを見たり、カー ナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

- リヤ シートの調整および収納状態から元に戻したときは必ずロックがかかったことを確認してください。ロックがかかっていない状態での走行は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

車止めなどに注意をしてください

下記のような場合には、スポイラー、大型バンパーなどを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある場所の通過

知っておいていただきたいこと

車両データの記録について

このお車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

参考

- グレードやオプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
- コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

スバルおよびスバルが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.



安全装備

車を運転するうえで乗員の安全を保護するための
装備について説明しています。

■ シート

正しい運転姿勢	38
フロント シート	39
リヤ シート	41
シート アレンジ	44

■ シート ベルト

正しい着用	45
3点式ELRシート ベルト	47
プリテンショナー&可変ロード リミッター機構付 シート ベルト	48

■ チャイルド シート

チャイルド シート	50
チャイルド シートの選びかた	52
チャイルド シートの固定のしかた	58

■ SRSエアバッグ

SRSエアバッグ	63
SRSサイド エアバッグ	69
SRSエアバッグ警告灯	73
SRSエアバッグ コンピューター	73

■ ABS

ABS (EBD機能付)	75
--------------	----

■ エマージェンシー ストップ シグナル

エマージェンシー ストップ シグナル	77
-----------------------	----

■ VDC&TRC

VDC (ピークル ダイナミクス コントロール)	78
TRC	80
メーター表示	82
VDC&TRC OFFスイッチ	84

■ スマートアシスト

スマートアシスト	86
低速域衝突回避支援ブレーキ機能	89
誤発進抑制制御機能	94
先行車発進お知らせ機能	98
メーター表示	100
スマートアシストOFFスイッチ	104

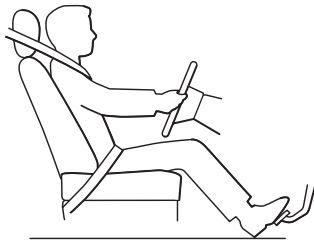


シート

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、下記のことにご注意してシートを調整してください。

- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背当てから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
- シートベルトが正しく着用できること
- ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になること



⚠警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対に行わないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シートベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背当てと背中 사이에クッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

(シートベルト→ 45 ページ)

⚠注意

- シートを調整するときは同乗者や荷物に当たらないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートの調整は、指や手を挟まないように十分に注意して行ってください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。指や手を挟みけがをするおそれがあります。



フロント シート

⚠警告

SRSサイド エアバッグ装着車の場合

- フロント シートに専用のスバル指定品以外を取り付けしないでください。フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうとSRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
また、スバル指定シート カバー使用時には付属の取扱説明書をよく読んで正しく取り付けてください。
- フロント シート表皮の張り替えやフロント シートの取り付け、取り外し、修理などを行わないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ずスバル販売店にご相談ください。

シート スライド調整

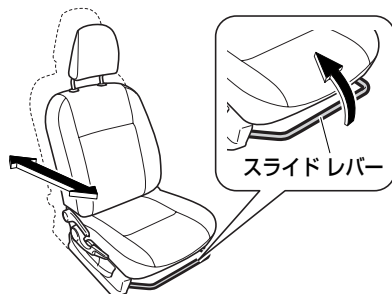
▼調整を行う前に

⚠警告

- スライド調整は必ず運転前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。





リクライニング調整

▼調整を行う前に

⚠警告

- リクライニング調整は必ず運転前に行い、調整後は背当てを軽くゆすり、背当てが確実に固定されたことを確認してください。背当てが固定されていないと走行中に背当てが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

リクライニングレバーを引き上げながら背当ての角度を調整します。



⚠注意

- リクライニングレバーを引き上げるときは背当てにあまり力をかけないでください。背当てに強い力がかかっていると急に背当てが倒れ、けがをすることがあります。

▼背当てを元に戻すときは

⚠注意

- 背当てが急に戻るおそれがありますので、必ず背当てを手で押さえながら操作してください。

ヘッドレストの調整

▼調整を行う前に

⚠警告

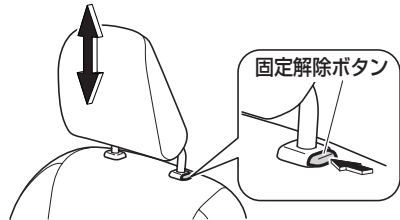
- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッドレストを前後逆に取り付けしないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼調整方法

そのまま持ち上げて調整します。

下げるときは固定解除ボタンを押しながら「カチッ」という音がする位置で固定してください。

取り外すときは固定解除ボタンを押しながら引き抜きます。





運転席シート リフター

オプション/グレード別装備

シート全体の高さ調整を行うことができます。

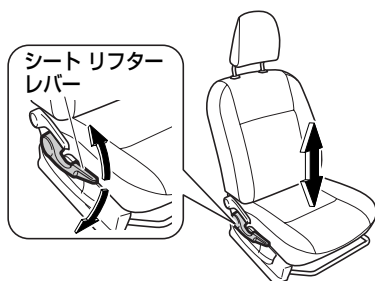
▼操作を行う前に

⚠警告

- 調整は必ず運転前に行ってください。走行中に調整を行うと思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

シート リフター レバーを引き上げるごとにシート全体が上昇し、押し下げるとにシート全体が下降します。



リヤシート

⚠注意

- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はフロント シートの背当てより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出されるおそれがあります。





ヘッド レストの取り外し

オプション/グレード別装備

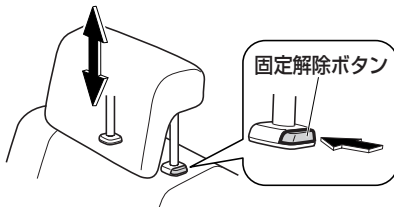
▼操作を行う前に

⚠警告

- ヘッド レスト装着車は、リヤ シートに人を乗せるときは、ヘッド レストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッド レストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けしないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼操作方法

取り外すときは、固定解除ボタンを押しながら引き抜きます。取り付けるときは、「カチッ」という音がる位置で固定してください。



背当ての前倒し

リヤ シートを操作することで、カーゴルームを広くすることができます。

▼操作を行う前に

⚠警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

- シートを操作するとき、または元に戻すときは、手や足などを挟まないように注意してください。
- 背当てを前に倒すときは、背当てが急に倒れるおそれがあります。必ず背当てを手で押さえながら操作してください。
- 倒した背当ての上、または荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。



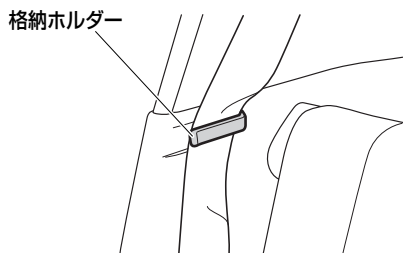
アドバイス

- 背当てを倒すとき、または倒した背当てを元に戻すときは、シート ベルトがシートにかみ込むことを防ぐために、必ず格納ホルダーにシート ベルトをかけてから操作してください。



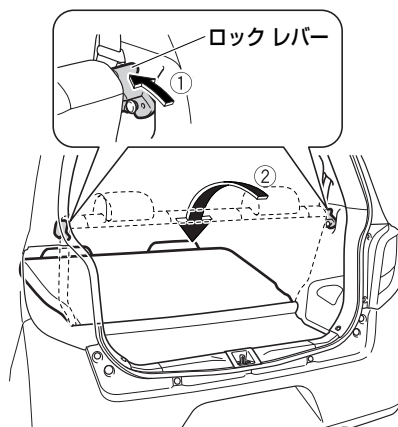
▼操作方法

1. かみ込み防止のため、格納ホルダーにシートベルトをかけます。



2. 車両後側から左右両側のロックレバーを同時に操作して、背当てを前に倒します。

- ①ロックレバーを前側へ倒します。
- ②背当てを前に倒します。



⚠注意

- ロックレバーを操作するときは、指を挟まないように注意してください。

▼元に戻すときは

背当てを引き起こします。

⚠注意

- 背当てが確実に固定されたことを確認してください。背当てが固定されていないと、走行中に背当てが動き思わぬけがをするおそれがあります。





シート アレンジ

ソフト フラット シートに するとき

▼操作を行う前に

⚠警告

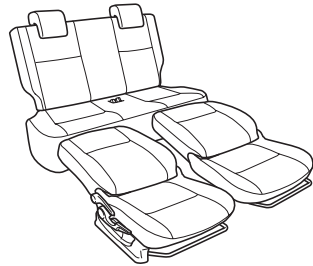
- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

- ソフト フラット シートにした状態で人を乗せたまま走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。
- ソフト フラット シートにした状態で、シートの上を動き回ったりしないでください。
- シートの上を移動するときは、足を踏み外すおそれがあり危険です。シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。
- ソフト フラット シート状態は安全な場所に車を止めて休息するときに使用してください。

▼操作方法

1. フロント シートのヘッド レストを外します。
2. フロント シートを前方いっぱいまでスライドさせます。
3. フロント シートの背当てをリヤ シートのクッションと同じ高さになるまで倒します。
4. フロント シートとリヤ シートのクッションの間に隙間ができないように、フロント シートをスライド調整します。



▼元に戻すときは

逆の手順で操作してください。

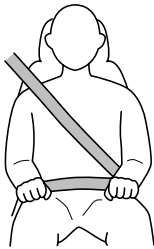


シートベルト

正しい着用

運転者は車を運転する前に、下記のこと
に注意してシートベルトを着用し、必ず
同乗者にも着用させてください。シート
ベルトは正しく着用しないと効果が半減
したり、危険な場合があります。

シートベルトの使用方法を十分に理解し、
正しい取り扱いかたを身に付けてくださ
い。



- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シートベルトにねじれがないこと
- シートベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

警告

- シートベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- シートベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シートベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。
- シートベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。



- リヤシートベルトの格納ホルダーは背当てを前に倒したときにシートベルトを固定するための物です。シートベルト着用時には格納ホルダーから外して使用してください。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用してください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。





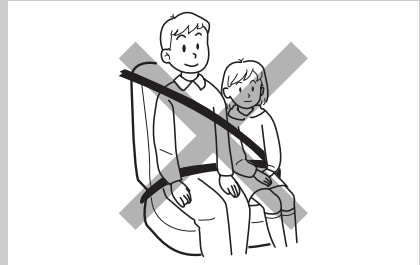
⚠警告

- シートベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルドシート（別売）を使用してください。
（チャイルドシート→50ページ）
（チャイルドシートの固定のしかた→58ページ）
- 妊娠中の方もシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
- 腰ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
- 肩ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。



⚠警告

- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のシートベルトを使用しないでください。衝突時にシートベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。



- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- ハンドルやメーターに必要以上に近づいて運転しないでください。衝突したときなどシートベルトの効果が発揮されません。
- シートベルト使用時、クリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。



⚠警告

- シートベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。
- シートベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、スバル販売店でシートベルト一式を交換してください。シートベルト自体が損傷している場合があります、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシートベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用すると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、スバル販売店で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シートベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。



3点式ELRシートベルト

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼着用するとき

1. 正しい運転姿勢が取れる位置にシートベルトを調整します。
2. タングプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にタングプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



⚠警告

- 肩部ベルトは、脇の下に通して着用しないでください。ベルトが十分肩にかかっていないと十分な効果を発揮しません。

⚠注意

- タングプレートを差し込むとき、タングプレートでバックルを無理にこじらないでください。



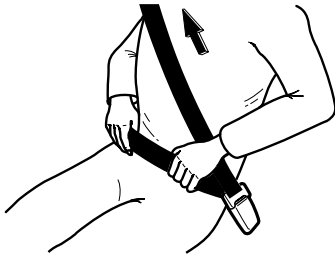


アドバイス

- ベルトがロックし引き出せない場合は、ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。
- 運転席シートベルトは、シートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

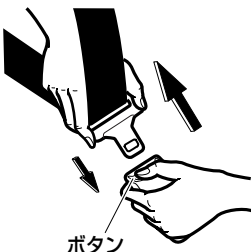
(シートベルト警告灯
→ 175 ページ)

3. 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるとし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させます。



▼ 外すとき

バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどが無いかを確認しながら、ベルトやタングプレートに手を添えてゆっくり戻します。



プリテンショナー& 可変ロードリミッター機構付 シートベルト

○フロントシート

⚠警告

- プリテンショナー&可変ロードリミッター機構付シートベルトは絶対に取り外さないでください。また、分解、改造もしないでください。
- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 車両前部を修理するとき
 - 無線機を取り付けるとき
 - 廃車にするとき



プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けるとプリテンショナー機構が作動し、シートベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシートベルトやSRSエアバッグの効果をいっそう高めます。

⚠注意

- プリテンショナー機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。



アドバイス

- プリテンショナー機構はシートベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

可変ロードリミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに作動し、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸に加わる力を減少させます。

⚠注意

- 可変ロードリミッター機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。





チャイルド シート

チャイルド シート

6 歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルド シートをご使用ください。

車両に固定するチャイルド シートには、ISO*1 FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで固定するタイプとシート ベルトで固定するタイプがあります。

(チャイルド シートの固定のしかた
→ 58 ページ)

チャイルド シートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。



アドバイス

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルド シートを選んでください。

チャイルド シートについて

- ここでは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートの総称として、「チャイルド シート」と呼んでいます。

(チャイルド シートの種類→ 51 ページ)

チャイルド シートの 質量グループについて

ECE R44*2 の基準に適合するチャイルド シートは、お子さまの体重により、5 種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループI	9~18kg
グループII	15~25kg
グループIII	22~36kg

*1 International Organization for Standardization
(国際標準化機構) の略

*2 チャイルド シートに関する国際的な安全基準です。



チャイルドシートの種類

○ベビーシート

体重の目安：～13kg

質量グループ0、0+に相当します。

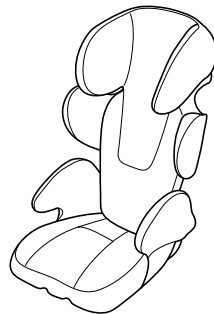


○ジュニアシート

体重の目安：15～36kg

年齢の目安：3～12歳

質量グループII、IIIに相当します。



○チャイルドシート

体重の目安：9～18kg

質量グループ0、0+およびIに相当
します。(チャイルドシートの質量グループ
について→ 50 ページ)



チャイルド シートの選びかた

次の適合性一覧表から、各シート位置でどのチャイルド シートが使用できるかを選択してください。

- ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで取り付ける場合
(ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで取り付けるチャイルド シート
適合性一覧表→ 53 ページ)
- シート ベルトで取り付ける場合
(シート ベルトで取り付けるチャイルド シート
適合性一覧表→ 56 ページ)



アドバイス

- お子さまに適切なチャイルド シートについては、スバル販売店、チャイルド シート製造業者、または販売店にご相談ください。



**ISO* FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで
取り付けるチャイルド シート適合性一覧表**

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	IL
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I (9~18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
II (15~25kg)		—	×
III (22~36kg)		—	×

●記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISO FIX 対応の前向きチャイルド シートのみ取り付け可能です。

IL：この質量グループでの使用を許可された下記「ISO FIX対応チャイルド シートのリスト」に示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーのチャイルド シートのみ取り付け可能です。

×：ISO FIX対応チャイルド シートを取り付けることはできません。

●ISO FIX対応チャイルド シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX対応チャイルド シート	使用の向き	カテゴリー
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	スバル純正ISO FIX ベビーシート	後ろ向き	準汎用
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1			
I (9~18kg)	B	ISO/F2	スバル純正ISO FIX チャイルドシート	前向き	汎用
	B1	ISO/F2X			
	A	ISO/F3			

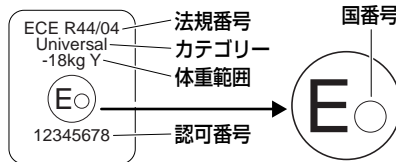
表に記載されていないチャイルド シートを使用する場合は、スバル販売店、チャイルドシート製造業者または販売店にご相談ください。

* International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

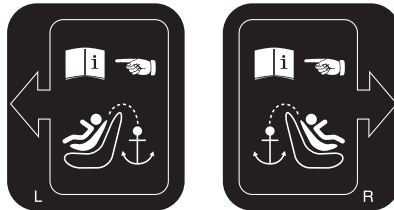


アドバイス

- この車のISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーは、2006年10月1日施行の新保安基準に適合しています。
これには、ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートしか取り付けることができません。
- ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートには、下記の認可ラベルが表示されています。
- ECE R44 の認可マークです。
汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルド シートは、カテゴリーに「UNIVERSAL」と表示されています。



- スバル純正ISO FIX対応テザー アンカーの位置を示すマークの一例です。



- スバル純正の準汎用（セミ ユニバーサル）カテゴリー、および汎用（ユニバーサル）のチャイルド シートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはスバル販売店にご相談ください。



アドバイス

- チャイルドシートを購入するときは、ISO FIXサイズ等級に一致したものをお選びください。

サイズ等級	固定具	お子さまの体格	使用の向き	形状、大きさ
A	ISO/F3	幼児	前	大型
B	ISO/F2	幼児	前	中型
B1	ISO/F2X	幼児	前	中型
C	ISO/R3	幼児	後ろ	大型
D	ISO/R2	幼児	後ろ	中型
E	ISO/R1	乳児	後ろ	小型

- 詳しくは、スバル販売店、チャイルドシートの製造業者、または販売店にご相談ください。



シート ベルトで取り付けるチャイルドシート適合性一覧表

質量グループ	座席位置	
	フロントシート	リヤシート
	助手席	左右席
0 (10kgまで)	×	U* ¹
0+ (13kgまで)	×	U* ¹
I (9~18kg)	×	U* ¹
II (15~25kg)	×	U* ²
III (22~36kg)	×	U* ²

●記号の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリのチャイルドシートが取り付け可能です。

×：チャイルドシートを取り付けることはできません。

*1 後向きのチャイルドシートを取り付けるときは、チャイルドシートの上端部が前席背当てに接するように前席の位置を調整してください。

*2 チャイルドシートを取り付けるシートのヘッドレストを取り外してください。

●取り付け可能なチャイルドシート

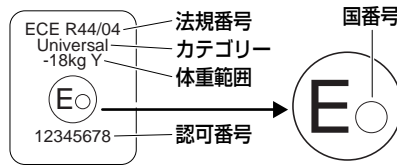
質量グループ	チャイルドシート	使用の向き	カテゴリ
0 (10kgまで)	スバル純正チャイルドシート	後ろ向き	汎用
0+ (13kgまで)			
I (9~18kg)	スバル純正チャイルドシート	前向き	汎用
II (15~25kg)	スバル純正ジュニアシート	前向き	汎用
III (22~36kg)			

表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、スバル販売店、チャイルドシート製造業者または販売店にご相談ください。



👉 アドバイス

- チャイルドシートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。
(チャイルドシートの選びかた→ 52 ページ)
- ECE R44 に適合している「U」のチャイルドシートには、下記の認可ラベルが表示されています。
- カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用（ユニバーサル）チャイルドシートの認可であることを表します。



- スバル純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはスバル販売店にご相談ください。



チャイルドシートの固定のしかた

⚠警告

- チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
- 助手席に前向きや後ろ向きのチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。



- 急ブレーキや事故の際、お子さまの安全のために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してください。また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシート（ジュニアシート）を使用しているときは、チャイルドシート付属の取扱説明書に従ってシートベルトで固定してください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠警告

- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付け使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートやシートベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。
- チャイルドシートは、お子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でも、ロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または、荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。



⚠警告

SRSサイド エアバッグ装着車

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドアやシート付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

- 標準装備のシートベルトは大人用です。6歳未満のお子さまは、チャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルドシートを使用してください。取り付けはチャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シートベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

👉アドバイス

チャイルドシートをリヤシートに取り付けたときは

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤシートの助手席側に取り付けてください。

(正しい運転姿勢→ 38 ページ)

チャイルドシートを使用しないときは

- チャイルドシートを長時間使用しない場合は、荷室に収納し、しっかりと固定しておくか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

ISO FIX対応ISO FIX 固定バー&テザー アンカーによる固定

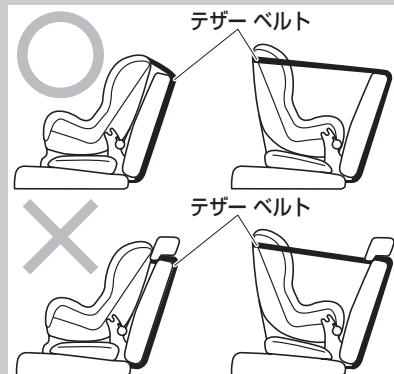
▼ チャイルドシートを取り付ける前に

⚠警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザーアンカー周辺に異物がなく、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどのかみ込みとチャイルドシートが正しく固定されず、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ヘッドレスト装着車

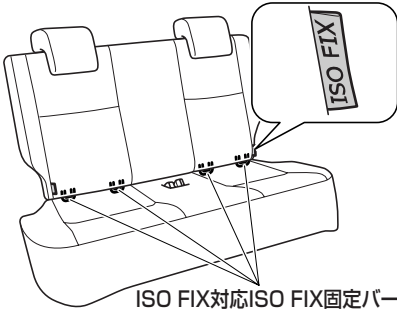
- チャイルドシートを取り付けるときは、リヤシートのヘッドレストを取り外してから、テザーアンカーに固定してください。



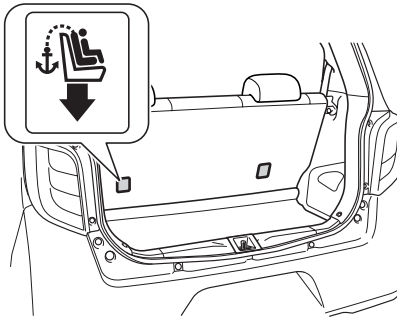


▼ 取り付けかた

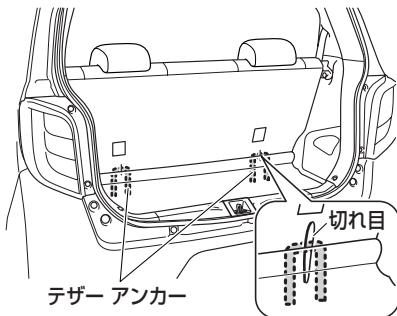
1. ISO FIX対応ISO FIX固定バー & テザーアンカーの位置を確認します。
- 固定バーが装備されていることを示すタグがシートについています。



- テザー アンカーを示すマークが背当て裏側にあります。



- 背当ての切れ目から、テザー アンカーの位置を確認します。



2. ヘッド レスト装着車は、チャイルドシートを取り付けるシートのヘッドレストを取り外します。
3. チャイルド シートのベース シートをISO FIX固定バーに確実に取り付けます。
4. ISO FIXチャイルド シート (テザー式) をチャイルド シートのベースシートに確実に取り付けます。
5. ISO FIXチャイルド シート (テザー式) を上下左右に軽くゆさぶり、ISO FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。
6. ISO FIXチャイルド シート (テザー式) のテザー ベルトのフックをテザー アンカーに確実に引っかけます。
7. ISO FIXチャイルド シート (テザー式) のテザー ベルトがピンと張る (5kg程度) まで強く引っ張って、チャイルド シートの上側を確実に固定します。
8. ISO FIXチャイルド シート (テザー式) のテザー ベルトを軽く引っ張り、テザー アンカーに確実に固定されていることを確認します。
9. チャイルド シートが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。

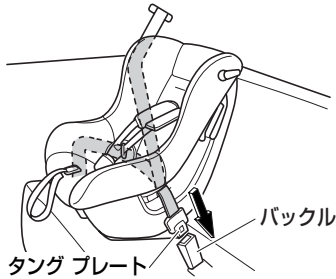


チャイルド シート

シート ベルトによる固定*

▼取り付けかた

1. チャイルド シートをリヤ シートに置きます。
 - ヘッド レスト装着車は、ヘッド レストにチャイルド シートが干渉する場合、ヘッド レストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。
2. シート ベルトのタング プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルド シートの中に通します。



3. バックルの中にタング プレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠注意

- タング プレートを差し込むとき、タング プレートでバックルを無理にこじらないでください。

4. チャイルド シートのロック オフ レバーを開き、肩ベルトをロック オフ レバーの下に通します。
5. チャイルド シートに体重をかけてリヤ シートに押しつけながら、肩ベルトをたるみがなくなるまで巻き取らせませす。
6. チャイルド シートのロック オフ レバーを閉じ、肩ベルトを固定します。
7. チャイルド シートやシート ベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。

⚠注意

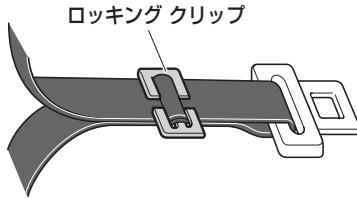
- チャイルド シートを固定したあと、シート ベルトでチャイルド シートがロックされていることを必ず確認してください。万一のとき効果を発揮しないおそれがあります。

* 固定のしかたは代表例です。

また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルド シートの形状とは異なります。



8. チャイルド シートにシート ベルトの固定装置が付いていない場合は、ロックング クリップを使用して固定します。



アドバイス

- ロックング クリップの取り付けは、チャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
また、ロックング クリップの購入については、スバル販売店にご相談ください。

9. チャイルド シートを取り付けたシートの前席位置を調整します。
- 後向きのチャイルド シートを取り付けた場合、チャイルド シートの上端部がフロント シートの背当てに接するようにシートの位置を調整してください。





SRSエアバッグ

SRS*エアバッグ

SRSエアバッグは、車両前方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

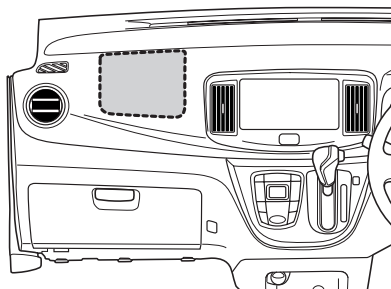
運転席SRSエアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。



助手席SRSエアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。



警告

- シートベルトは必ず着用してください。SRSエアバッグはシートベルトを補助するための装置でシートベルトの代わりではありません。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSエアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
(正しい着用→ 45 ページ)
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSエアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSエアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席SRSエアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメントパネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。

* Supplemental Restraint System（サブリメンタルレストレイントシステム）の略で、乗員保護補助装置の意味です。

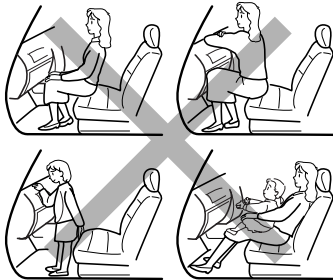




⚠警告

- SRSエアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSエアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- 助手席SRSエアバッグについては必ず下記の注意事項をお守りください。
- シートの前端に座ったり、インストルメント パネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

助手席SRSエアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠警告

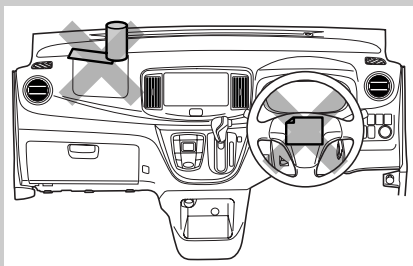
- 助手席に前向きや後ろ向きのチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。





⚠警告

- SRSエアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSエアバッグが作動しないおそれがあります。
- インストルメント パネルの上にジュースや物を置かないでください。SRSエアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



- ステアリング パッド、インストルメント パネルの上などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。

SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- SRSエアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 車両前部にグリル ガードなどを装着する場合は、最寄りのスバル販売店にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、スバル販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。





⚠️注意

- SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。

この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。

また、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。

- 衝突時などに助手席SRSエアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインドウ ガラスが破損することがあります。
- SRSエアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずスバル販売店で交換してください。

⚠️注意

- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。

お客様自身で行うと、SRSエアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ハンドルを取り外すとき
- 車両前部を修理するとき
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパット部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

👉アドバイス

SRSサイド エアバッグ装着車の場合

- SRSエアバッグとSRSサイド エアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、下記のような作動をすることがあります。
- SRSエアバッグのみ作動
- SRSサイド エアバッグのみ作動



作動する場合

SRSエアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。また、同時にプリテンショナー機構も作動します。

走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRSエアバッグが作動することがあります。

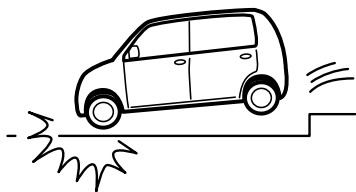
- 高速で縁石などに衝突したとき



- 深い穴や溝に落ち込んだとき



- ジャンプして地面に衝突したとき



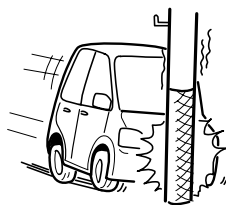
作動しない場合

下記のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

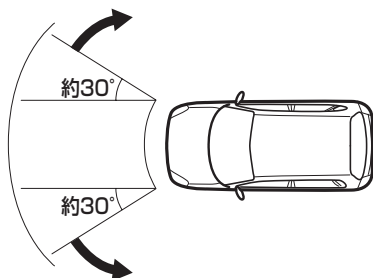
- コンクリートの壁に約 20km/h以下の速度で正面衝突したとき



- 電柱などポール状の物に正面衝突したとき



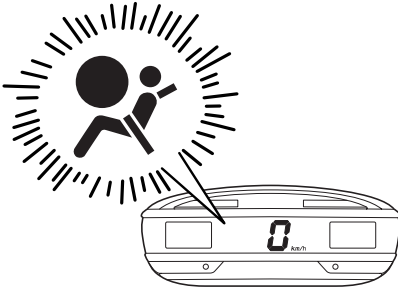
- 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



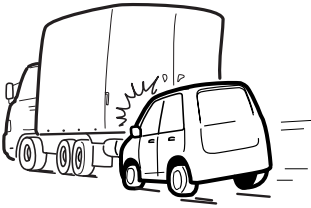


安全装備 SRSエアバッグ

- SRSエアバッグ警告灯点灯時

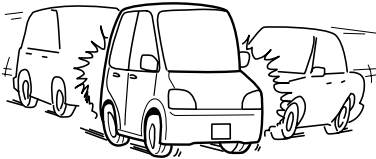


- 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき

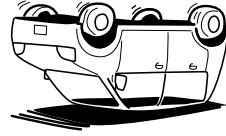


下記のようなときも作動しないことがあり効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき

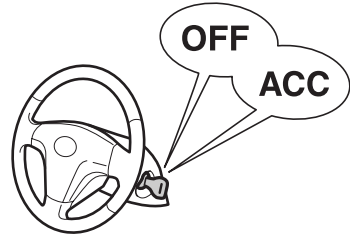


- 車両が横転、転覆したとき



下記のようなときは、SRSエアバッグが作動しません。

- 電源が“OFF”、“ACC”のときに衝突したとき

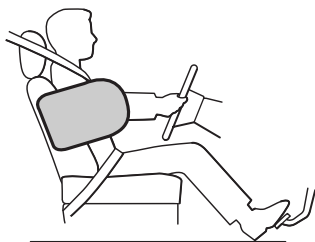




SRS*サイド エアバッグ

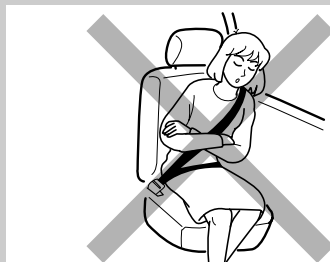
オプション/グレード別装備

SRSサイド エアバッグは、車両側方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみ、シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者や助手席同乗者の胸部や上体への衝撃をやわらげる装置です。



⚠警告

- シート ベルトは必ず着用してください。SRSサイド エアバッグはシートベルトを補助するための装置でシートベルトの代わりではありません。
- シート ベルトを正しく着用してください。シート ベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSサイド エアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
(正しい着用 → 45 ページ)
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSサイド エアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSサイド エアバッグの効果を発揮させることができません。また、ドア近辺にもたれかからないでください。SRSサイド エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



* Supplemental Restraint System (サプリメント レストレイント システム) の略で、乗員保護補助装置の意味です。



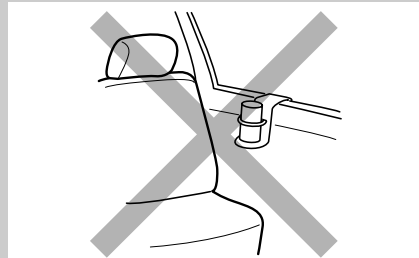


⚠警告

- SRSサイド エアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSサイド エアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- おさまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、チャイルドシートをリヤシートに装着して使用してください。
- SRSサイド エアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けしないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSサイド エアバッグが作動しないおそれがあります。
- フロントシート表皮の張り替えをしたり、フロントシート、センターピラー部を取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ず、スバル販売店にご相談ください。

⚠警告

- フロントシートにSRSサイド エアバッグ専用のスバル指定シートカバー以外は取り付けしないでください。フロントシート側面のSRSサイドエアバッグ展開部をおおうと、SRSサイドエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- ドアやその周辺に専用のスバル指定品以外を取り付けしないでください。SRSサイドエアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRSサイドエアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。





⚠警告

- フロント シート側部などSRSサイドエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRSサイドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRSサイドエアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSサイドエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 無線機の電波などは、SRSサイドエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、スバル販売店にご相談ください。
- SRSサイドエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSサイドエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

⚠注意

- SRSサイドエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、SRSサイドエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- SRSサイドエアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずスバル販売店で交換してください。
- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。
お客様自身で行うと、SRSサイドエアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シート、センターピラー部を取り外すとき
- 車両側部を修理するとき





⚠注意

- 車やSRSサイド エアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRSサイド エアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。



アドバイス

- SRSエアバッグとSRSサイド エアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、下記のような作動することがあります。
 - SRSエアバッグのみ作動
 - SRSサイド エアバッグのみ作動

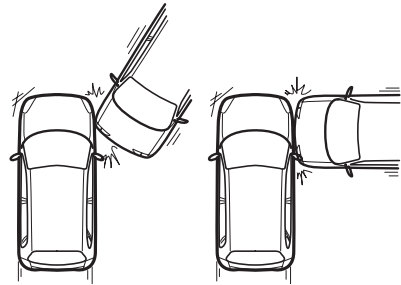
作動する場合

SRSサイド エアバッグは車両側方から強い衝撃を受けたとき作動します。

作動しない場合

下記のような衝撃が弱いときには、作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から、あるいは客室部以外の側面に衝突されたとき





SRSエアバッグ警告灯

メーター内に警告されます。



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
(SRSエアバッグ→ 63 ページ)
- SRSサイド エアバッグ
(オプション/グレード別装備)
(SRSサイド エアバッグ
→ 69 ページ)
- プリテンショナー機構
(プリテンショナー機構
→ 49 ページ)

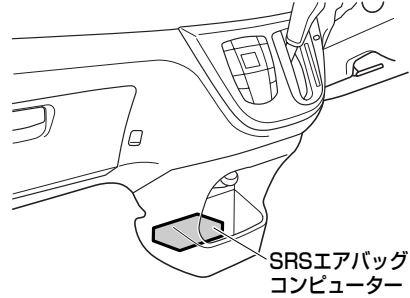
⚠注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

SRSエアバッグ コンピューター

SRSエアバッグを制御する装置です。



⚠注意

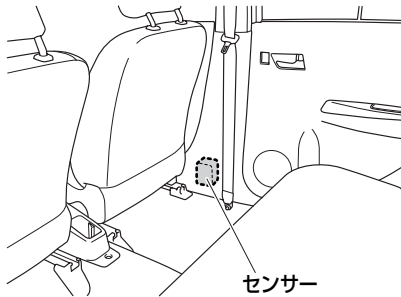
- SRSエアバッグ コンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
SRSエアバッグ、SRSサイド エアバッグ（オプション/グレード別装備）が誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSエアバッグ コンピューターには、水、ジュースなどをかけないように注意してください。
- SRSエアバッグ コンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRSエアバッグが一度作動すると再使用できません。スバル販売店で交換してください。



SRSサイド エアバッグ センサー

オプション/グレード別装備

SRSサイド エアバッグ センサーはフロント シート付近の車体左右両側に取り付けられています。



⚠注意

- SRSサイド エアバッグ センサーは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
SRSサイド エアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSサイド エアバッグ センサーおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。



ABS

ABS* (EBD機能付)

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABSは、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution (電子制動力配分制御) の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

△注意

- ABSを過信しないでください。ABSが作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 下記の場合などにはABSの付いていない車両に比べ、制動距離が長くなる場合があります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
 - 砂利道、新雪路を走行しているとき
 - タイヤ チェーンを装着しているとき
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
 - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
 - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

*ABSは、Anti-lock Brake System (アンチロック ブレーキ システム) の略です。



アドバイス

- 低速（約 10km/h以下）では、ABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- 電源を“ON”にすると、メーター内のABS警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン始動後にABS警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、スバル販売店で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジン ルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。
- 走行中にABS警告灯が点灯した場合、通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。
- ABSの作動中および作動後は、ブレーキ ペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABSが正常に作動しているときは、ブレーキ ペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むとABSが作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキ ペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめるとABSが効果を発揮できません。

アドバイス

- 急ブレーキ時にポンピング ブレーキ*はしないでください。ポンピング ブレーキをすると制動距離が長くなります。

* ブレーキ ペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけかた

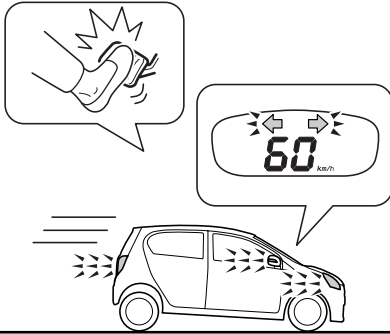


エマージェンシー ストップ シグナル

エマージェンシー ストップ シグナル

エマージェンシー ストップ シグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを、非常点滅灯が自動で高速点滅することで後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させるシステムです。

- 約 60km/h以上で走行しているときに、急ブレーキをかけると作動します。



⚠注意

- エマージェンシー ストップ シグナルは、追突される可能性を低減させるシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。
- 運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

○エマージェンシー ストップ シグナルの作動条件について

エマージェンシー ストップ シグナルは、自車が下記の条件を全て満たしたときに作動します。

- 非常点滅灯スイッチが“OFF”
- 約 60km/h以上で走行中
- ブレーキ ペダルを踏み、急減速した、またはABSが作動した

⚠注意

- ABS警告灯、またはVSC&TRC警告灯が点灯しているときは、エマージェンシー ストップ シグナルが作動しないことがあります。

○エマージェンシー ストップ シグナルの作動停止について

エマージェンシー ストップ シグナルは、下記のいずれかのとき作動が停止します。

- 非常点滅灯スイッチを“ON”にした
- ブレーキ ペダルから足を離れた
- 急減速でなくなった
- ABSが作動停止した

VDC&TRC

オプション/グレード別装備

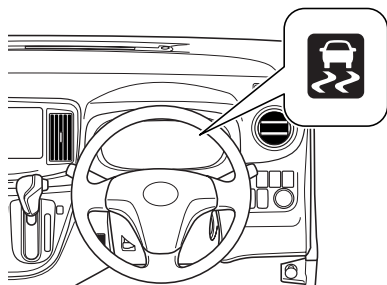
VDC* (ビークル ダイナミクス コントロール)

VDCは、急激なハンドル操作や、滑りやすい路面での旋回時の横滑りなどを抑制するために、自動的にブレーキを制御して、車両の安定性を確保しようとするシステムです。

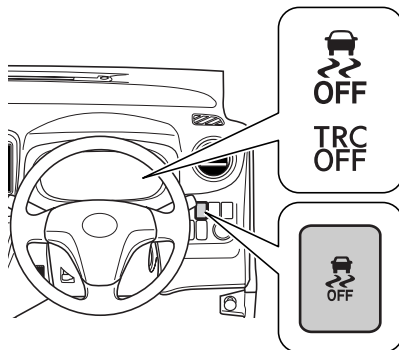
また緊急制動時など、ブレーキペダルが強く踏めずブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ブレーキ力を増強するブレーキアシストを備えています。

- VDCが作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。

(VDC作動表示灯→ 83 ページ)



- VDC&TRC OFFスイッチを 3 秒以上押して、メーター内のVDC OFF表示灯とTRC OFF表示灯が点灯しているときは、VDC (TRCを含む) は作動しません。(VDC&TRC OFFスイッチ→ 84 ページ)



- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

(タイヤの点検→ 330 ページ)

* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control (ビークルダイナミクスコントロール) の略です。

⚠警告

- VDCを過信しないでください。VDCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、VDC作動表示灯が点滅したときは、特に慎重に運転してください。

(VDC作動表示灯→ 83 ページ)

⚠注意

- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着するとVDCが正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤ チェーンを装着したときなどにはVDCが正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

👉アドバイス

- VDCは、車速が約 15km/hを超えると作動するようになります。
- VDC（TRCを含む）は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジン ルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

ブレーキ アシストについて

- VDCの“ON”・“OFF”に関わらず、緊急制動時などに作動します。
- ブレーキ ペダルを急速度で踏んだときに、ブレーキ アシストが作動してブレーキが強くなり、作動音とともにブレーキ ペダルが小刻みに動くことがあります。異常ではありません。





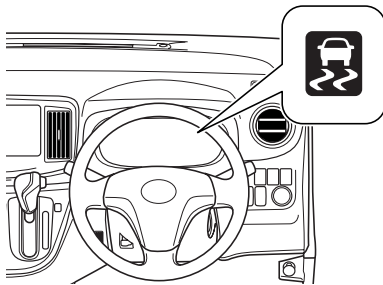
TRC*

○TRCのはたらき

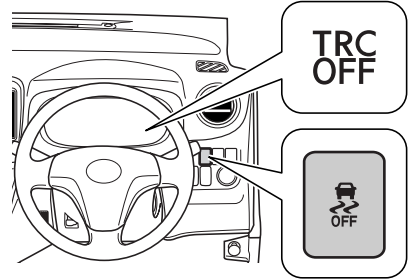
滑りやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生じる駆動輪のホイール スピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

- 車輪がスリップし始めると、車輪速センサーからの情報で、コンピューターがスリップを感知し、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを抑制します。
- TRCが作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。このとき、車両の振動を感じる場合がありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

(VDC作動表示灯→ 83 ページ)



- VDC&TRC OFFスイッチを押して、メーター内のTRC OFF表示灯が点灯しているときは、TRCは作動しません。(VDC&TRC OFFスイッチ→ 84 ページ)



- めかるみや新雪路でのスタックからの脱出時などは、TRCが作動していると脱出ににくい場合があります。この場合、VDC&TRC OFFスイッチを操作することで、TRCを停止することができます。

(スタック (立ち往生)

したとき→ 282 ページ)

○TRCのしくみ

タイヤのスリップは4輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号が他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけ、スリップを抑制します。

* TRCは、Traction Control (トラクションコントロール) の略です。



○TRCとタイヤの関係

TRCは、車輪に付いているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4輪の中で1輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方が変わり、コンピューターがスリップと判断します。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

(タイヤの点検→ 330 ページ)

⚠警告

- TRCを過信しないでください。TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、VDC作動表示灯が点滅したときは、特に慎重に運転してください。

(VDC作動表示灯→ 83 ページ)

⚠注意

- タイヤは4輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着するとTRCが正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどにはTRCが正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

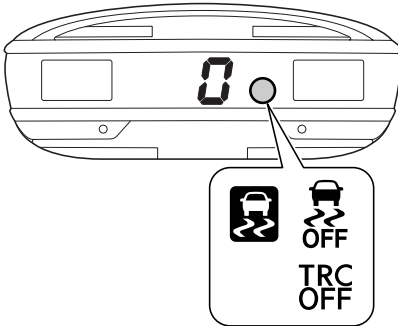
👉アドバイス

- TRCは、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。





メーター表示



VDC* & TRC警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。
 - ・VDC
 - ・TRC

⚠注意

点灯した場合

- 通常走行に支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

点滅した場合

- VDC、またはTRCが作動しています。
(VDC作動表示灯→ 170 ページ)

* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control（ビークルダイナミクスコントロール）の略です。

VDC*作動表示灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムが作動した場合に点滅します。
 - ・VDC
 - ・TRC

⚠注意

- 電源を“ON”にしても点灯しないとき、または点灯したままの場合は、システムの異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
(VDC&TRC警告灯→ 178 ページ)
- VDC作動表示灯が点滅した場合は、VDC、またはTRCが作動していますので特に慎重に運転してください。

VDC OFF表示灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VDC&TRC OFFスイッチを 3 秒以上押すと、VDC (TRCを含む) が作動停止状態となり点灯します。
(VDC&TRC OFFスイッチ→ 84 ページ)

TRC OFF表示灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VDC&TRC OFFスイッチを押すと、TRCが作動停止状態となり点灯します。
(VDC&TRC OFFスイッチ→ 84 ページ)

* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control (ビークルダイナミクス コントロール) の略です。



VDC* & TRC OFFスイッチ

VDCやTRCは新雪路、深雪路、砂地等からの脱出には適さない場合があります。このようなときはVDC&TRC OFFスイッチを押してVDCとTRCを“OFF”にします。

⚠警告

- VDCやTRCは自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外はVDCやTRCを作動停止状態にしないでください。VDCやTRCを作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。



アドバイス

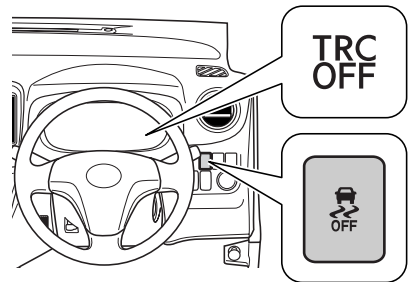
- VDCやTRCを作動停止にした場合でも、エンジンを始動するたびに自動的にVDCとTRCは作動可能状態に戻ります。
- TRCのみ作動を停止している場合は、車速が高くなるとTRCは作動を再開します。ただし、VDCとTRCの作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

○ TRCを“OFF”にする場合

▼操作方法

電源が“ON”のとき、VDC&TRC OFFスイッチを押すとTRCが“OFF”になり、メーター内のTRC OFF表示灯が点灯します。

作動可能状態に戻すときは、スイッチをもう一度押してください。TRC OFF表示灯が消灯します。



* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control（ビークルダイナミクスコントロール）の略です。

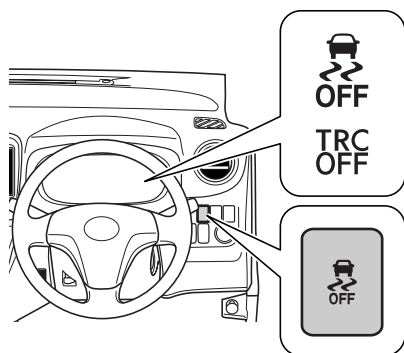


○ TRCとVDCを“OFF”にする場合

▼ 操作方法

電源が“ON”で車両が停止しているとき、VDC&TRC OFFスイッチを3秒以上押し、VDC（TRCを含む）が“OFF”になり、メーター内のTRC OFF表示灯とVDC OFF表示灯が点灯します。

作動可能状態に戻すときは、スイッチをもう一度押してください。TRC OFF表示灯とVDC OFF表示灯が消灯します。





スマートアシスト

オプション/グレード別装備

スマートアシスト*

スマートアシストは以下の機能とVDC&TRCによって、運転者の判断を補助し、事故被害を軽減することを目的としたシステムです。

- 低速域衝突回避支援ブレーキ機能
- 誤発進抑制制御機能
- 先行車発進お知らせ機能

スマートアシストは、レーザー レーダーにより、前方の車両や障害物などを認識します。

(VDC&TRC→ 78 ページ)

⚠警告

- 運転者には通常の安全運転の責任、義務があります。運転時は常に先行車との車間距離や、周囲の状況、運転環境に注意して必要に応じてブレーキペダルを踏むなど、安全運転に努めてください。
- スマートアシストに頼った運転は、絶対に行わないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スマートアシストは、運転者の判断を補助し、事故被害の軽減を目的としています。衝突警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。
- わき見運転やぼんやり運転など運転者の前方不注意を防止したり、悪天候時の視界不良下での運転を支援する装置ではありません。
- スマートアシストは、あらゆる状況で衝突を軽減したり、作動したりするものではありません。

* 「スマートアシスト」はダイハツ工業株式会社の商標です。



⚠️警告

- スマートアシストの認識性能・制御性能には限界があります。低速域衝突回避支援ブレーキ機能、誤発進抑制制御機能の警告を必ず参照の上、正しくご使用ください。誤った使用をすると、適切に制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 以下の状況ではシステムは正しく動作しません。スマートアシストを“OFF”にしてください。
(スマートアシストOFFスイッチ → 104 ページ)
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- スペア タイヤやタイヤ チェーンを装着しているとき
- 磨耗したタイヤ、磨耗差の激しいタイヤを装着しているとき
- 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- サスペンションを改造したとき
- 事故にあったときや故障したとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき
- 重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 定員を超えているとき

⚠️注意

- 以下のようなときは、前方の車両や障害物を認識しづらくなり、状況によってはスマートアシストの認識性能が下がる場合や一時停止（機能低下）状態になる場合があります。
- 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など）や、フロント ワイパーが“LO”または“H”のとき
- 西日などの前方からの強い光をうけたとき
- レーザー レーダー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
- レーザー レーダーの温度が極端に高いとき
- エンジン始動直後
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 前方車などの水、雪などの巻上げ
- 水蒸気、砂、煙など視界が十分でないとき
- キャリア カーやゴミ収集車などの特殊車両や、形状が壁状でない車両や黒い車両
- 網目の大きいフェンス、ガラスなど、光をすり抜けるもの
- 汚れなどで、両方のリフレクタが十分見えていない前方車
- 大型車など地上高が高く、リフレクタの取り付け位置が高い車両
- でこぼこ道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
- 道路標識やポールなどの細い棒状のもの
- 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき

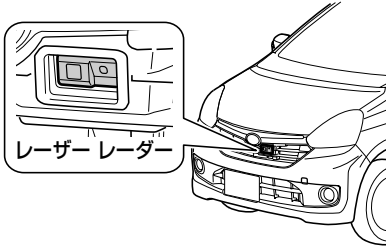




レーザー レーダー

レーザー レーダーは、以下の機能で共用しています。

- 低速域衝突回避支援ブレーキ機能
- 誤発進抑制制御機能
- 先行車発進お知らせ機能



⚠注意

- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、すべての機能が自動的に解除されます。

⚠注意

- レーザー レーダーは精密部品です。正しい作動のために、次のことをお守りください。
- レーザー レーダーを清掃する際は、やわらかい布などを使用して傷付けないようにしてください。
- レーザー レーダーにウォッシュ液やオイルが付着した場合は、すみやかに拭き取ってください。
- レーザー レーダーに撥水剤などを塗らないでください。
- レーザー レーダー周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
- レーザー レーダー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。
- レーザー レーダーを取り外したり、分解したりしないでください。
- レーザー レーダーの取付位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。
- レーザー レーダーにステッカーを貼ったりしないでください。
- バンパーを交換・修理する場合は、スバル販売店にご相談ください。
- フロント バンパー部分に腰掛けたり、寄りかかったりしないでください。
- 事故などで万が一バンパーが外れるようなことがあった場合には、スバル販売店にご連絡ください。
- レーザー レーダーにある調整ネジを回さないでください。
- レーザー レーダーをのぞきこまないでください。

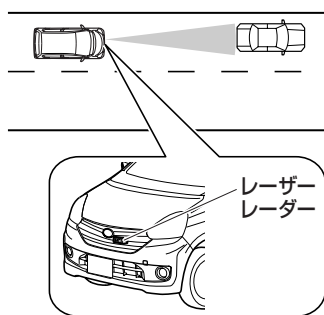


低速域衝突回避支援ブレーキ機能

車速が約 4 km/h～約 30km/hで走行中に、前方約 20m以内の障害物をレーザーレーダーで認識して、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

運転者の回避操作がなく、前方障害物を車両と認識したときは、衝突の直前で緊急ブレーキが作動し、衝突の被害を軽減します。

また、自車と前方車との速度差が約 20km/hより低いときは、衝突を回避できる場合があります。



⚠警告

- 低速域衝突回避支援ブレーキ機能を、日常の車両停止のためには絶対に使用しないでください。低速域衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避するものではありません。ブレーキの作動を低速域衝突回避支援ブレーキ機能に頼っていると、衝突事故を起こす場合があります。
- 衝突警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。

⚠警告

- 安全のため、お客様ご自身で低速域衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 低速域衝突回避支援ブレーキ機能は、主に前方車に作動します。ただし、二輪車や歩行者、電柱、壁などに対しても、作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 低速域衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突が避けられないと判断した段階で作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますので、その効果は様々な条件により変わります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。
- 緊急ブレーキが作動したとき、アクセル操作をしても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルを全開に踏みこむと緊急ブレーキを解除します。
- 運転者がブレーキペダルを踏んだり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、緊急ブレーキが作動しない場合があります。
- 車速が約 30km/h以内であっても、前方車との速度差が約 20km/hを超える場合、スマートアシストの性能限界から衝突を回避することはできません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、緊急ブレーキが作動したときに危険な場合があります。

(シートベルト→ 45 ページ)





○低速域衝突回避支援ブレーキ機能の作動条件について

この機能は、自車が以下の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- 車両電源が“ON”
- スマートアシストOFF表示灯が消灯
- “レーダー停止”、“レーダー故障”が消灯
- セレクト レバーの位置がP、Rレンジ以外
- 車速約 4km/h～約 30km/h
- フロント ワイパーが“LO”、“HI”以外

⚠警告

以下の条件では、止まりきれないことや作動しないことがあります。

- 前方車との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（オフセット量）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凸凹など）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの磨耗、空気圧、スペア タイヤなど）
- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- 対向車が自車に向かって接近したとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき

⚠警告

- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水溜り走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- レーザー レーダーの認識状態（特に以下のような場合）
 - 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など）
 - 西日などの前方からの強い光を受けたとき
 - レーザー レーダー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
 - レーザーレーダーの温度が極端に高いとき
- エンジン始動直後
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 前方車などの水、雪などの巻き上げ
- 水蒸気、砂、煙など視界が十分でないとき
- キャリア カーやゴミ収集車などの特殊車両や、形状が壁状でない車両や黒い車両
- 網目の大きいフェンス、ガラスなど、光をすり抜けるもの
- 汚れなどで、両方のリフレクタが十分見えていない前方車
- 大型車など地上高が高く、リフレクタの取り付け位置が高い車両
- でこぼこ道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
- 道路標識やポールなどの細い棒状のもの
- 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
- 前方車が急ハンドル、急加速、急減速したとき



⚠️警告

- 自車が車線変更して前方車のすぐ後ろに接近したとき
- 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
- レーザー レーダーの認識エリア外に障害物が存在するとき
- 前方車両に非常に小さい速度差で接近するとき
- 前方車両や二輪車などが横や斜めを向いているとき
- 非常に大きなリフレクタのついた、停止している大型車両
- 非常に大きなリフレクタの隣に車両が停止しているとき

⚠️注意

- 次のような場合はシステムが予期しない作動をする可能性がありますので、必ずスマートアシストを“OFF”してください。
(スマートアシストOFFスイッチ → 104 ページ)
- 牽引されるとき
- キャリア カーに積載するとき
- シャシー ダイナモ メーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフト アップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
- 草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 次のような場合はシステムが作動することがありますので、安全運転に努めてください。
 - ETCゲートなどを通過するとき
 - 前方車に接近して走行するときや、前方車ぎりぎりに接近して停止するとき
 - 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
 - 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
 - ビニール カーテン、旗などをもぐって通過するとき
 - 前方車などの水、雪などの巻上げ
 - 停止車両などの横すれすれを通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
 - 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
 - 路面上に大きな反射物がある場合
 - カーブの入口に路側物があるとき
 - カーブですれ違う対向車両があるとき





アドバイス

- 次のような場合はシステムが作動しません。
- エンジン始動直後
- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”しているとき
- スマートアシストOFF表示灯が点灯しているとき
- “レーダー故障”が点灯しているとき（システム異常）
- “レーダー停止”が点灯しているとき（機能低下）
- 緊急ブレーキ中に音が聞こえることがあります。制御によるものであり異常ではありません。
- 緊急ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがあります。異常ではありません。

低速域衝突回避支援ブレーキ機能の作動について

車速が約 4 km/h～約 30km/hで走行中に、前方約 20m以内の障害物をレーザーレーダーで認識すると、①～③の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

- システム作動中は、メーター表示とブザー音で運転者に注意喚起します。
- ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。



①衝突警報

前方障害物に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザー音とメーター表示で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

- ・ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとるとブレーキ制御を行いません。

②1次ブレーキ

前方車両に対し、衝突の危険性が高いと判断したときに、ブザー音を変化させブレーキ制御を行います。

- ・運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

③2次ブレーキ

前方車両に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

- ・停止後にブザーが吹鳴し、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続した後、ブレーキ制御を解除します。（停止保持）

⚠️注意

- 停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリープ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

	①衝突警報	②1次ブレーキ	③2次ブレーキ	(停止保持)
衝突の危険性	危険性がある	危険性が高い	危険性が非常に高い	—
緊急ブレーキの強さ	ブレーキ制御なし	弱い	強い	停止後、最長約1.5秒後に解除
ブザー音	ピピピッ	ピピピピピ...		ピピピピ...*
スマートアシスト作動灯	点滅			点滅*
スマートアシスト警告灯	消灯	点灯		消灯

*：運転者操作で終了

👉アドバイス

- 状況によっては、1次ブレーキや2次ブレーキから作動することがあります。



低速域衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にするとき

スマートアシストOFFスイッチを操作することで、低速域衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にすることができます。

同時に以下の機能も“OFF”になります。

- 誤発進抑制制御機能
- 先行車発進お知らせ機能

(スマートアシストOFFスイッチ

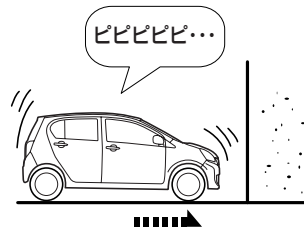
→ 104 ページ)

👉 アドバイス

- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしても、車両の電源を“ON”するたびに、システムは“ON”に戻ります。

誤発進抑制制御機能

誤発進抑制制御機能は、前方約 4m以内に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセル ペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、運転者への警報とエンジン出力の抑制制御を行い、発進をゆるやかにすることで、衝突時の被害を軽減します。



車速が約 4km/h以下で、アクセル ペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザー音とメーター表示で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

車速が約 10km/h以下で、アクセル ペダルをすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザー音とメーター表示で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

- エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約 8秒間継続します。

(ブザー音→ 103 ページ)



⚠警告

- 誤発進抑制制御機能を過信しないでください。誤発進抑制制御機能は衝突を回避するものではありません。発進時はセレクト レバーやペダルの位置および周囲の安全を充分に確認して操作してください。誤発進抑制制御機能に頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進抑制制御機能は停止状態を保つものではありません。
- 誤発進抑制制御機能はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。また、衝突を回避するものではありません。
- 誤発進抑制制御機能は前方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセル ペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を誤発進抑制制御機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。

⚠警告

- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、レーザー レーダーが遮断機を対象物と認識し、誤発進抑制制御機能が作動することがあります。遮断機を押しつけて進む場合は、慌てずにアクセル ペダルを踏み続けるか、スマートアシストを“OFF”にしてください。
(スマートアシストOFFスイッチ → 104 ページ)
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、誤発進抑制制御機能が作動しない場合があります。
- TRCを“OFF”またはVDC&TRCを“OFF”にした場合、誤発進抑制制御機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセル ペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏みなおすと、誤発進抑制制御機能は作動しません。





○誤発進抑制制御機能の作動条件について

この機能は、自車が以下の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- エンジン回転中
- スマートアシストOFF表示灯が消灯
- “レーダー停止”、“レーダー故障”が消灯
- セレクト レバーの位置が[D]、[S]、[B]レンジ
- ブレーキ ペダルを踏んでいない
- 車速が0～約 10km/h
- フロント ワイパーが“LO”、“HI”以外
- TRC OFF表示灯、VDC OFF表示灯が消灯

⚠警告

以下の条件の違いにより作動しないことがあります。

- 前方車との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（オフセット量）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、凸凹など）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの磨耗、空気圧、スペア タイヤなど）
- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し

⚠警告

- レーザー レーダーの認識状態（特に以下のような場合）
 - 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など）
 - 西日などの前方からの強い光を受けたとき
 - レーザー レーダー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
 - レーザー レーダーの温度が極端に高いとき
 - エンジン始動直後
 - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - 前方車などの水、雪などの巻上げ
 - 水蒸気、砂、煙など視界が十分でないとき
 - 網目の大きいフェンス、ガラスなど、光をすり抜けるもの
 - でこぼこ道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
 - 道路標識やポールなどの細い棒状のもの
 - 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
 - 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
 - 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
 - レーザー レーダーの認識エリア外に障害物が存在するとき
 - 障害物の高さが低いとき（縁石など）
 - 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
 - 障害物に接近しすぎたとき



⚠️注意

- 次のような場合は誤発進抑制制御が予期しない作動をする可能性があるため、スマートアシストを“OFF”してください。

(スマートアシストOFFスイッチ
→ 104 ページ)

- 牽引されるとき
- キャリア カーに積載するとき
- シャシー ダイナモ メーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフト アップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
- 草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき

⚠️注意

- 次のような場合は誤発進抑制制御が作動することがありますので、安全運転に努めてください。
- 前方車に接近して走行するときや、前方車や壁ぎりぎりに接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニール カーテン、旗などをもぐって通過するとき
- 前方車などの水、雪などの巻上げ
- 停止車両などの横すれすれを通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きな反射物がある場合
- カーブの入口に路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車両があるとき
- カーブや交差点に障害物があるとき
- 縦列駐車から本線に合流するとき

👉アドバイス

- 次のような場合はシステムが作動しません。
- エンジン始動直後
- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”しているとき
- スマートアシストOFF表示灯が点灯しているとき
- “レーダー故障” が点灯しているとき (システム異常)
- “レーダー停止” が点灯しているとき (機能低下)





誤発進抑制制御機能を “OFF” にするとき

スマートアシストOFFスイッチを操作することで、誤発進抑制制御機能を“OFF”にすることができます。

同時に以下の機能も“OFF”になります。

- 低速域衝突回避支援ブレーキ機能
- 先行車発進お知らせ機能

(スマートアシストOFFスイッチ

→ 104 ページ)



アドバイス

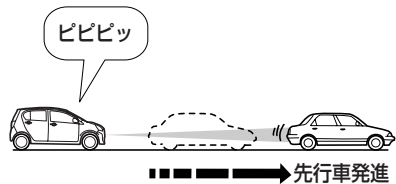
- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしても、車両の電源を“ON”するたびに、システムは“ON”に戻ります。

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザー音とメーター表示で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車（車間距離が約 10m 以内、かつ自車がしばらく停車）、先行車が発進して約 3m以上進んでも自車が発進しないときに作動します。

(ブザー音→ 103 ページ)



△注意

- 先行車発進お知らせ機能は、安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。
先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。



○ 先行車発進お知らせ機能の 作動条件について

この機能は、自車が以下の条件を全て満たしたときに作動可能となります。

- 車両電源が“ON”
- スマートアシストOFF表示灯が消灯
- “レーダー停止”、“レーダー故障”が消灯
- セレクト レバーの位置が[D]、[S]、[B]レンジでブレーキペダルを踏んでいる、または[N]レンジ
- 停止してから数秒経過
- フロントワイパーが“LO”、“HI”以外

👉 アドバイス

- 次のような場合、先行車が発進していても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。
- 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
- 天候や道路形状などにより先行車を認識出来ないとき
- 先行車を見失ったとき
- セレクト レバーが[D]、[S]、[B]レンジで、ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 先行車との横位置がずれていた場合（オフセット量）
- 自車が停止した時に先行車が動いている場合
- 先行車が急発進や急旋回した場合

👉 アドバイス

- 先行車がキャリア カーやゴミ収集車などの特殊車両や、形状が壁状でない車両や黒い車両
- 汚れなどで、両方のリフレクタが十分見えていない先行車
- 大型車など地上高が高く、リフレクタの取り付け位置が高い先行車
- でこぼこ道やオフロードなどの悪路を走行しているとき

先行車発進お知らせ機能を “OFF” にするとき

スマートアシストOFFスイッチを操作することで、先行車発進お知らせ機能を“OFF”にすることができます。

同時に以下の機能も“OFF”になります。

- 低速域衝突回避支援ブレーキ機能
- 誤発進抑制制御機能

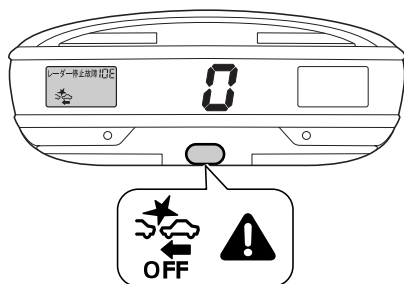
（スマートアシストOFFスイッチ
→ 104 ページ）

👉 アドバイス

- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしても、車両の電源を“ON”するたびに、システムは“ON”に戻ります。



メーター表示



スマートアシスト警告灯



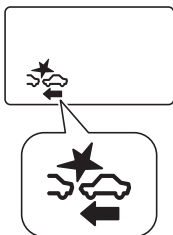
- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記の場合に点灯します。
 - ・スマートアシストに異常があるとき
 - ・低速域衝突回避支援ブレーキ機能の一次ブレーキ、二次ブレーキが作動したとき
 - ・誤発進抑制制御が作動したとき

⚠注意

- 同時に、スマートアシストOFF表示灯と“レーダー故障”が点灯したときは、スマートアシストは作動しません。
通常走行に支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。



スマートアシスト作動灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記の機能が作動したときに点滅します。
 - ・低速域衝突回避支援ブレーキ機能
 - ・誤発進抑制制御機能
 - ・先行車発進お知らせ機能

レーダー “故障” 表示

レーダー 故障

- 電源が“ON”で、スマートアシストに異常があると点灯します。

⚠注意

- “レーダー故障”が点灯したときは、スマートアシストは作動しません。通常走行に支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

スマートアシストOFF表示灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記の場合に点灯します。
 - ・スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”したとき
 - ・スマートアシストに異常があるとき
(スマートアシストOFFスイッチ
→ 104 ページ)



レーダー “停止” 表示

レーダー停止 10E

- 電源が“ON”で、スマートアシストの機能が低下したときに、“レーダー停止”と機能低下コードが点灯します。

📞 アドバイス

- “レーダー停止”が点灯したときは、スマートアシストは作動しません。機能低下コードごとに適切な処置を行ってください。

○機能低下コード

機能低下コード	原因	処置
10E	レーザーレーダーの窓部が汚れている	センサー窓部を清掃し、原因状態が解消されると、復帰します。
11E	ワイパーを“LO”または“HI”で作動している	原因状態が解消されると、復帰します。
	西日などの前方からの強い光を受けている	
	悪天候(強い雨、吹雪、濃霧など)のとき	
12E	レーザーレーダー内が高温になった	原因状態が解消されると、復帰します。
	エンジン始動後、2次ブレーキが3回作動した	安全な場所に停車し、電源を“OFF”にした後、再度電源を“ON”にしてください。
14E	バッテリーとの接続が絶たれた	バッテリーとの接続が回復し、しばらく走行すると、復帰します。

⚠️注意

- 処置をしても、機能低下コードが表示されたままのときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

📞 アドバイス

- 機能低下コード「10E」「11E」は、車速が上がると消灯します。



ブザー音

スマートアシストの状態に応じて、メーター表示とともにブザーが吹鳴します。

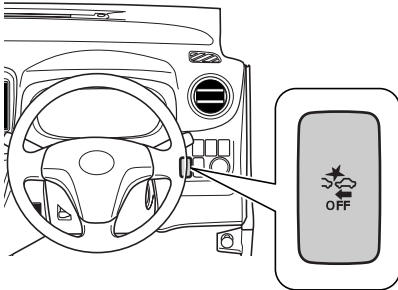
	インジケーター			液晶部		ブザー音	
	スマートアシスト警告灯	スマートアシストOFF表示灯	スマートアシスト作動灯	レーダー故障表示	レーダー停止表示		
				レーダー 故障	レーダー停止		
スマートアシストOFFスイッチでの停止時	—	点灯	—	—	—	ピピピッ	
システム異常時	点灯	点灯	—	点灯	—	—	
機能低下時	—	—	—	—	点灯	—	
低速支援ブレーキ機能 衝突回避	衝突警報	—	—	点滅	—	—	ピピピッ
	1次ブレーキ	点灯	—	点滅	—	—	ピピピピピ...
	2次ブレーキ	点灯	—	点滅	—	—	ピピピピピ...
	停止保持	—	—	点滅	—	—	ピピピッ...
誤発進抑制制御機能	警報	—	—	点滅	—	—	ピピピッ
	制御	点灯	—	点滅	—	—	ピピピピピ...
先行車発進お知らせ機能	—	—	点滅	—	—	ピピピッ	



スマートアシストOFF スイッチ

スマートアシストの以下の機能を停止することができます。

- 低速域衝突回避支援ブレーキ機能
- 誤発進抑制制御機能
- 先行車発進お知らせ機能



電源が“ON”のとき、スマートアシストOFFスイッチを約2秒以上押し続けると、システムが“OFF”になります。

- メーター内のスマートアシストOFF表示灯が点灯し、ブザーが吹鳴します。

“ON（作動可能状態）”に戻すときは、再度スイッチを押し続けます。

- メーター内のスマートアシストOFF表示灯が消灯し、ブザーが吹鳴します。



アドバイス

- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしても、車両の電源を“ON”するたびに、システムは“ON”に戻ります。

A series of horizontal dotted lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.



車を運転する前に

車を運転する前に必要な各部の開閉、調整、点検
について説明しています。

■ 車体各部の開閉

キー	108
電波式リモコン ドア ロック	110
キーレス アクセス	112
ドアの開閉	122
盗難警報装置	127
リヤ ゲート	131
ボンネット	135
フューエル リッド	137
パワー ウィンドウ	140

■ 車体各部の調整

ルーム ミラー	145
ドア ミラー	145
電動格納式ヒーター ドア ミラー	149
チルト ステアリング	150



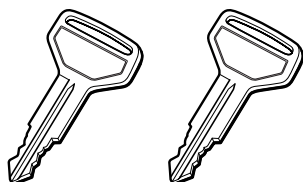
車を運転する前に 車体各部の開閉

車体各部の開閉

キー

キーはエンジンの始動や停止のほか、ドアの施錠、解錠など車を操作するためにはなくてはならない物です。大切に管理してください。

電波式リモコン ドア ロック、 キーレス アクセス装着車以外



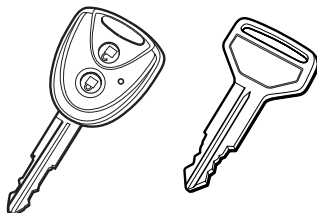
アドバイス

- 1枚はスペア キーとして、いざという時のために予備として使用してください。

電波式リモコン ドア ロック 装着車

メインキー

スペアキー



アドバイス

- スペア キーは、いざという時のために予備として使用してください。
- メイン キーは 4 枚まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはスバル販売店にご相談ください。

メイン キーの取り扱い

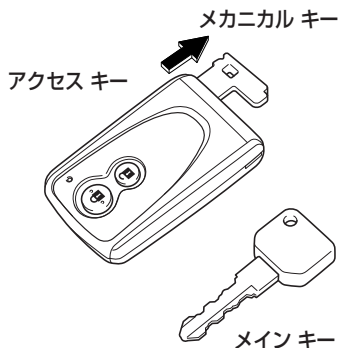
- メイン キーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
 - 直射日光や高温下に放置しない
 - 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
 - 水にぬらしたり、ゴミ、ほこりなどが入らないようにする

航空機に乗るときは

- 航空機にメイン キーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

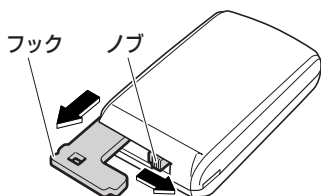


キーレス アクセス装着車



○メカニカルキー の取り出しかた

アクセスキーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、アクセスキーから、メカニカルキーのフック部を引いて取り出します。



アドバイス

- メカニカルキーは必ずアクセスキーに格納し、メインキーは、大切に保管しておいてください。アクセスキーは電池の消耗などにより、突然使用できなくなることがあります。
- アクセスキーとメインキーはそれぞれ最大4枚（合わせて8枚）まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはスバル販売店にご相談ください。

キーの取り扱い

- アクセスキー・メインキーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因になりますので、下記のことを守り、取り扱いには注意してください。
- アクセスキーをズボンなどの後ろポケットに入れない
- 直射日光や高温下に放置しない
- 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
- 水にぬらさない
- 分解をしない
- 超音波洗浄機などにかけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない

航空機に乗るときは

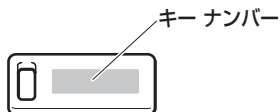
- 航空機にアクセスキーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。



車を運転する前に 車体各部の開閉

キー ナンバー プレート

お客様以外にキー ナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキー ナンバーを打刻してあります。



- プレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一キーを紛失したときは、キー ナンバーをスバル販売店にご連絡いただければ、指定キーを作ることができます。

電波式リモコン ドア ロック

オプション/グレード別装備

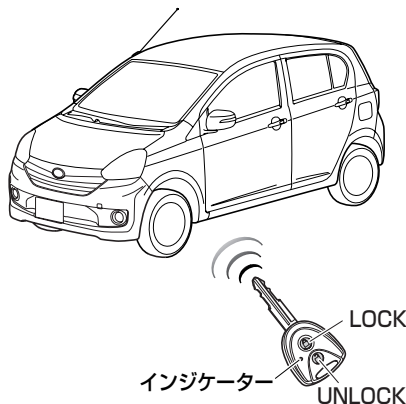
メイン キーのボタンを押すことで、ドアの施錠、解錠ができます。

▼操作方法

ドアが施錠された状態で、メイン キーの“UNLOCK” ボタンを押すと、すべてのドアは解錠されます。

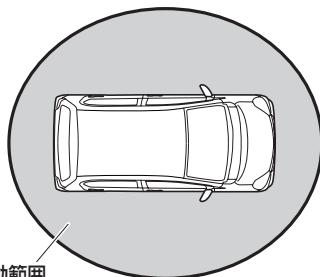
“LOCK” ボタンを押すと、すべてのドアは施錠されます。

- ボタンを押すと、キーのインジケータが1回点滅します。



▼作動範囲

車両中心から周囲約3m以内です。



作動範囲
車両中心から周囲約3m以内



👉 アドバイス

- 車を離れるときは、ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- メイン キーのボタンは、凸側が“LOCK”、凹側が“UNLOCK”になっています。

施錠、解錠ができない状況

- キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれているとき
- いずれかのドアが開いているとき

施錠、解錠ができないおそれのある状況

- メイン キーと車両中心の距離が約 3m 以上離れているとき
- 近くにTV塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき

電池の消耗について

- メイン キーの電池寿命は、1 日 10 回乗降時で約 2 年です。
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

(キーの電池交換→ 341 ページ)

自動ロック機能

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

作動完了の確認方法

非常点滅灯と室内照明により、電波式リモコン ドア ロックの作動完了を確認することができます。

▼ 確認方法

ドアの施錠・解錠と連動して、非常点滅灯と室内照明（スイッチ付きはDOOR位置のとき）が下表の通り作動します。（アンサー バック）

これにより、電波式リモコン ドア ロックの作動完了を確認してください。

アンサーバック	LOCK時	UNLOCK時
非常点滅灯	1回点滅	2回点滅
室内照明	滅光し、その後消灯	約15秒間点灯

👉 アドバイス

- 非常点滅灯の点滅を停止、および室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。



車を運転する前に 車体各部の開閉

キーレス アクセス

オプション/グレード別装備

アクセス キーを所持するだけで、キーを取り出すことなく下記の操作ができます。

- ドアの施錠、解錠
(キーレス アクセス操作→ 115 ページ)
- エンジンの始動、停止 (イモビライザー機能付)
(エンジン スイッチ→ 190 ページ)
(イモビライザー機能→ 197 ページ)

また、アクセス キーのボタンを操作して、ドアの施錠、解錠をすることができます。

(電波式リモコン ドア ロック
→ 116 ページ)

アドバイス

アクセス キーの所持について

- アクセス キーは必ず運転者が所持し、管理してください。
- アクセス キーは、人体に影響しない程度の微弱な電波を使用しています。

システムが作動しないおそれのある状況

- 近くに下記のような強い電波を発生する設備があるとき
 - TV塔
 - 発電所
 - 放送局
 - 電光掲示板
 - ガソリン スタンド
 - コイン パーキング
- 無線機や携帯電話などの無線通信機器やポータブル オーディオ、または他車のアクセス キーと一緒に携行したとき
- アクセス キー本体が金属製の物と接しているとき
- アクセス キーの電池が消耗しているとき

電池の消耗について

- アクセス キーの電池寿命は、1日10回程度の乗降で約2年です。(アクセス キーは車両との通信のために常に受信動作をしているため電池を消費しています)

ただし、アクセス キーのボタン操作 (ドアの施錠・解錠) の使用頻度が高い場合、またはアクセス キーの保管状況によって著しく電池寿命が短くなるおそれがあります。



アドバイス

電池の消耗について

- アクセス キーの電池の残量が少なくなると、警告灯とブザー音でお知らせします。

(キーレス アクセス電池残量警告
→ 120 ページ)

- 下記のような強い電波を発するおそれのある機器の近くや車内、または車両の近くにアクセス キーを置かないでください。アクセス キーが常時通信状態になり、電池が著しく消耗しません。
- テレビ
- オーディオ
- パソコン
- ACアダプター
- 携帯電話、コードレス電話
- 充電器
- 電気スタンド
- 低周波治療器などの医療用電気機器
- 液晶表示器
- モーター類
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

(キーの電池交換→ 341 ページ)

アドバイス

アクセス キーが使用できないときは

- 電池の消耗などによりアクセス キーが使用できないときは、メカニカルキー、またはメイン キーを使用してください。

(アクセス キーが使用できないとき
→ 316 ページ)



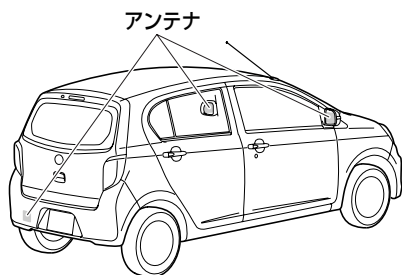
車を運転する前に 車体各部の開閉

アンテナ

車両のアンテナから発せられる電波をアクセスキーが感知することによって、キーレスアクセスが作動します。

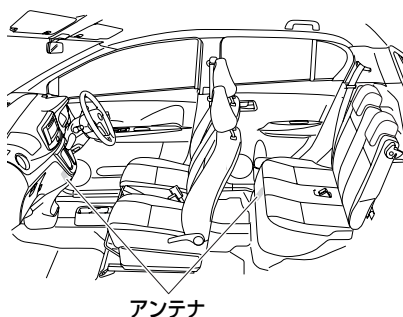
▼車室外アンテナ

ドア ミラー左右と助手席側リヤバンパー付近にあります。(3カ所)



▼車室内アンテナ

インストルメントパネル中央とリヤシート中央付近にあります。(2カ所)



⚠警告

植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器を使用されている方へ

- 車室外アンテナ・車室内アンテナから約 22 cm以内に近づかないようにしてください。ドア開閉時、各ドアハンドルのスイッチ操作時、エンジン始動時などに車両のアンテナから発せられる電波により、植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用されている方は、電波による影響について、医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により、医療用電気機器の作動に影響をあたえるおそれがあります。

👉アドバイス

アンテナの電波について

- アンテナから発する電波を停止（キーレスアクセスを停止）させることもできます。詳しくは、最寄りのスバル販売店にご相談ください。
- アンテナから発する電波を停止させたときは、プッシュエンジンスイッチにアクセスキー、またはメインキーを接触させなければエンジンを始動できません。（電波式リモコンドアロックによるドアの施錠・解錠は行えます）
(エンジンのかけかた→ 318 ページ)

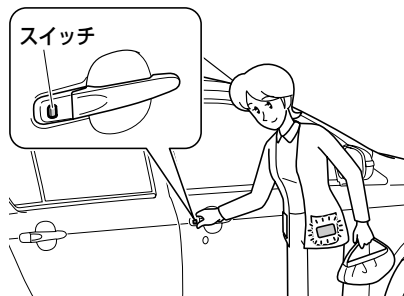


ドアの施錠、解錠

○キーレス アクセス操作

アクセス キーを所持して作動範囲内に入り、フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドル下側のスイッチを押すと、すべてのドアが施錠、解錠されます。

フロント ドア

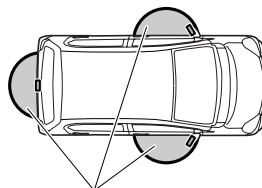


リヤ ゲート



▼ 作動範囲

各フロント ドア ハンドル、およびリヤ ゲート ハンドルから周囲約 80cm以内です。



作動範囲
ドアハンドル、
リヤゲートハンドル
から約80cm以内

⚠ 注意

- フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルのスイッチは強い力で押し、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

👉 アドバイス

- 車を離れるときは、ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- 施錠、解錠するときは、フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲートのスイッチを確実に押し、施錠・解錠されたことを確認してください。スイッチを早押しした場合、施錠・解錠がされないことがあります。





車を運転する前に 車体各部の開閉

アドバイス

作動範囲について

- 周囲の状況により、作動範囲が変化することがあります。
- アクセス キーを所持している人が作動範囲にいるときは、所持していない人でも、同じ作動範囲での施錠・解錠が可能です。

施錠・解錠ができない状況

- 電源が“ACC”、または“ON”のとき
- いずれかのドアが開いているとき

施錠・解錠ができないおそれのある状況

- アクセス キーの所持のしかたにより、キーレス アクセス操作をしても施錠・解錠がされない場合があります。
- 下記のような場合は、アクセス キーが作動範囲にあっても、正常に施錠・解錠がされない場合があります。
- アクセス キーをドア ガラスやドア ハンドルに近付けすぎたとき
- 地面の近く、もしくは高い場所にアクセス キーがあるとき

自動ロック機能

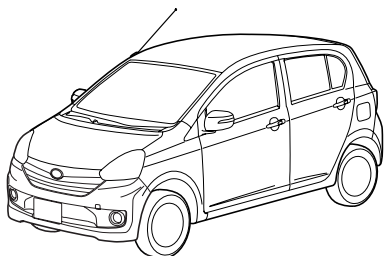
- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

○電波式リモコン ドア ロック

ドアが施錠された状態で、アクセス キーの“UNLOCK” ボタンを押すと、すべてのドアが解錠されます。

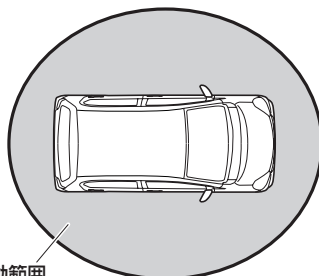
“LOCK” ボタンを押すと、すべてのドアが施錠されます。

- ボタンを押すと、キーのインジケータ―が 1 回点滅します。



▼ 作動範囲

車両中心から周囲約 3m 以内です。



作動範囲
車両中心から周囲約3m以内



👉 アドバイス

- 車を離れるときは、ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。

施錠・解錠ができない状況

- 電源が“ACC”、または“ON”のとき
- いずれかのドアが開いているとき

施錠・解錠ができないおそれのある状況

- アクセス キーと車両中心の距離が約3m以上離れているとき
- 近くにTV塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき

自動ロック機能

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

○ 作動完了の確認方法

非常点滅灯と室内照明とブザーにより、キーレス アクセス操作・電波式リモコン ドア ロックの作動完了を確認することができます。

▼ 確認方法

ドアの施錠・解錠と連動して、非常点滅灯と室内照明（スイッチ付きはDOOR位置のとき）とブザーが下表の通り作動します。（アンサー バック）

これにより、キーレス アクセス操作・電波式リモコン ドア ロックの作動完了を確認してください。

アンサー バック	LOCK時	UNLOCK時
非常点滅灯	1回点滅	2回点滅
室内照明	減光し、その後消灯	約15秒間点灯
ブザー	1回吹鳴	2回吹鳴

👉 アドバイス

- 非常点滅灯の点滅を停止、および室内照明の点灯時間とブザーの音量を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

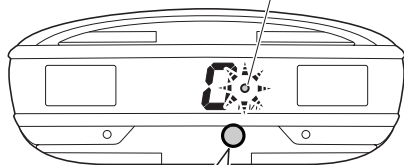


車を運転する前に 車体各部の開閉

警告ブザー、メーター表示 による警告

キーレス アクセスでは、誤操作や車両の盗難を防ぐために、警告ブザーとメーター表示で警告を行います。

セキュリティ表示灯



キーレス アクセス電池残量警告灯

○アクセス キー持ち出し警告
電源が“ACC”、または“ON”のときに、いずれかのドアを開けてアクセス キーを車外に持ち出してドアを閉めると、車内で「ピピピピピ」、車外で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴るとともに、セキュリティ表示灯が高速点滅し、車内にアクセス キーがないことを警告します。

▼対処方法

アクセス キーを所持して乗車してください。

⚠注意

- アクセス キーを車外に置いたまま、運転席ドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われます。

👉アドバイス

- 窓からアクセス キーを車外に持ち出したときは警告は行われません。



○電源切り忘れ警告

- 電源が“ACC”のときに、運転席ドアを開けると、車内で「ピッピッピッ…」と警告ブザーが鳴り続け、電源の切り忘れを警告します。

▼対処方法

電源を“OFF”にして、ドアを閉めてください。

- 電源が“ACC”、または“ON”のときに、フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドル下側のスイッチを押してドアを施錠しようとする、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、電源の切り忘れを警告します。

▼対処方法

電源を“OFF”にして、ドアを施錠してください。

○アクセス キー置き忘れ警告

車内にアクセス キーが放置された状態で、フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドル下側のスイッチを押してドアを施錠しようとする、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、アクセス キーの置き忘れを警告します。

▼対処方法

アクセス キーを所持して、ドアを施錠してください。

○半ドア警告

いずれかのドアが開いているとき（半ドア警告灯が点灯時）に、フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドル下側のスイッチを押すか、アクセス キーの“LOCK” ボタンを押して、ドアを施錠しようとする、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、ドアが開いていることを警告します。

▼対処方法

すべてのドアを閉めて、施錠してください。



車を運転する前に 車体各部の開閉

○アクセス キー閉じ込み警告

車内にアクセス キーが放置された状態で、下記の方法で施錠すると、車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、アクセス キーの閉じ込みを警告します。
同時にすべてのドアが解錠されます。

▼施錠方法

車内の運転席ドアのロック レバーを施錠方向に押し込み、運転席ドア ハンドルを引いたままドアを閉める。

▼対処方法

アクセス キーを所持して、ドアを施錠してください。

○キーレス アクセス電池残量警告

電源を“OFF”にしたときに、車内で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴るとともに、キーレス アクセス電池残量警告灯が点滅し、アクセス キーの電池の残量が少ないことを警告します。



▼対処方法

アクセス キーが使用できなくなる前に、新しい電池と交換をしてください。

(キーの電池交換→ 341 ページ)



アドバイス

- 電源を“ON”にしたとき、システムチェックのために、警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。

○ハンドル ロック未完了警告


運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にすると、車内で「ピッピッピッ…」と警告ブザーが鳴り続け、ハンドルがロックされていないことを警告します。

▼対処方法

運転席ドアを閉めてください。



○警告一覧

警告ブザー		メーター表示	何をしたときに 鳴りましたか？	対処方法
車内	車外			
ピピピピピ	ピッピッピッ	セキュリティ 表示灯 高速点滅	ドアを開めたとき	電源が“ACC”、または “ON”のときに、アクセ ス キーを車外に持ち出し ています。 アクセス キーを所持して 乗車してください。
—	ピーッ	—	フロント ドア ハンドル、 またはリヤ ゲート ハン ドル下側のスイッチを押 したとき	電源が“ACC”、または “ON”になっています。 電源を“OFF”にして、 ドアを施錠してください。 いずれかのドアが開いて います。 すべてのドアを閉めて、 施錠してください。 アクセス キーを車内に置 き忘れていました。 アクセス キーを所持して、 ドアを施錠してください。
			車内の運転席ドアのロッ ク レバーを施錠方向に押 し込み、運転席ドア ハン ドルを引いたままドアを 閉めて施錠したとき	アクセス キーを車内に置 き忘れていました。 アクセス キーを所持して、 ドアを施錠してください。
			アクセス キーの“LOCK” ボタンを押したとき	いずれかのドアが開いて います。 すべてのドアを閉めて施 錠してください。
ピッピッピッ	—	 点滅	電源を“OFF”にしたとき	アクセス キーの電池残量 が少なくなっています。 新しい電池と交換をし てください。
ピッピッピッ…	—	—	運転席ドアを開けたとき	電源が“ACC”になっ ています。 電源を“OFF”にして、 ドアを閉めてください。
			電源を“OFF”にしたとき	運転席ドアが開いている ためハンドル ロックがさ れていません。 運転席ドアを閉めてくだ さい。



車を運転する前に 車体各部の開閉

ドアの開閉

▼操作を行う前に

⚠警告

- ドアの開閉は確実に行ってください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物が車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- 車から離れるときは、法的にも義務付けられていますので、必ずエンジンを止め施錠してください。無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたづらをさせないでください。思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。



アドバイス

- ドアを施錠している場合でも、車を離れるときは貴重品などは車の中に置いたままにしないでください。

電波式リモコン ドア ロックによる 施錠、解錠

(電波式リモコン ドア ロック
→ 110 ページ)

キーレス アクセスによる 施錠、解錠

(キーレス アクセス
→ 112 ページ)



車外からキーによる施錠、解錠

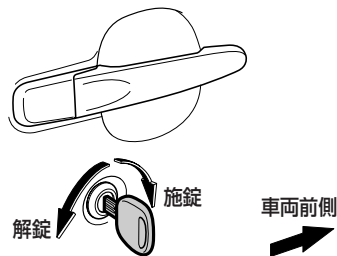
👉 アドバイス

盗難警報装置がセットされている場合

- 電波式リモコン ドア ロック（またはキーレス アクセスの電波式リモコン ドア ロック・キーレス アクセス操作）以外でドアを解錠してドアを開けると、盗難警報装置の警報が作動します。警報が作動した場合は、ただちに「警報の停止方法」にしたがって、警報を停止させてください。

（警報の停止方法→ 129 ページ）

キーを確実に差し込んでから回します。
キーを車両前側に回すと施錠され、後ろ側に回すと解錠されます。



👉 アドバイス

- ドアのキー挿入口は助手席側には設定していません。

車外からキーを使用しない施錠

👉 アドバイス

- キーを車内に置き忘れないようにしてください。不注意によりキーを車内に閉じ込めてしまう場合があります。
- キーを使用せずにドアを施錠するときにはキーを手を持っていることを確認してからドアを閉める習慣を身に付ければ、車内にキーを閉じ込めてしまうことを防止できます。



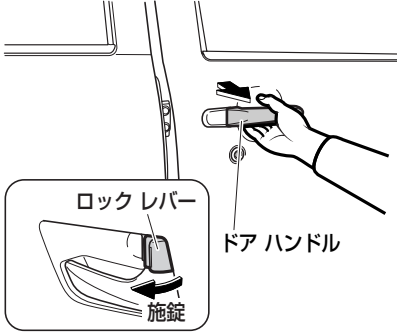


車を運転する前に 車体各部の開閉

○運転席ドア

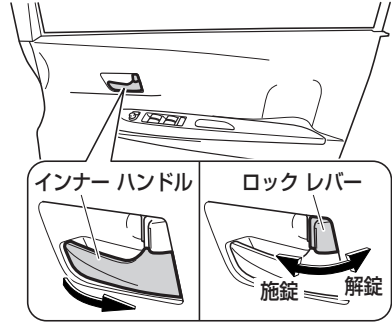
▼操作方法

ロックレバーを押し込み、ドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠します。



車内からの施錠、解錠

ロックレバーを押し込むと施錠できます。
ロックレバーを手前に引くと解錠でき、インナーハンドルを引くとドアが開きます。



○助手席ドア、リヤドア

▼操作方法

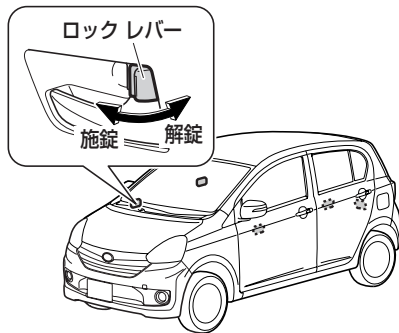
ロックレバーを押し込み、ドアを閉めて施錠します。



○集中ドア ロック

オプション/グレード別装備

運転席ドアのロック レバーを操作すると、連動して助手席ドア・左右リヤ ドア・リヤ ゲートが施錠、解錠されます。



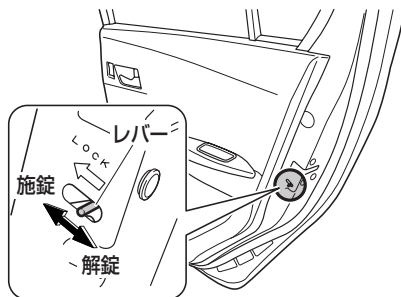
チャイルド プルーフ

お子さまの安全のため、チャイルド プルーフを左右リヤ ドア後部に付けています。

▼操作方法

レバーを“施錠”側にしておくと車内のドア ハンドルを引いてもドアを開かなくすることができます。

ドアを開けるときは、車外のドア ハンドルで操作します。



⚠注意

- お子さまをリヤ シートに乗せるときは必ずチャイルド プルーフを使用してください。



車を運転する前に 車体各部の開閉

キー抜き忘れ警告ブザー

プッシュ スタート装着車以外

エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき“LOCK”または“ACC”の位置で運転席のドアを開けるとブザー（断続音）が鳴り、キーの抜き忘れを警告します。

キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

以下の状態で作動します。

キーレス アクセス装着車以外

エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき

キーレス アクセス装着車

電源が“ACC”か“ON”のとき、または車内にアクセス キーがあるとき

▼ キー閉じ込み防止機能が作動するとき

以下の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。（集中ドア ロック装着車）

- 車内の運転席ドアのロック レバーを施錠方向に押し込み、運転席ドア ハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドア ロック レバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき



アドバイス

- 必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。

キーレス アクセス装着車

- アクセス キーの状態（電池の消耗、車内での位置等）や周囲の電波状況により、キー閉じ込み防止機能が作動せず、施錠されることがあります。



盗難警報装置

電波式リモコン ドア ロック装着車

キーレス アクセス装着車

盗難警報装置は、すべてのドアを閉め、電波式リモコン ドア ロック（またはキーレス アクセスの電波式リモコン ドア ロック・キーレス アクセス操作）でドアを施錠した場合に、盗難に対する警戒を開始します。

電波式リモコン ドア ロック（またはキーレス アクセスの電波式リモコン ドア ロック・キーレス アクセス操作）以外の操作でドアを開けると、警報を発して周囲に異常を知らせます。

👉 アドバイス

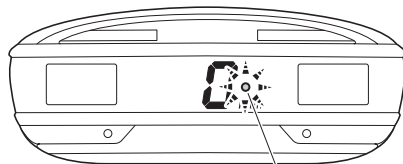
- 盗難警報装置は、周囲に異常を知らせる機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- ほかの方にお車を貸したときや、盗難警報装置の作動について知らない方が運転するときは、盗難警報装置について十分ご説明ください。
盗難警報装置の作動について知らない方が操作を誤った場合、警報が作動し周辺への迷惑になります。
- たとえ盗難警報装置をセットしていても、現金や貴重品は車内に放置しないでください。

盗難警報装置の セット方法

すべてのドアを閉め、電波式リモコン ドア ロック（またはキーレス アクセスの電波式リモコン ドア ロック・キーレス アクセス操作）でドアを施錠すると、セキュリティ表示灯が点灯し、セットを開始します。

約 30 秒後にセットが終了し、盗難警報装置は警戒状態になります。

警戒中は、セキュリティ表示灯が点滅します。



セキュリティ表示灯



車を運転する前に 車体各部の開閉

👉 アドバイス

- 電波式リモコン ドア ロック（またはキーレス アクセスの電波式リモコン ドア ロック・キーレス アクセス操作）以外の操作でドアを施錠した場合、盗難警報装置はセットされません。（電波式リモコン ドア ロック・キーレス アクセスの自動ロック機能で施錠された場合は、セットされません）
- セキュリティ表示灯が点灯してから約 30 秒以内に下記の操作をした場合、盗難警報装置のセットは中断されます。
 - 運転席ドアを解錠したとき
 - ドアを開けたとき
 - 電波式リモコン ドア ロック装着車で、キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれたとき
 - キーレス アクセス装着車で、電源を“ON”にしたとき

キーレス アクセス装着車の場合

- セキュリティ表示灯は、イモビライザー機能と兼用しているため、盗難警報装置を解除しても、電源を“ACC”にするまで消灯しません。また、電源を“ACC”から“OFF”にすると点滅します。

警戒中の作動

警戒中に電波式リモコン ドア ロック（またはキーレス アクセスの電波式リモコン ドア ロック・キーレス アクセス操作）以外でドアを開けると、警報が作動します。（1次警報）

この間、警報が解除されなかった場合、さらに警報が作動します。（2次警報）

👉 アドバイス

- 警報作動中にドアを閉めても、警報は停止しません。
- 警報終了後、ドアを閉めると、盗難警報装置が再び警戒状態になりますが、施錠はされません。お車を離れる際は確実に施錠してください。

○ 盗難警報装置警報

▼ 1次警報

- セキュリティ表示灯が点滅
- 非常点滅灯が 10 秒間点滅
- 室内ブザーが 10 秒間断続して鳴る

▼ 2次警報

- セキュリティ表示灯が点滅
- 非常点滅灯が 30 秒間点滅
- 室内ブザーが 30 秒間断続して鳴る
- ホーンが 30 秒間断続して鳴る



盗難警報装置の解除方法

下記のいずれかの操作で盗難警報装置のセット（警戒状態）を解除できます。

- 電波式リモコン ドア ロック（またはキーレス アクセスの電波式リモコン ドア ロック・キーレス アクセス操作）でドアを解錠する
- 電源を“ON”にする

アドバイス

- 盗難警報装置は、車内に人が乗っているときや、ドア ウインドウ ガラスが開いているときにも作動します。盗難警報装置を誤作動させないために、車内に人が乗っているときや、ドア ウインドウ ガラスが開いているときは、盗難警報装置をセットしないでください。

警報の停止方法

下記のいずれかの操作で警報を停止できます。

電波式リモコン ドア ロック装着車

- メイン キーの“LOCK”、または“UNLOCK” ボタンを押す
- エンジン スイッチを“ON”の位置にする

キーレス アクセス装着車

- アクセス キーの“LOCK”、または“UNLOCK” ボタンを押す
- アクセス キーを所持して乗車する
- 電源を“ON”にする



車を運転する前に 車体各部の開閉

○アクセス キーが使用できないとき キーレス アクセス装着車

電池切れなどにより、アクセス キーが使用できないときは、キーをプッシュ エンジン スイッチに接触させて、警報を停止してください。

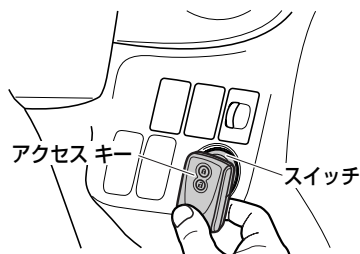
▼操作方法

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みま
す。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、キー
を図のようにプッシュ エンジン ス
イッチに接触させます。

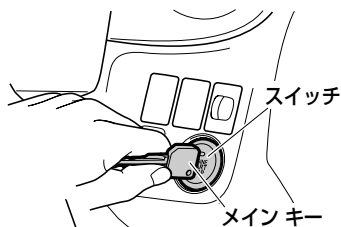
キーが認識されると、警報が停止し
ます。

- アクセス キーは、裏面のスバル マー
ク付近をスイッチの中心に接触させま
す。

アクセス キー



メイン キー



盗難警報装置の 作動履歴の確認

盗難警報装置のセット中に警報（2 次警報まで作動した場合のみ）が作動したことを確認することができます。

▼確認方法

電源を“ON”にすると、室内ブザーが「ピーッピッ」と鳴り、2 次警報まで作動したことを知らせます。

👉アドバイス

- 作動履歴の確認は、2 次警報作動後、1 回のみ行うことができます。

盗難警報装置の メンテナンスについて

盗難警報装置のメンテナンスは不要です。

⚠️注意

- 盗難警報装置の改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。



リヤ ゲート

▼操作を行う前に

⚠警告

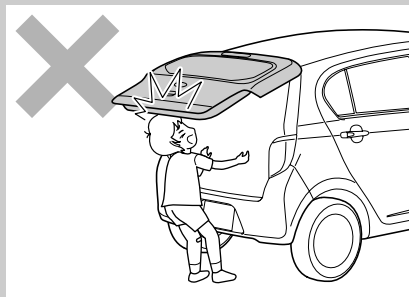
走行するときは

- 走行中はリヤ ゲートを閉じてください。開けたまま走行すると、リヤ ゲートが車外のものに当たったり、荷物が道路に落下したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- 走行前はリヤ ゲートを軽くゆすり、リヤ ゲートが確実に閉まっていることを確認してください。走行中に突然リヤ ゲートが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

お子さまを乗せているときは

- お子さまにはリヤ ゲートの開閉をさせないでください。不意にリヤ ゲートが動いたり、閉めるときに頭をぶついたり、首や手を挟んだりするおそれがあります。



- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などになるおそれがあります。





車を運転する前に 車体各部の開閉

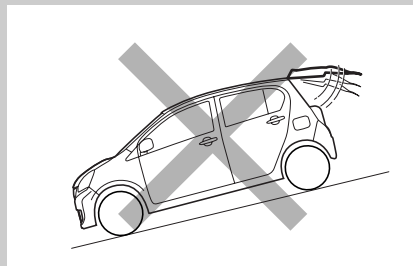
⚠警告

リヤ ゲートを開閉するときには

- リヤ ゲートの開閉や荷物の出し入れをするときは、下記のことをお守りください。リヤ ゲートで頭をぶついたり、首や手を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
- リヤ ゲート周辺の安全を十分確認してください。
- 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- リヤ ゲートのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- リヤ ゲートは必ず全開で静止させてください。開け方が不十分だと、リヤ ゲートが不意に閉まるおそれがあります。
- リヤ ゲートを閉めるときは自分や周りの人の指などを挟まないよう、十分に注意してください。
- 強風時の開閉には注意してください。風にあおられて、リヤ ゲートが勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

⚠警告

- 傾斜地での開閉には注意してください。平坦な場所よりもリヤ ゲートが開閉しにくかったり、急にリヤ ゲートが閉じたり開いたりするおそれがあります。リヤ ゲートを開けたときは必ず全開で静止していることを確認してください。



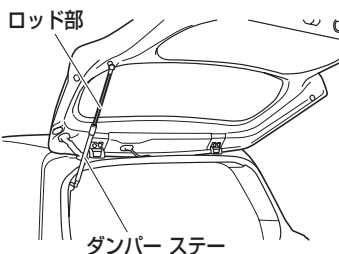
- リヤ ゲートを開ける前に、リヤ ゲートに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでリヤ ゲートが閉まるおそれがあります。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。
- リヤ ゲートを支えているダンパー ステーを持ってリヤ ゲートを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、ステーが破損したりするおそれがあります。
- リヤ ゲートにスバル指定用品以外のアクセサリを取り付けしないでください。リヤ ゲートの重量が極端に重くなると、開けた時にステーが支えきれなくなり、不意にリヤ ゲートが閉まるおそれがあります。



⚠注意

ダンパー ステーについて

- リヤ ゲートには、ドアを支えるためのダンパー ステーが取り付けられています。ステーの破損や作動不良を防ぐため、下記のことをお守りください。
- ステーに手をかけたり、横方向の力を加えたりしないでください。
- ビニール片、ステッカー、粘着材などの異物をロッド部（メッキの棒部）に付着させないでください。

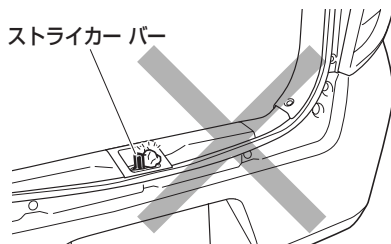


- 繊維などの付着を防ぐため、ロッド部を軍手などで触らないでください。

⚠注意

ストライカー バーについて

- リヤ ゲートを閉めるときはストライカー バーに異物がかみ込まないようにしてください。
バーが破損し、リヤ ゲートが閉まらなくなるおそれがあります。





車を運転する前に 車体各部の開閉

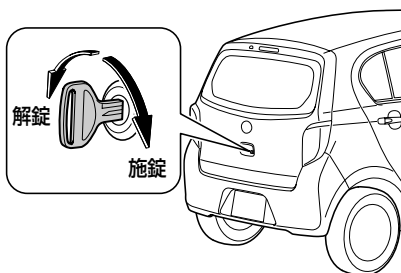
車外からの施錠、解錠

電波式リモコン ドア ロック装着車以外

キーレス アクセス装着車以外

▼ 施錠方法

キーを差し込み、右に回すと施錠します。



▼ 解錠方法

キーを差し込み、左に回すと解錠します。

車内からの施錠、解錠

集中ドア ロック装着車

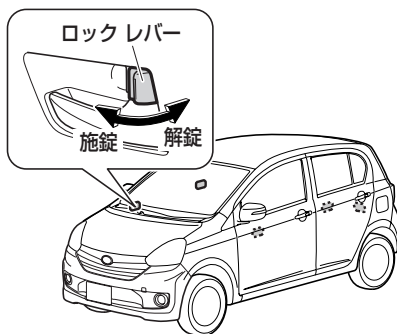
○リヤ ゲート連動集中ドア ロック
運転席ドアのロック レバーを操作すると、連動してリヤ ゲートが施錠、解錠されます。このとき助手席ドア、リヤ ドアも同時に施錠、解錠されます。

▼ 施錠方法

運転席ドアのロック レバーを押し込むと施錠できます。

▼ 解錠方法

運転席ドアのロック レバーを手前に引くと解錠できます。

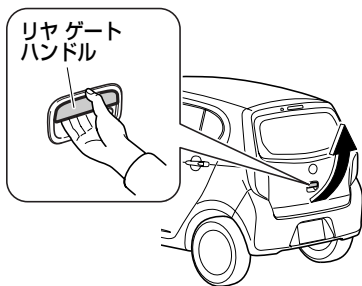




リヤ ゲートの開閉

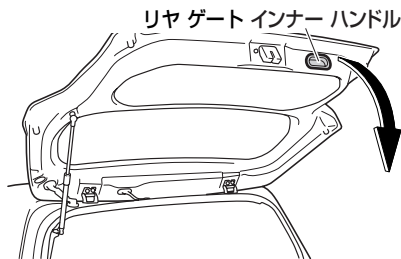
▼ 開けるとき

解錠したあとでリヤ ゲート ハンドルを引いて、リヤ ゲートをゆっくりといっぱいまで持ち上げます。



▼ 閉めるとき

1. リヤ ゲート インナー ハンドルを持ってリヤ ゲートを途中までゆっくりと下げます。



⚠注意

- リヤ ゲート インナー ハンドルで直接リヤ ゲートを閉めないでください。手や腕を挟み、けがをすることがあります。リヤ ゲートは、必ず外から押して閉めてください。

2. ハンドルから手を離して、リヤ ゲートを上から手で押さえつけるように閉めます。
3. 半ドアでないことを確認します。

ボンネット

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
- やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
- 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- ボンネットを閉めたあとは、ボンネットが確実にロックしたことを確認してください。ボンネットが確実に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあり大変危険です。
- ボンネットを開けているとき風にあおられるとステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。
- お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中うっかり手を離すと思わぬけがにつながるおそれがあります。



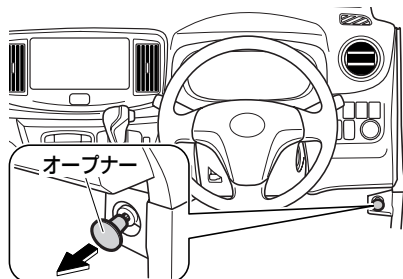


車を運転する前に 車体各部の開閉

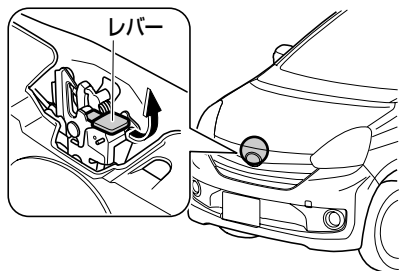
開けかた

▼ 操作手順

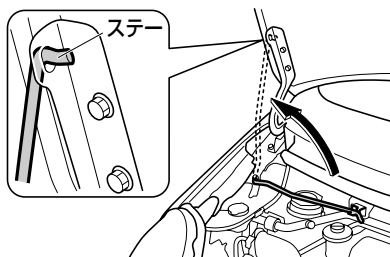
1. インストルメント パネル右下のオープナーを手前に引くと、ボンネット前部が少し浮き上がります。



2. ボンネット 前部中央にあるキャッチフックのレバーを矢印の方向に引き上げ、もう一方の手でボンネットを持ち上げます。



3. ボンネットをステーで確実に支えます。



⚠ 注意

- エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、ステーを持つ前に必ず確認してください。
- ステーを確実に固定穴に差し込んでください。ステーが外れると大変危険です。

👉 アドバイス

- ワイパーを起こしたままでボンネットを開けると、ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

⚠ 注意

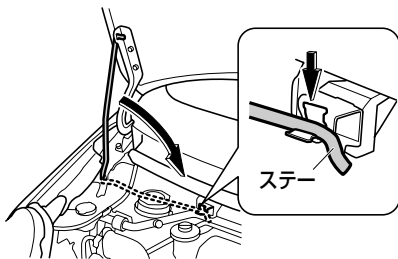
- エンジン回転中や停止後は、レバーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、レバーを持つ前に必ず確認してください。



閉めかた

▼操作手順

1. ボンネットを片手で支えて、ステアーを元の位置へ戻します。



2. ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉めます。

👉アドバイス

- ボンネットを閉めるとき、手で強く押さえずぎないでください。

フューエル リッド

▼操作を行う前に

⚠警告

- 燃料は引火しやすいため、下記のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。
- フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
- フューエル キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエル キャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。





車を運転する前に 車体各部の開閉

⚠警告

- フューエル キャップを少しゆるめた時に「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布きれなどでふき取ってください。
- こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
- スバル指定フューエル キャップ以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあり危険です。
- その他ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。

⚠注意

- 指定燃料は無鉛レギュラー ガソリンです。
- 給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料*、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま利用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

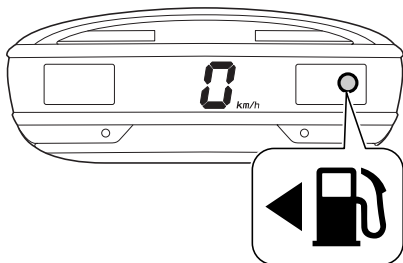
* アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオ ガソリンは使用できます。



フューエル リッドの開閉

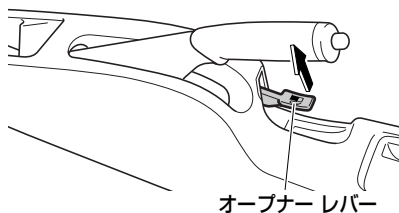
👉 アドバイス

- メーター内にフューエル リッドの車両取り付け方向を示しています。



▼ 開けるとき

駐車ブレーキ レバー下側にあるフューエル リッド オープナー レバーを、矢印の方向に引き上げます。



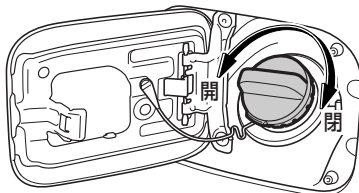
▼ 閉めるとき

リッドを押して閉めます。

フューエル キャップの開閉

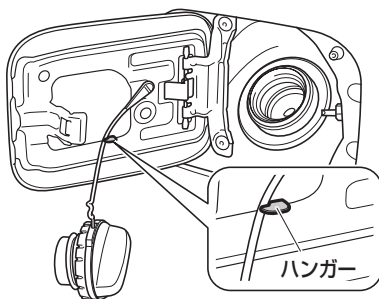
▼ 開けるとき

左に回して開けます。



▼ 給油するとき

外したフューエル キャップをフューエル リッド裏側にあるハンガーにかけておくことができます。



▼ 閉めるとき

「カチッ」という音が一度するまで、右に回して閉めます。





車を運転する前に 車体各部の開閉

パワー ウインドウ

スイッチ操作により運転席、助手席、後席のウインドウの開閉ができます。

▼操作を行う前に

⚠警告

- パワー ウインドウは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまにパワー ウインドウの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ロック スイッチを“OFF”にしてください。

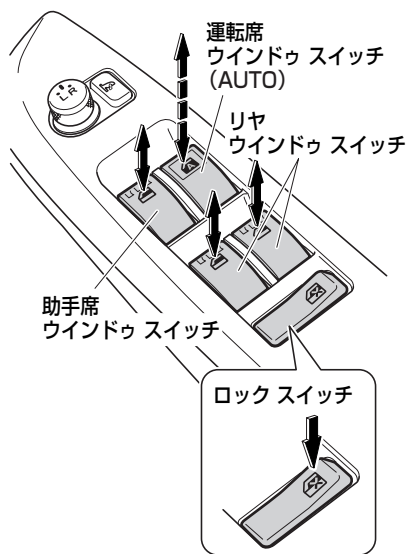
👉アドバイス

- 運転席スイッチとほかのスイッチを同時に逆方向へ動かさないでください。故障の原因となるおそれがあります。
- ウインドウを完全に開閉した状態でスイッチを押し続けると故障の原因となりますので、操作完了後はすぐに手を離してください。
- パワー ウインドウの開閉はなるべくエンジン回転中に行ってください。エンジン停止時に行くと、バッテリーあがりの原因になります。
- ガラスが凍りついて固着したような状態でウインドウ スイッチの“開”または“閉”を連続操作しないでください。故障の原因となります。
- 電源を“ON”にすると、運転席と助手席のウインドウ スイッチのマークが点灯します。



運転席ドア側スイッチ

電源が“ON”のとき、使用できます。



○運転席 ウィンドウ スイッチ (AUTO)

▼操作方法

スイッチを軽く押し下げている間ウィンドウ ガラスは開き、軽く引き上げている間ウィンドウ ガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。

「カチッ」と音がするまで押し下げる、または引き上げるとウィンドウ ガラスは自動的に全開、全閉します。途中で止めるときは、軽く逆方向にスイッチを操作します。

▼電源“OFF”後作動機能

電源を“OFF”または“ACC”にしたあとでも、約 40 秒間は運転席ウィンドウ ガラスを開閉できます。

○助手席ウィンドウ スイッチ

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウィンドウ ガラスは開き、引き上げている間ウィンドウ ガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。

○リヤ ウィンドウ スイッチ

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウィンドウ ガラスは開き、引き上げている間ウィンドウ ガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。





車を運転する前に 車体各部の開閉

○ロック スイッチ

▼操作方法

スイッチの右側（マークの付いている方）を押すと“OFF”になり、運転席ウインドウ ガラス以外は操作できなくなります。

スイッチの左側（マークのない方）を押すと解除されます。



アドバイス

- スイッチを押して“OFF”にすると、助手席ドア側スイッチのマークも消灯します。

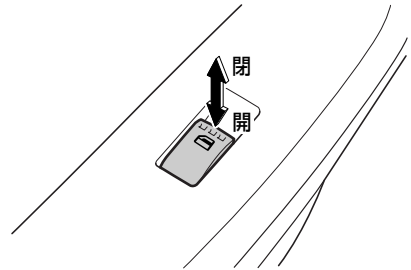
助手席ドア側スイッチ

電源が“ON”のとき、使用できます。

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウインドウガラスは開き、引き上げている間ウインドウガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。



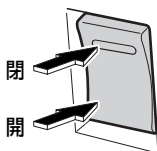


リヤ ドア側スイッチ

電源が“ON” のとき、使用できます。

▼操作方法

スイッチの上側を押している間ウィンドウガラスは閉まり、スイッチの下側を押している間ウィンドウガラスは開きます。手を離すとその位置で止まります。



ウィンドウ反転機構（運転席）

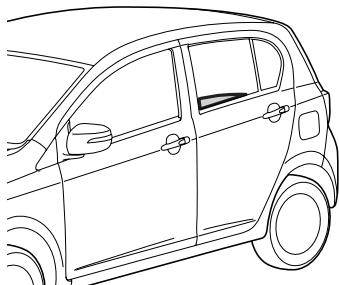
運転席ウィンドウガラスを閉めるときに、窓枠とウィンドウガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ウィンドウガラスの上昇を停止し、自動的にウィンドウガラスが下降します。

👉アドバイス

- 特に小さな物を挟み込んだとき、ウィンドウ反転機構が作動しないことがあります。
- 環境や走行条件により、異物を挟み込んだときと同じ衝撃がウィンドウガラスに加わると、ウィンドウ反転機構が作動することがあります。

👉アドバイス

- 後席左右のドアウィンドウは全開になりません。





車を運転する前に 車体各部の開閉

運転席ウインドウ ガラスが 全閉しないときは

ウインドウ反転機構が異常に作動してしまい、ウインドウ ガラスを全閉できないときは、運転席ウインドウ スイッチで、下記の操作を行ってください。

▼操作方法

1. 車を停止し、電源を“ON”にします。
2. 運転席ウインドウ スイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままウインドウ ガラスを全閉にします。
3. 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約 6 秒間スイッチを上引き続けます。



アドバイス

- 操作中、スイッチから手を離したときは、もう一度はじめからやり直してください。
- 上記の操作を行ってもウインドウ ガラスが全閉しない場合はパワー ウインドウの初期設定を行ってください。それでも反転して閉じ切らない場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

(初期設定→ 144 ページ)

初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断られたときは、パワー ウインドウの初期設定をしてください。

パワー ウインドウの初期設定がされていないと、下記の機能は作動しません。

● 運転席ウインドウ ガラスの

- ・自動開閉機能
- ・ウインドウ反転機構
- ・電源“OFF”後作動機能

▼操作手順

1. 電源を“ON”にします。
2. 運転席ウインドウ スイッチを下に押し続け、ウインドウ ガラスを全閉にします。
3. 運転席ウインドウ スイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままウインドウ ガラスを全閉にします。
4. 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約 2 秒間スイッチを上引き続けます。



車体各部の調整

ルーム ミラー

▼操作を行う前に

⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。

▼調整のしかた

ルーム ミラー全体を動かして角度を調整します。



ドア ミラー

▼操作を行う前に

⚠注意

- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。
- ミラーを倒したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあります。



車を運転する前に 車体各部の調整

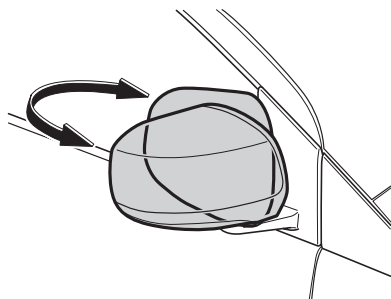
手動式（鏡面可動タイプ）

オプション/グレード別装備

ミラーの格納、角度調整を手で行います。

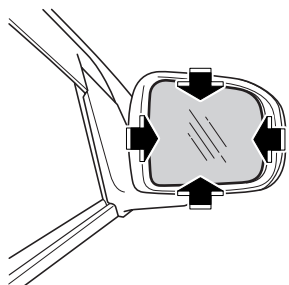
▼格納のしかた

ミラーは後方に倒して格納することができます。走行するときは必ず元に戻してください。



▼調整のしかた

鏡面部分を押しして角度を調整します。



⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。
- 汚れた手で調整しないでください。鏡面に油や汚れが付くと夜間など後方からのライトが乱反射し、視認が困難になるなどして大変危険です。

電動格納式

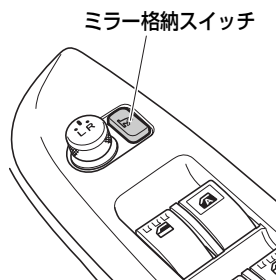
オプション/グレード別装備

ミラーの格納、角度調整をスイッチまたはノブの操作で行うことができます。

電源が“ACC”または“ON”のときに使用できます。

▼格納のしかた

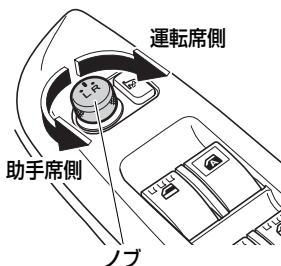
ミラー格納スイッチを押すと、ミラーを格納することができます。もう一度押すと元に戻ります。走行するときは、必ず元に戻してください。



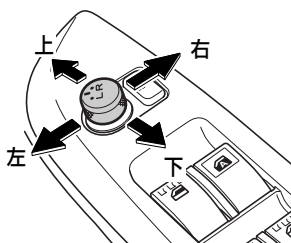


▼調整のしかた

1. ノブを調整する側にまわします。



2. ノブを動かして、ミラーの角度を調整します。



⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。

👉アドバイス

- 調整するとき以外は、調整ノブを中立（中央）の位置に合わせておいてください。
- 調整ノブを中立（中央）の位置にすると操作することができません。

オート格納式ドア ミラー
（キーレス アクセス連動）

キーレス アクセス装着車

ドアの施錠と連動して、ミラーが格納されます。

- ミラー格納スイッチでミラーを格納していないときに使用できます。

▼格納のしかた

フロント ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドル下側のスイッチを押すか、アクセス キーの“LOCK” ボタンを押してドアを施錠します。

▼元に戻すときは

電源を“ACC”または“ON”にします。

⚠注意

- ミラーを元に戻すときは、ドア ミラー周辺に障害物がないことを確認してください。ドア ミラーが当たり、破損するおそれがあります。

👉アドバイス

- 電源を“ON”にしたときのみ、ドアミラーを元に戻すようにすることができます。（ミラー格納スイッチの操作も、電源を“ON”にしたときのみ可能になります。）スバル販売店にご相談ください。



車を運転する前に 車体各部の調整

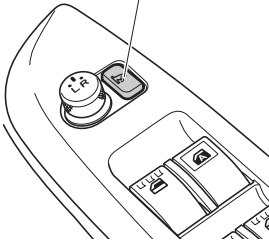
○機能の停止・復帰方法

ドア ミラーのオート格納機能を停止することができます。

▼機能の停止方法

1. 電源を“OFF”にし、車幅灯を消灯します。
 2. 電源を“ACC”にします。
(ブレーキ ペダルを踏まずに、プッシュ エンジン スイッチを 1 回押します)
 3. “ACC”にしてから約 5 秒以内に、車幅灯を点灯・再度消灯します。
 4. 消灯してから約 5 秒以内に、ミラー格納スイッチを押します。
- ブザーが 1 回鳴り、ドア ミラーのオート格納機能が停止します。

ミラー格納スイッチ



▼機能の復帰方法

機能の停止方法と同じ操作を行います。

- ブザーが 2 回鳴り、ドア ミラーのオート格納機能が復帰します。

👉 アドバイス

- 操作を途中で中断したときは、もう一度はじめからやり直してください。
- 機能の復帰操作を行っても、ブザーが 1 回しか鳴らず復帰しない場合は、スバル販売店にご相談ください。



電動格納式ヒートッド ドア ミラー

オプション/グレード別装備

曇り取り機能を装備した電動格納式ドアミラーです。

雨天時などに、ドアミラーが曇ったとき、ドアミラーの曇りを取ることができます。

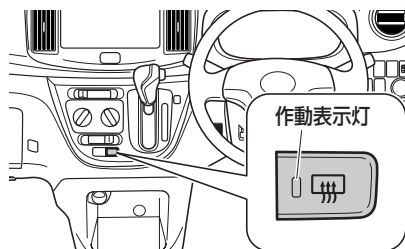
(電動格納式ドアミラー→ 146 ページ)

▼操作方法

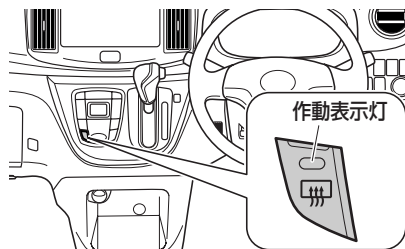
リヤ ウィンドウ デフォッガー スイッチを押すと、作動表示灯が点灯し、ドアミラーが暖められ曇りが取れます。

作動を停止するときは、リヤ ウィンドウ デフォッガー スイッチをもう一度押してください。作動表示灯も消灯します。

マニュアル エアコン装着車



オート エアコン装着車



アドバイス

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因になります。



車を運転する前に 車体各部の調整

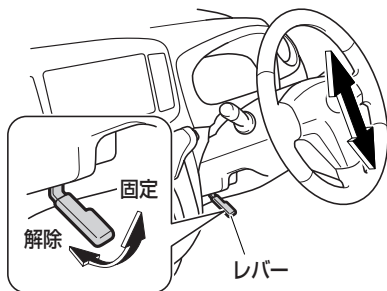
チルト ステアリング

オプション/グレード別装備

ハンドルの位置を調整することができます。

▼調整のしかた

レバーを押し下げ、ハンドルを上下に動かし適切な位置に調整します。その状態でレバーを引き上げると固定されます。



⚠警告

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置の調整をしたあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然変わり、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

車を運転する前に
車体各部の調整



MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.



車を運転するにあたって

車を運転するうえでの各部のはたらき、装置の
使いかた、運転の方法について説明しています。

■ メーターのはたらき

メーター	154
------	-----

■ 表示灯、警告灯のはたらき

表示灯	167
警告灯	172

■ スイッチの使いかた

スイッチの名称	179
ライティング スイッチ	180
光軸調整ダイヤル	182
方向指示レバー	183
非常点滅灯スイッチ	183
ワイパー・ウォッシャー スイッチ	184
リヤ ウィンドウ デフォッガー スイッチ	187
VDC&TRC OFFスイッチ	188
「アイドリング ストップ」 OFFスイッチ	188
スマートアシストOFFスイッチ	189
ホーン スイッチ	189

■ 運転装置の使いかた

エンジン スイッチ	190
駐車ブレーキ	197
AWD車	198

■ エンジンのかけかた

CVT車	200
------	-----

■ CVT車の運転

CVT車	202
セレクト レバーの操作	204
運転のしかた	206

■ アイドリング ストップ

システムの使いかた

「アイドリング ストップ」	212
---------------	-----

■ 発電制御

発電制御	225
------	-----



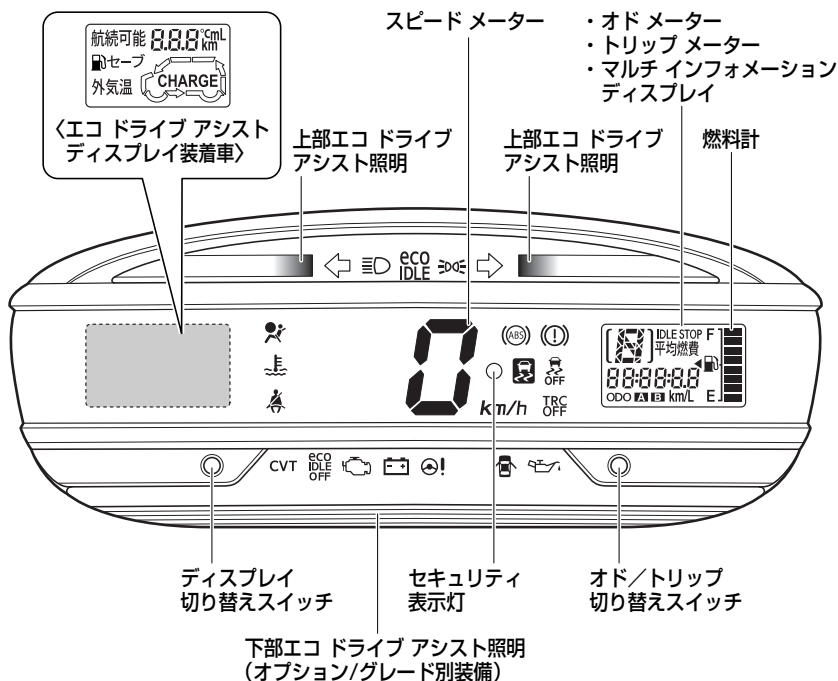
車を運転するにあたって メーターのはたらき

メーターのはたらき

メーター

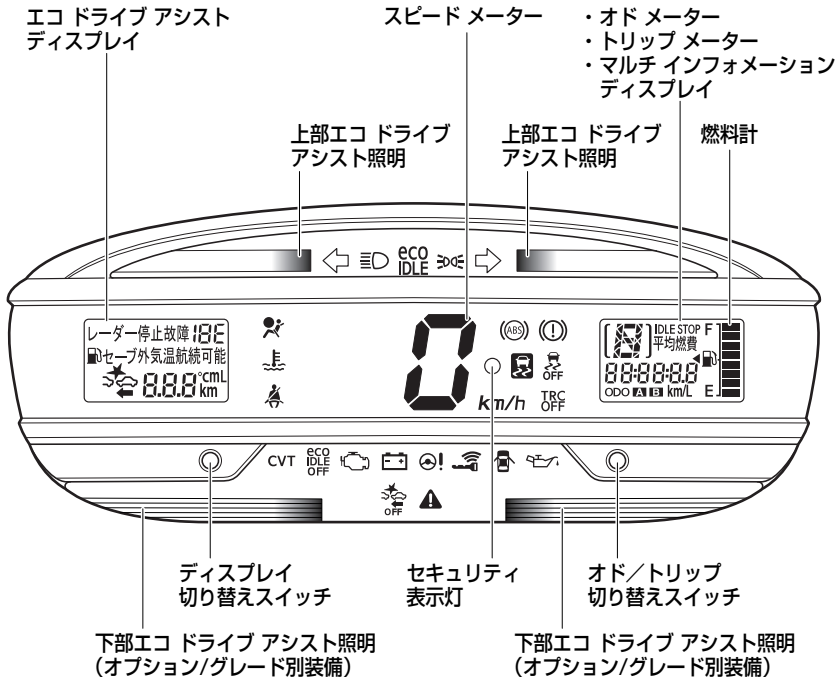
表示灯、警告灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。

スマートアシスト装着車以外





スマートアシスト装着車



○メーター照明

- 電源を“ON”にすると点灯し、“ACC”または“OFF”にすると、消灯します。
- メーター照明が点灯しているときに車幅灯を点灯させると、メーター照明が減光します。

▼エコドライブアシスト照明

- アンバー照明仕様車は、エンジンスイッチが“LOCK”または“ACC”の位置のとき、ドア連動機能により点灯・消灯します。

(ドア連動機能→ 266 ページ)

👉アドバイス

- ライトの点灯・消灯の確認は、ライティングスイッチ表示灯で行ってください。
(ライティングスイッチ表示灯→ 168 ページ)
- メーター照明の照度は調整することができます。また、車幅灯を点灯させたときに、減光しないようにすることもできます。

(照度調整→ 160 ページ)



車を運転するにあたって メーターのはたらき

スピード メーター

走行速度をkm/h で表示します。

燃料計

電源が“ON” のとき、燃料残量を表示します。

燃料残量が2WD車は約 6ℓ、AWD車は約 5.5ℓ以下になると、燃料計の一番下の目盛りと燃料残量警告灯が点滅します。

(燃料残量警告灯→ 176 ページ)

⚠注意

燃料残量警告灯が点滅した場合

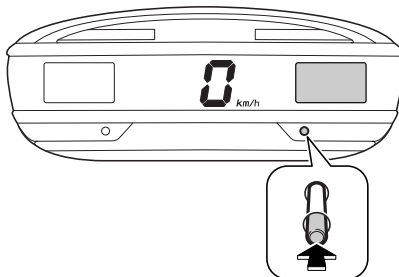
- ただちに燃料を補給してください。
燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

オド メーター/トリップ メーター/ マルチ インフォメーション ディスプレイ

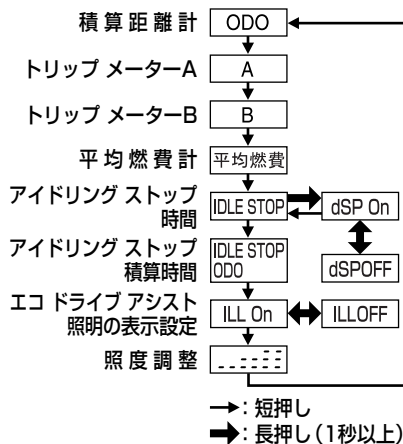
電源が“ON” のとき、表示します。

- オド/トリップ切り替えスイッチを押すごとに、表示が切り替わります。

▼ オド/トリップ切り替えスイッチ



▼ 切り替わりかた





○オド メーター（積算距離計）

走行した総距離を表示します。

○トリップ メーター（区間距離計）

リセットした地点からの走行距離を表示します。

トリップ メーターは、同時に2つの区間の走行距離を表示することができます。

▼トリップ メーター表示をリセットするにはリセットするトリップ メーター（AまたはB）を表示させ、オドノトリップ切り替えスイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

○平均燃費計

表示をリセットしてからの平均燃費を約10秒ごとに更新して表示します。



▼平均燃費表示をリセットするには平均燃費を表示させ、オドノトリップ切り替えスイッチを約1秒以上押し続けると、表示が“0.0km/L”になります。

👉 アドバイス

- 電源を“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 最大表示は、「99.9km/L」です。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。

○アイドリング ストップ時間

電源を“ON”にしてからのアイドリング ストップ時間を表示します。



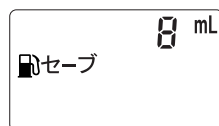
👉 アドバイス

エコドライブアシストディスプレイ装着車

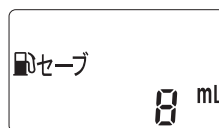
- アイドリング ストップ時間の表示と連動して、エコドライブアシストディスプレイに節約燃料が表示されません。

（節約燃料表示→ 163 ページ）

- スマートアシスト装着車以外



- スマートアシスト装着車



▼アイドリング ストップ時間表示のリセットについて

電源を“OFF”にすると、表示がリセットされます。リセット後、電源を“ON”にすると、表示が“00:00:00”になります。



車を運転するにあたって メーターのはたらき

▼アイドリング ストップ時間の自動表示について

アイドリング ストップ時間自動表示の設定が“dSP On”のとき、アイドリング ストップ中に、自動でアイドリング ストップ時間を表示します。

アドバイス

アイドリング ストップ時間自動表示を

解除するには

- アイドリング ストップ時間を表示させ、オドノトリップ切り替えスイッチを約 1 秒以上押すと自動表示設定画面になります。さらに約 1 秒以上押すごとに“dSP On”、“dSP OFF”が切り替わります。

表示	アイドリング ストップ中の自動表示
dSP On	する
dSP OFF	しない

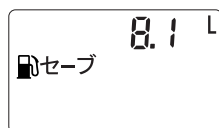
○アイドリング ストップ積算時間表示をリセットしてからのアイドリング ストップ積算時間を表示します。



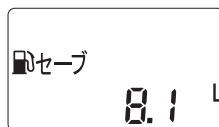
アドバイス

エコドライブアシスト ディスプレイ装着車

- アイドリング ストップ積算時間表示と連動して、エコドライブアシストディスプレイに節約燃料（積算）が表示されます。
(節約燃料表示（積算）→ 164 ページ)
- スマートアシスト装着車以外



- スマートアシスト装着車



▼アイドリング ストップ積算時間表示をリセットするには

アイドリング ストップ積算時間を表示させ、オドノトリップ切り替えスイッチを押し続けると、表示が“00:00:00”になります。

エコドライブアシスト ディスプレイ装着車は、同時に節約燃料表示（積算）も、リセットされます。



○エコドライブ* アシスト照明の表示設定

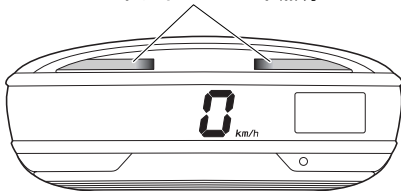
ILL On (またはILL OFF) を表示させて、オドノトリップ切り替えスイッチを約 1 秒以上押し続けるごとに、“ILL On”、“ILL OFF” が切り替わります。

(エコドライブ アシスト照明
→ 166 ページ)

アンバー照明仕様車

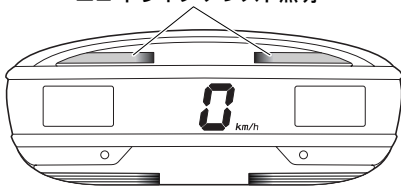
<スマートアシスト装着車以外>

エコドライブアシスト照明



<スマートアシスト装着車>

エコドライブアシスト照明

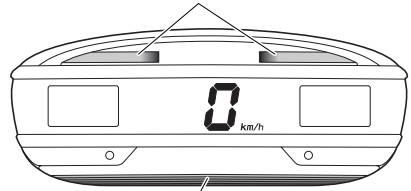


表示	エコドライブ中の照明色変化
ILL On	アンバー↔イエロー↔グリーン
ILL OFF	アンバーのまま

ブルー照明仕様車

<スマートアシスト装着車以外>

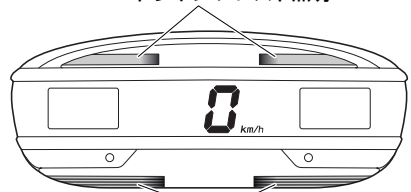
エコドライブアシスト照明



エコドライブアシスト照明

<スマートアシスト装着車>

エコドライブアシスト照明



エコドライブアシスト照明

表示	エコドライブ中の照明色変化
ILL On	ブルー↔スカイブルー↔グリーン
ILL OFF	ブルーのまま

* エコドライブ：二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転



車を運転するにあたって メーターのはたらき

○照度調整

照度調整表示中、オドノトリップ切り替えスイッチを約 1 秒以上押し続けている間、メーター照明の明るさが下表のように変わります。

明るさ	表示	照度レベル
明るい ↑ ↓ 暗い	— — — — —	レベル1
	— — — —	レベル2
	— —	レベル3
	—	レベル4

▼照度調整

メーター照明は、昼間用、および夜間用としてそれぞれ設定することができます。

昼間用

車幅灯を消灯して調整します。

夜間用

車幅灯を点灯して調整します。

👉アドバイス

- 電源が“ON”のときに、照度調整を表示させることができます。
- 夜間用の設定を“レベル 1”に設定すると、車幅灯を点灯させたときに、メーター照明が減光しません。

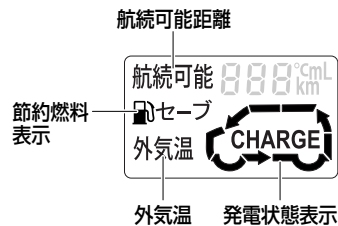
エコドライブアシスト ディスプレイ

オプション/グレード別装備

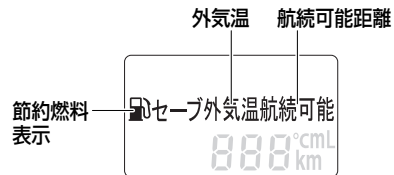
電源が“ON”のときに表示します。

- ディスプレイ切り替えスイッチを押すごとに、表示が切り替わります。

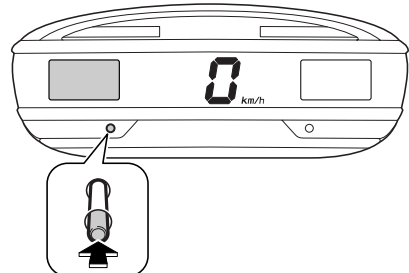
<スマートアシスト装着車以外>



<スマートアシスト装着車>

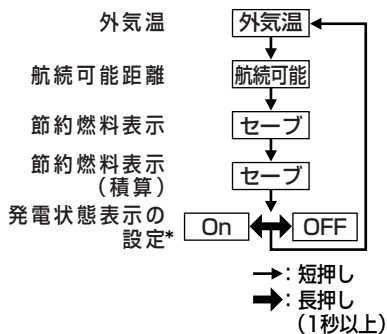


▼ディスプレイ切り替えスイッチ





▼ 切り替わりかた



* スマートアシスト装着車以外

○ 外気温

外気温を表示します。

スマートアシスト装着車以外



スマートアシスト装着車



▼ 路面凍結警告表示

外気温が 3°C 以下になると、温度表示が点滅し、路面凍結の可能性をお知らせします。





車を運転するにあたって メーターのはたらき

👉 アドバイス

- ほかの計測装置により計測した外気温とは、異なることがあります。
- 電源を“ON”にした直後の表示は、外気温が表示されません。
- 表示範囲は、「-30～50℃」です。
- 異常検出したときの表示は、「-℃」です。
- 下記の場合は、正しい外気温が表示されないことがあります。
 - ・ 停車しているときや低速走行しているとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（トンネルの出入り口付近など）
- 実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

路面凍結警告表示

- 路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状況を確認してください。
- 電源を“ON”にしたとき、外気温度がすでに 3℃以下の場合、警告表示されません。
- 路面凍結警告がいったん表示されると、外気温度が 4℃以上に上がってから、3℃以下に下がらないと再び警告表示されません。

○ 航続可能距離

現在の燃料残量と過去の燃費から航続可能距離を算出します。

スマートアシスト装着車以外

航続可能 123km

スマートアシスト装着車

航続可能
123km

⚠️ 注意

- 航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近付くか、燃料残量警告灯が点灯したら、ただちに燃料を補給してください。燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。



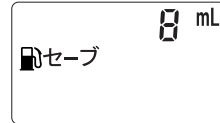
👉 アドバイス

- 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- 最大表示は、「999km」です。
- 異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。
- バッテリーとの接続が断たれたときは、学習した燃費はリセットされません。

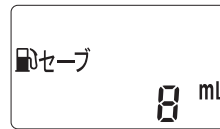
○ 節約燃料表示

電源を“ON”にしてからの、アイドリングストップ時に節約した燃料量を表示します。

スマートアシスト装着車以外



スマートアシスト装着車



👉 アドバイス

- 「999mL」より大きくなると「1.0L」と表示されます。
最大表示は、「99.9L」です。
- 節約燃料表示と連動して、マルチインフォメーションディスプレイにアイドリングストップ時間が表示されます。

(アイドリングストップ時間
→ 157 ページ)



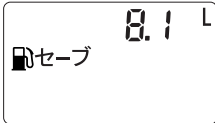


車を運転するにあたって メーターのはたらき

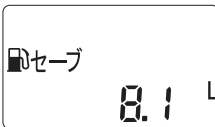
○節約燃料表示（積算）

表示をリセットしてからの、アイドリングストップ時に節約した燃料量を表示します。

スマートアシスト装着車以外



スマートアシスト装着車



▼節約燃料表示（積算）をリセットするには
節約燃料（積算）の表示中、ディスプレイ切り替えスイッチを約1秒以上押し続けると、表示が「0mL」になります。
同時にアイドリングストップ積算時間もリセットされます。

👉 アドバイス

- 電源を“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 「999mL」より大きくなると「1.0L」と表示されます。
最大表示は、「99.9L」です。
- 節約燃料表示（積算）と連動して、マルチインフォメーションディスプレイにアイドリングストップ積算時間が表示されます。

（アイドリングストップ積算時間
→ 158 ページ）



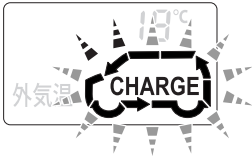


○発電状態表示

スマートアシスト装着車以外

発電制御中、車マーク内に“CHARGE”が表示され、車マークの矢印が反時計回りに点灯します。

(発電制御→ 225 ページ)



👉アドバイス

- 矢印の回転速度は、発電量に応じて3段階で変化し、発電量が大きいほど回転は速くなります。

▼ 発電状態の表示／非表示を切り替えるには
発電状態表示の設定画面を表示させ、ディスプレイ表示切り替えスイッチを約1秒以上押し続けるごとに“On”、“OFF”が切り替わります。

表示	発電状態表示の “CHARGE”と矢印回転点灯
On	する
OFF	しない

👉アドバイス

- 下記の場合は発電状態表示（“CHARGE”と矢印回転）が点灯しません。
 - ・アイドリングストップ中
 - ・エンジン冷却水温が低いとき
- 下記の場合は発電状態表示（“CHARGE”と矢印回転）が点灯しないことがあります。
 - ・エアコンを使用しているとき
 - ・ヘッドランプが点灯しているとき



車を運転するにあたって メーターのはたらき

エコドライブアシスト照明

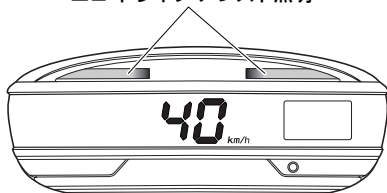
エコドライブアシスト照明の設定が“ILL On”のときに、走行状態に応じてエコドライブ（二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転）の度合いを判定し、エコドライブアシスト照明が変化します。

- 電源を“ON”にすると数秒間、グリーン色に点灯します。
- 走行速度にあったアクセルペダルの操作でエコ運転をしていると、エコドライブアシスト照明色が変化します。

アンバー照明仕様車

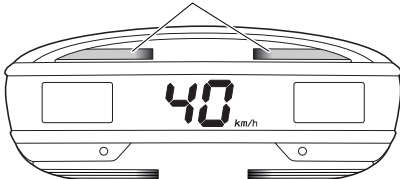
<スマートアシスト装着車以外>

エコドライブアシスト照明



<スマートアシスト装着車>

エコドライブアシスト照明

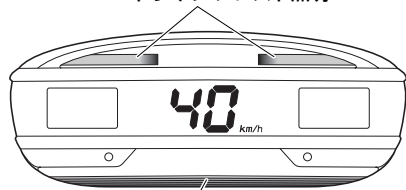


エコ運転 度合	照明色			エコ運転 度合
	アンバー	イエロー	グリーン	
低	↔			高

ブルー照明仕様車

<スマートアシスト装着車以外>

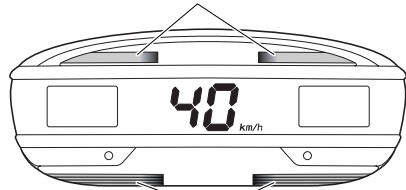
エコドライブアシスト照明



エコドライブアシスト照明

<スマートアシスト装着車>

エコドライブアシスト照明



エコドライブアシスト照明

エコ運転 度合	照明色			エコ運転 度合
	ブルー	スカイ ブルー	グリーン	
低	↔			高

(エコドライブアシスト照明の表示設定→159 ページ)

アドバイス

- アイドリングストップ中はグリーン色になります。
(「アイドリングストップ」→212 ページ)



表示灯、警告灯のはたらき

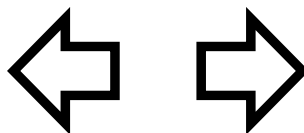
表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

⚠注意

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

方向指示器表示灯



○方向指示器表示灯

電源が“ON”で、方向指示灯を点滅させると、同時に表示灯が点滅します。

○非常点滅表示灯

- 電源に関係なく、非常点滅灯を点滅させると、同時に左右の表示灯が点滅します。
- 約 60km/h以上で走行中に急ブレーキをかけて、自動で非常点滅灯が高速点滅すると、同時に左右の表示灯が高速点滅します。
(エマージェンシー ストップ シグナル
→ 77 ページ)

👉アドバイス

点滅する間隔が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

ハイビーム/パッシング表示灯



電源に関係なく、ヘッドランプを上向き
の状態にすると点灯します。

ライティング スイッチ表示灯



電源に関係なく、車幅灯が点灯している
ときに点灯します。

水温表示灯（緑色）



- 電源が“ON”で、エンジン冷却水温が低いとき、緑色に点灯します。
- 電源が“ON”で、暖機を十分続けていても、水温センサー等に異常があると点滅、または点灯したままになります。

⚠注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

暖機を十分続けていても緑色に点滅・点灯したままの場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

👉アドバイス

エンジン冷却水温が異常に高いときは

- 水温警告灯としてはたらき、赤色に点滅・点灯します。

(水温警告灯（赤色） → 174 ページ)



セキュリティ表示灯

キーレス アクセス装着車

- 電源を“ACC”から“OFF”にして、イモビライザー機能を作動させると点滅します。
- 電源を“OFF”から“ACC”にして、イモビライザー機能を解除すると消灯します。

(イモビライザー機能→ 197 ページ)

⚠注意

- アクセス キーによりエンジンを始動した場合、電源が“ACC”、または“ON”で、下記のことを行うと、表示灯が高速で点滅し、警告ブザー（室内は「ピピピピピ」、室外は「ピッピッピッ」という音）が鳴ることで、アクセス キーの持ち出しを警告します。
(警告ブザー、メーター表示による警告 → 118 ページ)
- いずれかのドアを一度開けて、アクセス キーを車室内アンテナの作動範囲外に移動させ、ドアを閉めたとき。
(作動範囲→ 193 ページ)
- また、アクセス キーを車室内アンテナの作動範囲外に置いたまま、運転席ドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われます。

👉アドバイス

- セキュリティ表示灯は盗難警報装置と兼用しているため、キーレス アクセス操作・電波式リモコン ドア ロック操作によりドアを施錠すると、約 30 秒間点灯にかかります。
また、盗難警報装置が解除されていない場合は、電源を“ACC”にしても消灯しない場合があります。

プッシュ エンジン スイッチを押すと、高速で点滅した場合

- アクセス キーが車室内アンテナの作動範囲外にあることが考えられます。
運転者はアクセス キーを身に付けてください。
それでも消灯しない場合、電池が消耗しているおそれがあります。早めに電池を交換してください。
(キーの電池交換→ 341 ページ)

電波式リモコン ドア ロック装着車

(盗難警報装置→ 127 ページ)



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

シフト セレクト インジケーター

(P)(R)(N)(D)(S)(B)



- 電源が“ON”のとき、使用中のセレクト レバーの位置が点灯します。
- Rレンジにすると、“[]”が点滅しなくなります。

「アイドリング ストップ」* 表示灯

eco
IDLE

(「アイドリング ストップ」
表示灯→ 220 ページ)

「アイドリング ストップ」 OFF表示灯

eco
IDLE
OFF

(「アイドリング ストップ」
OFF表示灯→ 221 ページ)

VDC*作動表示灯

VDC&TRC装着車



(VDC→ 78 ページ)

(TRC→ 80 ページ)

(VDC作動表示灯→ 83 ページ)

VDC OFF表示灯

VDC&TRC装着車



(VDC→ 78 ページ)

(VDC OFF表示灯→ 83 ページ)

TRC OFF表示灯

VDC&TRC装着車

TRC
OFF

(TRC→ 80 ページ)

(TRC OFF表示灯→ 83 ページ)

* 本書では、eco IDLEを「アイドリング ストップ」と表記しています。

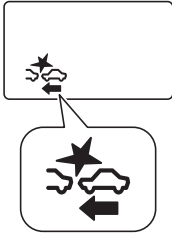
* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control (ビークルダイナミクス コントロール) の略です。



スマートアシスト作動灯

スマートアシスト装着車



(スマートアシスト→ 86 ページ)
(スマートアシスト作動灯
→ 101 ページ)

スマートアシストOFF表示灯

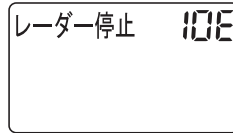
スマートアシスト装着車



(スマートアシスト→ 86 ページ)
(スマートアシストOFF表示灯
→ 101 ページ)

レーダー “停止” 表示

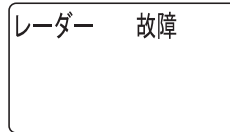
スマートアシスト装着車



(スマートアシスト→ 86 ページ)
(レーダー “停止” 表示→ 102 ページ)

レーダー “故障” 表示

スマートアシスト装着車



(スマートアシスト→ 86 ページ)
(レーダー “故障” 表示→ 101 ページ)



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告します。

⚠注意

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 電源を“ON”にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠注意

点灯・点滅した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

オイル プレッシャー警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジン オイルの圧力が低下すると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

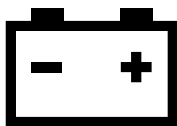
- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、スバル販売店にご連絡ください。

👉 アドバイス

- オイル プレッシャー警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイル レベル ゲージで行ってください。（オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンス ノート」参照）



チャージ警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

👉アドバイス

- エンジン始動後に警告灯がしばらく点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。

ブレーキ警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。
- 電源が“ON”で、下記の場合に点灯します。

▼点灯理由

- 駐車ブレーキが完全に解除されていないとき
- ブレーキ液の液量が不足しているとき
- EBD制御に異常があるとき

▼駐車ブレーキが解除されている場合

電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

○警告ブザー

駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

⚠️注意

- 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキパッドの摩耗が考えられます。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

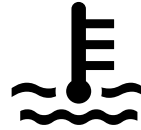
エンジン回転中、駐車ブレーキを解除しても、点灯したまま消灯しない場合

- ブレーキ液量の不足が考えられます。この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

ABS警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

水温警告灯（赤色）



- 電源を“ON”にすると赤色に点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、エンジン冷却水温が異常に高くなると赤色に点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

⚠️注意

赤色に点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバーヒートが考えられます。ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。

（オーバーヒートの処置
→ 300 ページ）

👉アドバイス

エンジン冷却水温が低いときは

- 水温表示灯としてはたらき、緑色に点灯します。

（水温表示灯（緑色）→ 168 ページ）

○警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が赤色点滅、または赤色点灯しているときは、ブザーが鳴ります。

👉アドバイス

- ブザーは警告灯が赤色点滅時は断続的に鳴り、警告灯が赤色点灯に変わると同時に連続音に変わります。



CVT警告灯

CVT

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、CVTシステムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠注意

点灯・点滅した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

シートベルト警告灯（運転席）



- 電源が“ON”で、運転席側シートベルトを装着していないと点滅します。
- シートベルトを着用すると消灯します。

○警告ブザー

シートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

👉アドバイス

- 1 度警告ブザーが鳴ると、たとえ約 20km/h以下で走行しても、約 2 分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシートベルトを着用してください。
- ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の速さが変わります。



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

半ドア警告灯



電源に関係なく、いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを完全に閉めると消灯します。

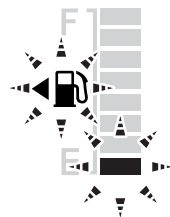
⚠注意

- 警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

👉アドバイス

- バッテリーあがり防止のため、電源が“OFF”または“ACC”で、ドアを開けたまま約 10 分が経過すると、警告灯が自動的に消灯します。

燃料残量警告灯



電源が“ON”のとき、燃料残量が 2WD 車は約 6l、AWD車は約 5.5l以下になると、燃料計の一番下の目盛りと燃料残量警告灯が点滅し、さらに燃料が少なくなると点滅が速くなります。

⚠注意

点滅した場合

- ただちに燃料を補給してください。燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

👉アドバイス

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点滅することがあります。



ABS警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、ABSに異常があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABSに異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。



アドバイス

- エンジン始動後に警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

SRSエアバッグ警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
（SRSエアバッグ→ 63 ページ）
- SRSサイド エアバッグ
（オプション/グレード別装備）
（SRSサイド エアバッグ
→ 69 ページ）
- プリテンショナー機構
（プリテンショナー機構
→ 49 ページ）

⚠注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

ステアリング制御警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。
- エンジンが回転中で、電動パワーステアリングシステムに異常があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

👉アドバイス

- ハンドル操作を行ったとき、モーター音（「ウィーン」という音）が聞こえることがあります。
これは、パワーステアリングモーターが作動しているときの音で、異常ではありません。
- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するため、パワーステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。
この場合、しばらくハンドル操作を控えてください。
ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。

VDC* & TRC警告灯

VDC&TRC装着車



- (VDC→ 78 ページ)
- (TRC→ 80 ページ)
- (VDC&TRC警告灯→ 82 ページ)

スマートアシスト警告灯

スマートアシスト装着車



- (スマートアシスト→ 86 ページ)
- (スマートアシスト警告灯
→ 100 ページ)

キーレス アクセス電池残量 警告灯

キーレス アクセス装着車



- (キーレス アクセス電池残量警告
→ 120 ページ)

* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

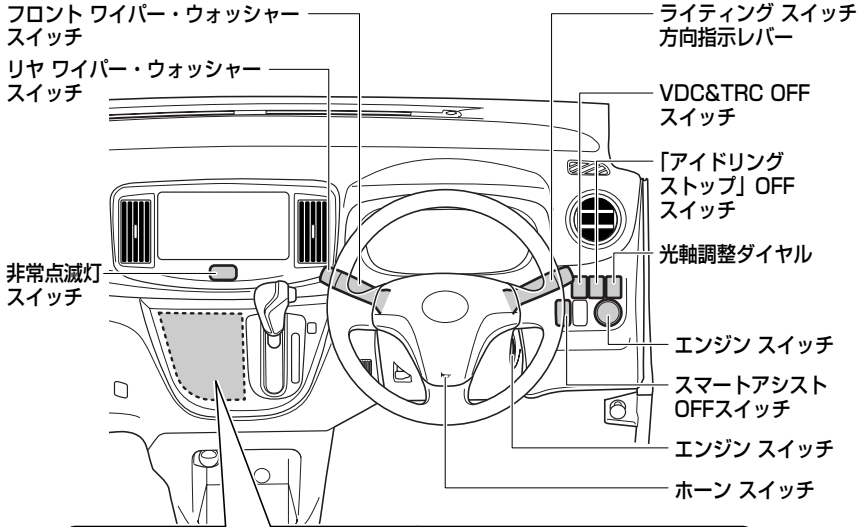
* VDCは、Vehicle Dynamics Control（ビークルダイナミクスコントロール）の略です。



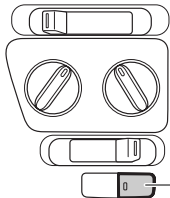
スイッチの使いかた

スイッチの名称

グレードの違い、オプションも含まれています。

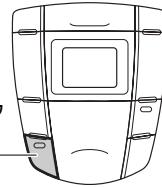


マニュアル エアコン装着車



リヤ ウィンドウ
デフォグガー
スイッチ

オート エアコン装着車



リヤ ウィンドウ
デフォグガー
スイッチ



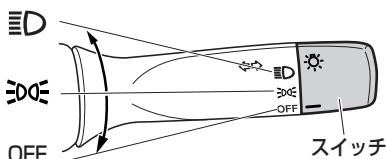
車を運転するにあたって スイッチの使いかた

ライティング スイッチ

ランプの点灯

▼操作方法

スイッチを回すと、下表のランプ類が点灯します。



ランプ スイッチ位置	前照灯	車幅灯 番号灯 尾灯
OFF	—	—
1/2	—	点灯
3/4	点灯	点灯

⚠注意

バッテリーあがりを防止するために

- エンジン停止中は、ランプ類を長時間点灯しないでください。また、車から離れるときは、必ずライティングスイッチを“OFF”にしてください。

ランプの消灯

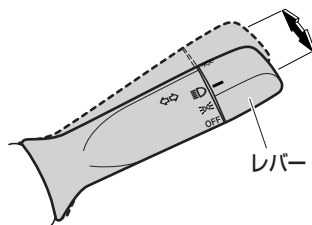
▼操作方法

スイッチを“OFF”の位置にします。

ヘッドランプの切り替え

▼操作方法

ライティングスイッチが“3/4”の位置のときレバーを押すと、前照灯が上向き（ハイビーム）になり、戻ると下向き（ロービーム）になります。



⚠注意

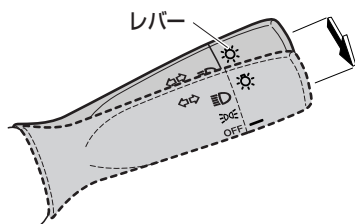
- 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や通行人の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

▼一時的に使用する場合

👉アドバイス

- 前照灯が上向きのときは使用できません。

レバーを手前に引いている間、前照灯が上向きに点灯します。







ランプ自動消灯機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、ランプ類を点灯したまま、電源を“OFF”または“ACC”にして、運転席のドアを開けると、ランプ類が自動で消灯します。

再びランプを点灯させる場合は、以下の操作をします。

- 電源を“ON”にする

または

- ライティング スイッチを“OFF”に戻し、再度“”または“”の位置にする（ただし、節電機能が働き、約 10 分後に自動で消灯します）

節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、電源が“OFF”または“ACC”の状態でもランプ類が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後に自動消灯します。

自動消灯した後、次のいずれかの操作をおこなうと、節電状態は解除され、ランプ類が点灯します。

- 電源を“ON”にする

または

- ライティング スイッチを操作する、またはいずれかのドアを開閉する（ただし、約 10 分後に再び自動で消灯します）

ランプ消し忘れ警告ブザー

電源が“OFF”または“ACC”の状態でも、ランプを点灯して、運転席のドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りランプの消し忘れを知らせてくれます。



アドバイス

- 運転席ドアを開けたときに、ランプ類が自動消灯機能により消灯した場合、警告ブザーは鳴りません。



車を運転するにあたって スイッチの使いかた

光軸調整ダイヤル

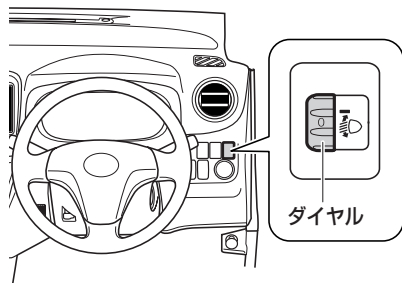
ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

乗員数や積載量によって車両の姿勢が変化し、ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回すことで光軸を下向きに調整することができます。

通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上向きの位置）で使用します。

▼操作方法

ダイヤルを回転させると、ヘッドランプの光軸が上下に変わります。ダイヤルの数字が大きいほど下向きになります。



アドバイス

- 乗員数などに応じて、下表を目安にダイヤルを調整してください。

乗車や荷室の積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	0
4名乗車時	1.5
4名乗車で荷室満載時	3
運転席のみ乗車で荷室満載時	3.5

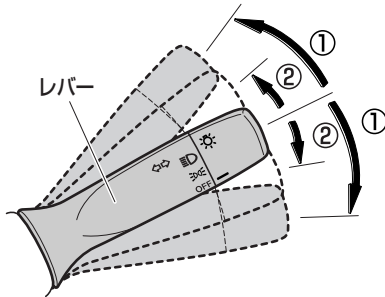
- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、ダイヤルを“0”にしてから行ってください。



方向指示レバー

▼操作方法

レバーを①の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。レバーはハンドルを戻すと自動的に戻ります。車線変更などのときには、レバーを②の位置まで軽く上下に押すと点滅し、手を離すと消灯します。



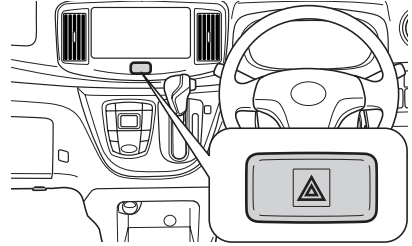
📱アドバイス

- ハンドルの切れ角が小さいと、レバーが自動的に戻らないときがあります。手で戻してください。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

非常点滅灯スイッチ

▼操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。



⚠️注意

- 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。
- 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。
- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因となります。



ワイパー・ウォッシャー スイッチ

△注意

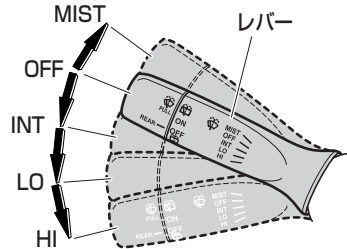
- 空ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。
- フロント ワイパー アームを起こすときは、必ず運転席側のワイパー アームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパー アームから戻してください。
- 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパー ゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパー モーターが損傷し、故障の原因になります。
- 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパー モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けしないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。

フロント

電源が“ON” のとき使用できます。

○ワイパーの使いかた

レバーを下げると、ワイパーが作動します。



MIST	一時作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

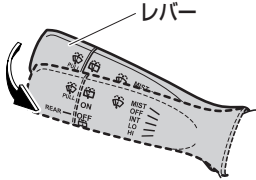
👉 アドバイス

- MIST（一時作動）はレバーを“OFF”から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと“OFF”に戻ります。



○ウォッシャー液の噴射

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。



アドバイス

- フロント ウォッシャーを作動させると連動してフロント ワイパーが低速作動します。

○車速感应式フロント ワイパー

オプション/グレード別装備

レバーを“INT”の位置(間欠作動)にしたとき、車速に応じてワイパーが作動します。

アドバイス

- 間欠作動中は、車速が速くなると車速に応じて間隔が速くなります。
- 車速感应作動の機能を停止することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

リヤ

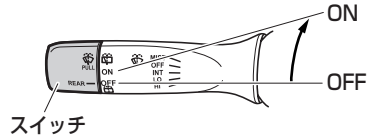
オプション/グレード別装備

電源が“ON”のとき使用できます。

○ワイパーの使いかた

スイッチを“ON”の位置に回すと、リヤワイパーが作動します。

- 約4秒間低速作動し、その後、間欠作動します。



アドバイス

- 下記のように、間欠作動の機能を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
- 間欠作動の間隔を変更する
- 間欠作動の機能を停止し、低速作動のみ続けるようにする

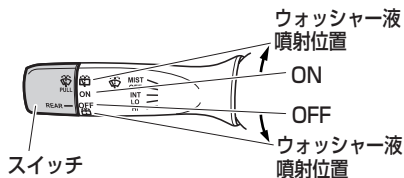


車を運転するにあたって スイッチの使いかた

○ウォッシャー液の噴射

リヤ ワイパー作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、スイッチを“ON”の位置から上側の“ウォッシャー液噴射位置”に回します。

また、スイッチを“OFF”の位置から下側の“ウォッシャー液噴射位置”に回しても噴射します。



👉 アドバイス

- 上側の“ウォッシャー液噴射位置”に回すと、連動してリヤ ワイパーが低速作動します。

○リバース連動リヤ ワイパー

フロント ワイパーが作動中、または作動後約 10 秒以内に、セレクト レバーをⓂにすると、リヤ ワイパーが数回作動します。

👉 アドバイス

- 下記の場合、セレクト レバーをⓂにしても、リヤ ワイパーは作動しません。
- フロント ワイパーが作動後、約 10 秒以上経過しているとき
- フロント ウォッシャーを作動させてから約 10 秒以内のとき
- 機能を停止することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。



リヤ ウインドウ デフォグガー スイッチ

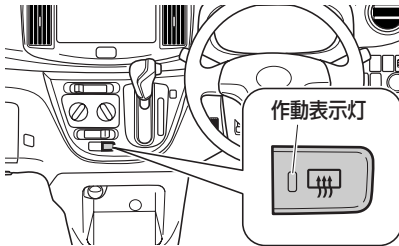
リヤ ウインドウ ガラスの曇りを取る
ときに使います。

▼操作方法

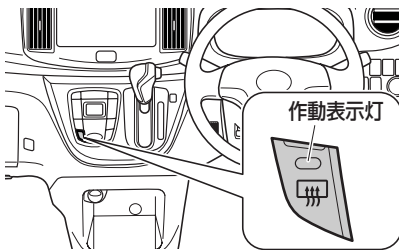
スイッチを押すと作動表示灯が点灯し、
リヤ ウインドウ ガラスと、電動格納式
ヒートド ドア ミラー装着車はドア ミ
ラーが暖められ曇りが取れます。

作動を停止するときは、スイッチをもう
一度押してください。作動表示灯も消灯
します。

マニュアル エアコン装着車



オート エアコン装着車



アドバイス

- エンジンを止めた状態で長時間使用し
ないでください。バッテリーあがりの
原因になります。
- リヤ ウインドウ ガラス内面を清掃す
るときは、電熱線を傷付けないでく
ださい。

オート エアコン装着車

- スイッチを押すと、約 15 分~60 分後
に自動的に作動が停止します。
(外気温や車両の走行状態によって作
動時間が異なります)



車を運転するにあたって スイッチの使いかた

VDC* & TRC OFFスイッチ

オプション/グレード別装備

(VDC&TRC→ 78 ページ)

(VDC&TRC OFFスイッチ→ 84 ページ)

「アイドリング ストップ」* OFFスイッチ

(「アイドリング ストップ」OFF

スイッチ→ 222 ページ)

* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control（ビークルダイナミクス コントロール）の略です。

* 本書では、eco IDLEを「アイドリング ストップ」と表記しています。



スマートアシストOFF スイッチ

オプション/グレード別装備

(スマートアシストOFFスイッチ
→ 104 ページ)

ホーン スイッチ

ハンドルの☞マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。



アドバイス

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。



運転装置の使いかた

エンジン スイッチ

⚠警告

- 走行中は、エンジン スイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンをかけるときやオーディオを聞くとときなどに使用します。

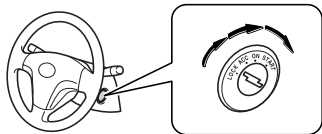
⚠注意

- エンジンを止めた状態で、電源を“ON”または“ACC”にしたまま長時間放置しないでください。バッテリーあがりの原因になります。

キー差し込みタイプ

キーレス アクセス装着車以外

挿入口にキーを差し込んで回し、エンジンの始動、停止を行います。



位置	はたらき
LOCK	● 電源“OFF” エンジン停止 キーを抜き差しする位置です。 キーを抜くとハンドルがロック されます。
ACC	● 電源“ACC” エンジン停止 オーディオが聞ける位置です。
ON	● 電源“ON” エンジン停止 すべての電装品が使用できます。 ● 電源“ON” エンジン回転 通常走行中の位置です。
START	● 電源“ON” エンジン始動 エンジンを始動するときの位置 です。手を離すと自動的に“ON” の位置に戻ります。

⚠注意

- エンジン始動後は、すぐにキーから手を離してください。“START”の位置にしたまましていると、エンジンを損傷するおそれがあります。

👉アドバイス

- キーは確実にエンジン スイッチに差し込んで操作してください。

ハンドル ロックを解除するには

- キーが“LOCK”から“ACC”の位置に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。



プッシュ エンジン スイッチ

キーレス アクセス装着車

⚠注意

- 走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けないでください。ドアを開けるとハンドル ロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停車させたあと、ただちに、スバル販売店にご連絡ください。
- スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、ただちに、スバル販売店にご連絡ください。
- スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
- スイッチに飲み物などをこぼさないでください。万一、こぼした場合は、ただちにスバル販売店にご連絡ください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、スイッチの表面が熱くなる場合がありますので、やけどをしないように気をつけてください。
- 車幅灯を点灯させても、スイッチの照明が点灯しないときは、スバル販売店にご連絡ください。

⚠注意

- 車両は常に電源の状態（“ACC”または“ON”）を記憶しているため、車両のバッテリーを再接続したときは、電源が絶たれる前の電源の状態に復帰します。修理などで車両のバッテリーを外すときは、必ず電源を“OFF”にしてから行ってください。
車両のバッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前の電源の状態がわからないときは、一度電源を“OFF”にしてください。
- 車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約 10 秒以上待ってからエンジンを始動してください。
- セレクト レバーがPレンジのとき、電源が“ACC”のまま約 1 時間放置すると、バッテリーあがり防止のため、自動的に電源が“OFF”になります。

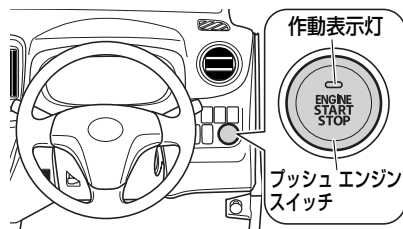




車を運転するにあたって 運転装置の使いかた

アンテナから発する電波をアクセス キーが感知することによって、電源のロックが解除され、エンジンの始動、停止を行うことができます。

- アクセス キーを所持して車室内アンテナの作動範囲に入ると、プッシュ エンジン スイッチを押して、電源を“OFF”から“ACC”にすることができます。



電源の状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	はたらき
OFF	消灯	停止	ハンドルがロックされ、キーレス アクセスの通信を開始します。
ACC	橙色	停止	オーディオが聞ける状態です。
ON	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。
ON	消灯	回転中	通常走行中の状態です。

⚠注意

- プッシュ エンジン スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。いったん電源を“OFF”にすると、エンジンを再始動できなくなることがありますので、ただちに、スバル販売店にご連絡ください。



アドバイス

ハンドル ロックを解除するには

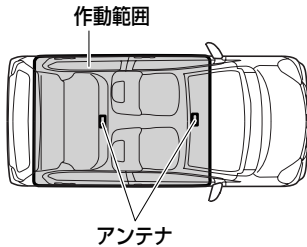
- エンジンの始動操作をしたときに、プッシュ エンジン スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、ハンドル ロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。

ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。



○作動範囲

車室内です。



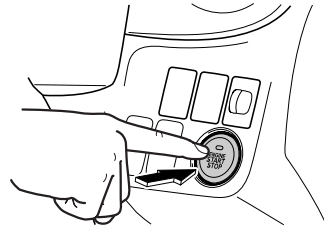
📱アドバイス

- インストルメント パネルの上や中（グローブ ボックス内など）・荷室・ドア ポケット内など、電波を感じない場所があります。
- 車外でもドアやドア ハンドルに近付きすぎた場合は、エンジン始動が可能になることがあります。
- エンジン始動後にアクセス キーを車外に持ち出さないでください。持ち出したままエンジンを停止すると、アクセス キーが車内に無いためにエンジンの再始動ができなくなります。特にドアを閉めたまま窓からアクセス キーを持ち出した場合は、持ち出しの警告ブザーが鳴らないので注意してください。

（セキュリティ表示灯→ 169 ページ）

○電源の切り替え

1. アクセス キーを携帯し、運転席に座ります。
2. ブレーキ ペダルを踏まずに、スイッチを押します。
スイッチを押すごとに電源が「OFF→ACC→ON→OFF」の順に切り替わります。



- ブレーキ ペダルを踏んでいないときは、エンジンは始動しません。
- 車両が停止していないときは、電源を“ON”から“OFF”にしないでください。
- 電源を“ACC”にするとセキュリティ表示灯が消灯します。
（セキュリティ表示灯→ 169 ページ）



車を運転するにあたって 運転装置の使いかた

⚠️注意

- スイッチを押したとき、セキュリティ表示灯が消灯せず、高速で点滅したときは、アクセス キーが作動範囲外にある可能性があります。アクセス キーを確認してください。
- 車両のバッテリーがあがっている場合ハンドル ロックが作動しません。

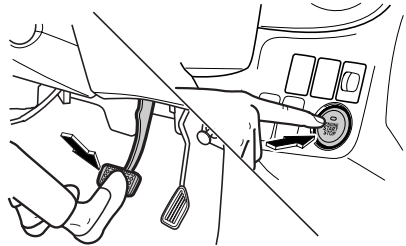


アドバイス

- 電源が“ACC”または“ON”のときは、作動表示灯が橙色に点灯します。
- スイッチを早押しした場合、電源が切り替わらないことがあります。目的の電源の状態になるまで、1 回ずつ確実に押してください。
- 電源が“ACC”のときに運転席ドアを開けると、ブザー（断続音）が鳴り、電源の切り忘れを警告します。
- 運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にするとハンドル ロックが作動しません。
このとき、警告ブザー（断続音）が鳴り、ハンドルがロックされていないことを警告します。運転席ドアを閉めて、警告ブザーを停止させてください。

○エンジンの始動

1. アクセス キーを携帯し、運転席に座ります。
2. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
3. ブレーキ ペダルを踏みながら、スイッチを押します。



- ブレーキ ペダルを踏んでいないときは、エンジンは始動しません。
- エンジンを始動するとセキュリティ表示灯が消灯します。
(セキュリティ表示灯→ 169 ページ)
- エンジンを始動すると、作動表示灯は消灯します。
- ブレーキ ペダルを踏みながらスイッチを押せば、どの電源の状態からでもエンジンを始動することができます。



アドバイス

- エンジンが始動しない場合、ブレーキペダルを踏まずにスイッチを押して、一度電源を“OFF”にしたあと、再度ブレーキペダルを踏みながら、もう一度スイッチを押してください。
- エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンが始動できない場合があります。この場合は約 10 秒以上待ってから、再びエンジンの始動操作を行ってください。
- スイッチを早押しした場合、エンジンが始動・停止しないことがあります。
- 電源が“ACC”のときに運転席ドアを開けると、ブザー（断続音）が鳴り、電源の切り忘れを警告します。

ハンドル ロックを解除するには

- エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せずに、スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負担により、ハンドルロックが解除されていません。ハンドルを左右に動かしながら、ブレーキペダルを踏み、スイッチを押し直してください。

○エンジンの停止

車両を完全に停止させ、セレクトレバーをⓂレンジにし、スイッチを押します。

- 電源が“OFF”になり、エンジンが停止します。

警告

- 下記の操作を行うと、走行中でもエンジンが止まります。ただし、緊急時以外は走行中にプッシュエンジンスイッチの操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- プッシュエンジンスイッチを 3 秒以上押し続ける
- プッシュエンジンスイッチを 3 回以上連打する

注意

- セレクトレバーがⓂレンジ以外の場合、エンジンを停止させないでください。セレクトレバーがⓂレンジ以外でエンジンを停止した場合、電源が“ACC”になるため、そのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。

アドバイス

- セレクトレバーがⓂレンジ以外でスイッチを押すと、電源は“ACC”になります。セレクトレバーをⓂレンジにして、電源を“OFF”にしてください。





アドバイス

- 運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にするとハンドルロックが作動しません。このとき、警告ブザー（断続音）が鳴り、ハンドルがロックされていないことを警告します。運転席ドアを閉めて、警告ブザーを停止させてください。

○ 電池の消耗などにより、アクセスキーが使用できないとき
プッシュ エンジン スイッチにアクセスキー、またはメイン キーを接触させることで、電源を“ON”にすることができません。

(アクセス キーが使用できないとき
→ 316 ページ)

キー インター ロック

キーレス アクセス装着車以外

誤操作防止のため、セレクト レバーがPレンジ以外のときに、エンジン スイッチが“LOCK”の位置まで回らないようにする装置です。

▼ 操作方法

エンジン スイッチを“ACC”から“LOCK”の位置にするときは、セレクト レバーをPレンジにしてから行います。

注意

- セレクト レバーがPレンジ以外では、キーは“LOCK”位置まで回すことができないため、キーを抜くことができません。



イモビライザー機能

キーレス アクセス装着車

車両の盗難防止のため、アクセス キーおよびメイン キーには信号アンテナが内蔵されており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンの始動ができません。

▼操作方法

- 電源を“OFF”にすると、イモビライザー機能が作動し、セキュリティ表示灯が点滅します。
(セキュリティ表示灯→ 169 ページ)
- 電源を“OFF”から“ACC”にすると、イモビライザー機能が解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



アドバイス

- セキュリティ表示灯は盗難警報装置と兼用しているため、キーレス アクセス操作・電波式リモコン ドア ロック操作によりドアを施錠すると、約 30 秒間点灯にかかります。
また、盗難警報装置が解除されていない場合は、電源を“ACC”にしても消灯しない場合があります。
- アクセス キー、メイン キーに登録された信号はキーごとに異なります。

駐車ブレーキ

⚠️注意

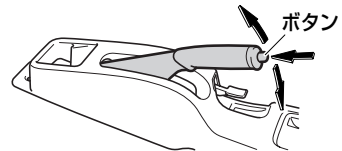
- 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、ブレーキ警告灯が消灯していることを必ず確認してください。
駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼かけるとき

- ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引き上げます。
- 電源が“ON”のときは、ブレーキ警告灯が点灯します。

▼解除するとき

- レバーを軽く引き上げながらボタンを押し、レバーを確実に戻します。
- 電源が“ON”のときは、ブレーキ警告灯が消灯します。



アドバイス

- 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。
(ブレーキ警告灯→ 173 ページ)



車を運転するにあたって 運転装置の使いかた

坂道に駐車するとき

▼操作方法

坂道に駐車するときは、駐車ブレーキをかけるとともに、セレクトレバーを②レンジに入れます。さらに輪止めもしてください。

AWD車

オプション/グレード別装備

△注意

- AWD車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。
また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。
- AWD車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

フル タイムAWDシステム

👉 アドバイス

- プレオ プラスは、フル タイムAWDシステムを採用しています。フル タイムAWDシステムは、2WDとAWDを切り替えるモード切り替えスイッチはありません。またAWD表示灯もありません。



AWD車のタイヤ交換

AWD車は4つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。

タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

⚠️注意

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤ交換をするときは、4輪とも同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

👉アドバイス

- タイヤ空気圧の点検は最低でも月に1回行ってください。タイヤの空気圧が前輪と後輪で大きく異なるときは、車の性能が十分に発揮できません。（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- タイヤのローテーションは5,000kmごとに行ってください。タイヤ間で摩耗差があると車の性能が十分に発揮できません。
- タイヤチェーンは必ず前輪に装着してください。



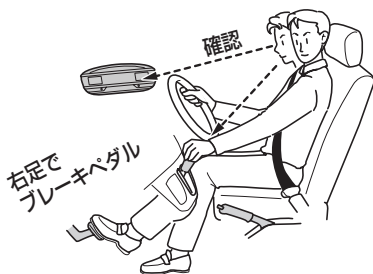
エンジンのかけかた

CVT車

エンジン始動の準備

▼操作方法

1. 駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーが回レンジの位置にあることを確認します。
2. ペダル類が確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるようにシートの位置を調整します。
3. アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルを右足で踏み位置を確認します。



エンジンをかけるとき

▼操作方法

プッシュ スタート装着車以外

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みま
す。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エン
ジン スイッチを“START”の位置ま
で回します。

プッシュ スタート装着車

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みま
す。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、スイ
ッチを押します。

(プッシュ エンジン スイッチ
→ 191 ページ)

⚠注意

- エンジン始動時は、必ず運転席に座っ
てエンジンをかけてください。窓越し
からエンジンをかけると車が急に動き
出すおそれがあり危険です。
- エンジン冷却水温が低い間は、急激な
空ぶかし、急加速、高速走行はしな
いでください。



アドバイス

- エンジンの始動性を良くするためにランプ、リヤ ウィンドウ デフォッガー、ヒーター ファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただしブレーキ警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドルリング回転に下がります。
- プッシュ スタート装着車でアクセスキーを使用してエンジン始動する場合、通信エラーなどでエンジンの始動ができないことがあります。このときは、ブレーキ ペダルを踏まずにスイッチを押して、一度電源を“OFF”にしたあと、再度ブレーキ ペダルを踏みながら、もう一度スイッチを押してください。

○ エンジン スタート サポート

エンジン スタート サポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジン スイッチを“START”の位置で保持する（プッシュ スタート装着車はスイッチを押し続ける）必要はありません。

アドバイス

- エンジン スタート サポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置（プッシュ スタート装着車は電源を“ACC”または“OFF”）にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジン スタート サポート作動中に始動操作が中断されることがあります。

エンジンをとめるとき

▼ 操作方法

プッシュ スタート装着車以外

エンジンをとめるときは、アイドルリング回転にしてからエンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にします。

プッシュ スタート装着車

エンジンをとめるときは、アイドルリング回転にしてからスイッチを押します。

（プッシュ エンジン スイッチ

→ 191 ページ）



CVT車の運転

CVT車

CVT車は、ギヤチェンジやクラッチペダルの操作から解放され、運転は大変楽になります。いくつかの特性があります。CVT車の運転の基本を理解し、正しく操作する習慣を身に付けてください。

CVT車の特性

○クリーブ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、Nレンジ以外の位置で動力がつかなくなった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

△注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がリ（アイドルアップ）、クリーブ現象が強くなります。その際、ブレーキペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。

👉アドバイス

- 停車中は、平坦時であっても車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリーブ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

セレクトレバー

セレクトレバーの操作は確実に行ってください。

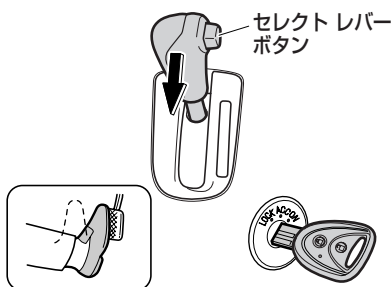
○シフトロック装置

誤操作防止のため、シフトロック装置が付いています。

▼シフトロック解除方法

プッシュスタート装着車以外

エンジンスイッチを“ON”または“ACC”の位置にし、ブレーキペダルを踏むと、セレクトレバーの操作ができます。



プッシュスタート装着車

電源を“ON”にし、ブレーキペダルを踏むと、セレクトレバーの操作ができます。



👉 アドバイス

- セレクト レバーはブレーキ ペダルを踏みながらでない、**P**レンジからほかのレンジへは動きません。
- 先にセレクト レバー ボタンを押した状態で、ブレーキ ペダルを踏むと、セレクト レバーが動かない場合があります。一度ボタンから手を離し、ブレーキ ペダルを先に踏んでから操作してください。

プッシュ スタート装着車以外

- エンジン スイッチが“LOCK”の位置では、ブレーキ ペダルを踏んでもセレクト レバーは**P**レンジからほかのレンジへは動きません。

プッシュ スタート装着車

- 電源が“ON”以外では、ブレーキ ペダルを踏んでもセレクト レバーは**P**レンジからほかのレンジへは動きません。

○シフト ロック解除ボタン

プッシュ スタート装着車

シフト ロックを解除するためのボタンです。バッテリーあがりなどで、セレクト レバーが**P**レンジからほかのレンジへ動かないときに使用します。

▼シフト ロック解除方法

ブレーキ ペダルを踏んだ状態で、シフト ロック解除ボタンを押しながら、セレクト レバーを操作します。

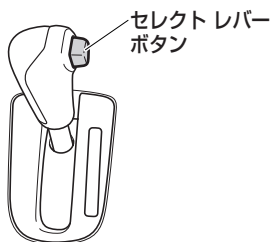
- 必ずブレーキ ペダルを踏みながら操作してください。





セレクト レバーの操作

セレクト レバー部には、セレクト レバーを動かすときに使用するセレクト レバー ボタンが装着されています。



▼操作する前に

⚠警告

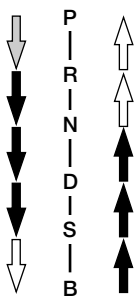
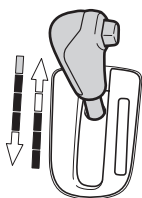
- PレンジからRレンジへセレクト レバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、セレクト レバー ボタンを押して動かしてください。

各位置のはたらき

Pレンジ	駐車するとき、エンジンを始動するとき、およびキーを抜くときの位置
Rレンジ	車を後退させるときの位置 (車が完全に止まってから入れてください)
Nレンジ	一時停止などで動力を伝えない位置
Dレンジ	通常の走行をする位置 [前進] (速度に応じて無段階で自動的に変速されます)
Sレンジ	上り坂や下り坂を走行するときの位置 [前進] (エンジン ブレーキが必要なときの位置)
Bレンジ	急な上り坂や下り坂を走行するときの位置 [前進] (強いエンジン ブレーキが必要なときの位置)



セレクト レバーの動かし方



↓ ブレーキ ペダルを踏みながら
セレクトレバー ボタンを押して
動かしします。

↑ ↓ セレクトレバー ボタンを押して
動かしします。

↑ ↓ そのまま動かしします。

⚠警告

- ➡の操作は誤作動を防ぐため、セレクトレバー ボタンを押さずに動かしてください。常にセレクトレバー ボタンを押して操作していると、P・R・N・Dレンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中にNレンジに入れないでください。エンジン ブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が完全に止まらないうちにPレンジに入れないでください。また、前進走行中にRレンジ、および後退走行中にD・S・Bレンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



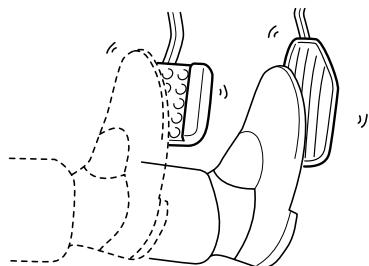


運転のしかた

エンジン始動前

▼操作を行う前に

アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの位置を右足で確認します。



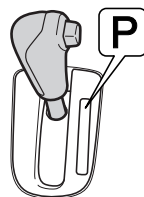
⚠注意

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキ ペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジン始動時

▼操作手順

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。
2. セレクト レバーがPレンジにあることを確認します。
3. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
4. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エンジン スイッチを“START”の位置にします。（プッシュ スタート装着車は、ブレーキ ペダルを踏んだままスイッチを押します。）





発進時

▼操作を行う前に

⚠警告

- PレンジからRレンジへセレクト レバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、セレクト レバー ボタンを押して動かしてください。
- アクセル ペダルを踏んだままセレクト レバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

▼操作手順

1. ブレーキ ペダルを右足で踏んだままセレクト レバーを前進であればDレンジに、状況に応じてS、Rレンジに、また後退のときはRレンジに入れます。
2. 駐車ブレーキを戻したあと、徐々にブレーキ ペダルから足を離し、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込み発進します。

⚠注意

- セレクト レバーがどの位置にあるかをセレクト レバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- セレクト レバーがP、Nレンジ以外の位置にあると、アクセル ペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。(クリープ現象)
- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり(アイドル アップ)、動こうとする力が強くなります。発進時にセレクト レバー操作をするときはしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、CVT車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどでDレンジからRレンジ、RレンジからDレンジと何度もセレクト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてから行ってください。
トランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐためにPレンジからRレンジ、NレンジからDレンジ、NレンジからRレンジにセレクト レバー操作をするときもブレーキ ペダルをしっかりと踏んでから行ってください。
- 坂道発進時など、アクセル ペダルとブレーキ ペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。





アドバイス

- セレクト レバーを[R]レンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にセレクト レバーが[R]レンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんが注意してください。

▼坂道発進する場合

1. 駐車ブレーキがしっかりかかっていることを確認しながら、セレクト レバーを[R]レンジに入れます。
2. 右足でアクセル ペダルをゆっくり踏み、車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進します。



アドバイス

- バッテリーとの接続が断たれ、接続を復帰させた直後は車両の動きがぎこちないことがあります。故障ではありません。

走行時

▼操作手順

1. 通常は[R]レンジで走行します。
2. 強い加速が必要な場合は、アクセルペダルを踏み込みます。
3. 長い下り坂や急な下り坂など、強いエンジン ブレーキを必要とする場合は、路面状態やスピードに応じて[D]レンジまたは[R]レンジに切り替えます。

⚠警告

- 坂道などでは、セレクト レバーを[D]、[S]レンジまたは[R]レンジに入れたまま惰性で後退したり、[R]レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。



⚠注意

- 走行中はNレンジに入れしないでください。エンジン ブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故の原因になります。
- 走行中にPレンジ、また前進走行中にRレンジに入れしないでください。トランスミッションに重大な損傷をあたえる原因となります。
- 滑りやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセル ペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂をDレンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。
このようなときに、フット ブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
Sレンジにしてエンジン ブレーキを併用してください。また、より強いエンジン ブレーキが必要な場合は、Bレンジに入れてください。
- ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。
- 走行中にアクセル ペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。走行中、アクセル ペダルを踏んでいるときにブレーキ ペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

👉アドバイス

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリーブ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。
- Dレンジの走行中に急加速を行うと、車速の上昇よりもエンジン回転数の上昇が早く感じられますが、CVTの変速制御によるもので問題ありません。

燃費向上のために

- 発進、加速はスムーズに行ってください。
CVT車は、軽くアクセル ペダルを踏むだけでスムーズに加速します。





一時停止時

▼操作手順

1. セレクト レバーは走行位置のままです。ブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けます。
2. 停車が長びくときは、ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをNレンジに入れます。
3. 発進するときは、セレクト レバーの位置を確認したあと、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込みます。

⚠注意

- 上り坂での停止はクリーブ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキ ペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリーブ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。

後退時

▼操作方法

車が完全に止まってからも、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み続け、セレクト レバーをRレンジに入れます。

⚠注意

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどはRレンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐNレンジに戻すよう習慣付けましょう。
- 切り返しなどでDレンジからRレンジ、RレンジからDレンジと何度もセレクト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。

👉アドバイス

- セレクト レバーをRレンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にセレクト レバーがRレンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんがご注意ください。



駐車時

▼ 操作手順

1. 車を完全に止めます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車
ブレーキをかけ、セレクト レバーを
Pレンジに入れます。
3. エンジン スイッチを“LOCK”の位
置まで回してキーを抜きます。（プ
ッシュ スタート装着車は、スイッチ
を押して電源を“OFF”にします）

⚠ 注意

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エンジンをかけたままで車から離れな
いでください。
- 車から離れるときはエンジン スイッ
チを“LOCK”の位置にしてキーを抜
いてください。（プッシュ スタート
装着車は、スイッチを押して電源を
“OFF”にします）
バッテリーあがりの原因となります。
- Pレンジでは車輪が固定されます。駐
車するときは必ずPレンジにあること
を確認してください。
- 車が完全に止まらないうちにPレンジ
に入れないでください。トランスミッ
ションに負担がかかり故障の原因とな
ります。

プッシュ スタート装着車以外

- キー インター ロック装置により、セ
レクト レバーがPレンジ以外のとき
は、エンジン スイッチを“LOCK”の
位置まで回すことができません。
（キー インター ロック→ 196 ページ）



アイドリング ストップ システムの使いかた

「アイドリング ストップ」*

「アイドリング ストップ」は、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで減速した際、停車前（約 11km/h、または約 9km/h）もしくは停車後に、燃費向上や排気ガス低減、アイドリング騒音低減のため、自動でエンジンを停止（アイドリング ストップ）、再始動させるシステムです。

2. ④レンジのままブレーキ ペダルを踏み減速すると、停車前（約 11km/h、または約 9km/h）もしくは停車後に、アイドリング ストップします。

「アイドリング ストップ」表示灯はアイドリング ストップ中も緑色に点灯し続けます。

<アイドリング ストップ状態>

(アイドリング ストップ条件

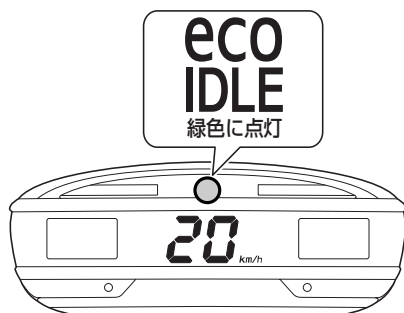
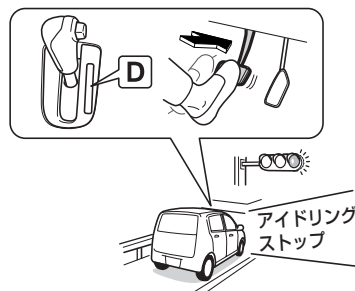
→ 216 ページ)

アイドリング ストップ、エンジンの再始動のしかた

1. 走行中にアイドリング ストップが作動する条件を満たすと、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に点灯します。

<スタンバイ状態>

(スタンバイ条件→ 215 ページ)



* 本書では、eco IDLEを「アイドリング ストップ」と表記しています。

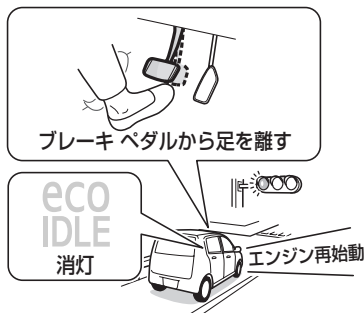
車を運転するにあたって アイドリング ストップ システムの使いかた



3. ブレーキ ペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。「アイドリング ストップ」表示灯は消灯します。

<エンジン再始動>

(エンジン再始動条件→ 217 ページ)

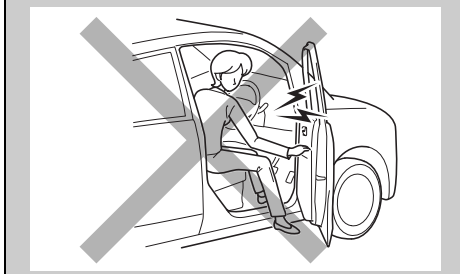


4. しばらく走行して、再びアイドリング ストップが作動する条件を満たすと、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に点灯します。

⚠警告

- アイドリング ストップ中は車外へ出ないでください。車外へ出ようと、運転席シート ベルトを外したり運転席ドアを開けたりすると、エンジンが再始動しますので、あわてずにブレーキペダルを踏み続けてください。ブレーキ ペダルから足を離すと車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シート ベルトとドアを元に戻すまで、警告ブザーが鳴り続けます。

(警告ブザー→ 219 ページ)





⚠注意

- ブレーキ ペダルとアクセル ペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ ペダル操作は緊急時の反応が遅れることがあり危険です。
- アイドリング ストップ中は、ブレーキ ペダルを踏んだまま、アクセル ペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。
- 長時間停車するときや車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジン スイッチを操作してエンジンを停止させてください。

「アイドリング ストップ」を正常に作動させるために

- 下記の場合、「アイドリング ストップ」が正常に作動しないおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。
- 運転席シート ベルトを着用していても、シート ベルト警告灯（運転席）が点滅するとき
- 運転席シート ベルトを外していても、シート ベルト警告灯（運転席）が点滅しないとき
- 運転席ドアを閉めても半ドア警告灯が点灯する、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯するとき
- 運転席ドアを開けても半ドア警告灯が点灯しない、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯しないとき

👉アドバイス

アイドリング ストップ中の操作について

- アイドリング ストップ中に、セレクト レバーをDからNレンジ（またはS・Bレンジ）に操作してもアイドリング ストップは継続します。ただし、セレクト レバーをNレンジに操作したあと他のレンジに操作すると、エンジンが再始動します。
- 右左折や合流時など、アイドリング ストップ中に事前に発進準備をしたいときは、下記の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
- ブレーキ ペダルをすばやく踏み増しする
- 「アイドリング ストップ」OFFスイッチを押す
（「アイドリング ストップ」OFFスイッチ→ 222 ページ）

アイドリング ストップ中のエアコンの作動について

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
- ブレーキ ペダルをすばやく踏み増しする
- 「アイドリング ストップ」OFFスイッチを押す



システムの作動条件について

○スタンバイ条件

下記の条件をすべて満たすと、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に点灯し、アイドリング ストップが作動可能な状態になります。

- 「アイドリング ストップ」OFFスイッチを押して、アイドリング ストップの作動を停止していないとき
(アイドリング ストップ作動停止中は、「アイドリング ストップ」OFF表示灯がオレンジ色に点灯します)
- エンジンが十分に暖まっているとき
- トランスミッション オイルが十分に暖まっているとき
- エンジン冷却水温が高すぎないとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エンジン始動後に約 10km/h以上でしばらく走行したあと
(走行せずにアイドリング状態を続けていても、アイドリング ストップが作動しません)

- セレクト レバーがRレンジのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シート ベルトを着用しているとき
- 外気温が約 0℃以上のとき
(メーター表示の外気温と異なる場合があります)
- フロント デフロスター スイッチが“OFF”のとき (オート エアコン装着車)
- 車内温度が快適なとき (オート エアコン装着車の冷房時)
- システム (「アイドリング ストップ」、エンジン電子制御、CVT、ABS、VDC、エアコン、電動パワー ステアリング) が正常なとき



アドバイス

- 下記の場合、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
- 車両を長期間使用しなかったときなど、バッテリーが放電しているとき
- バッテリー交換などで、バッテリーの⊖端子をはずしたあと
- 冷房初期 (オート エアコン装着車)



○アイドリング ストップ条件

スタンバイ条件と次の条件をすべて満たすと、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に点灯したまま、停車前もしくは停車後にアイドリング ストップします。

アドバイス

- 停車前と停車後のアイドリング ストップ条件が異なるため、停車前にアイドリング ストップしなくても、停車後にアイドリング ストップすることがあります。

停車前アイドリング ストップ条件

- 車速が約 25km/h以上で走行したあと、約 11km/hになったとき、または約 10km/h以上で走行したあと、約 9km/hになったとき
- ブレーキ ペダルを踏んでいるとき
- アクセル ペダルを踏んでいないとき
- ライティング スイッチが“OFF”のとき
- フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチが“OFF”のとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABS、VDCが作動していないとき
- 低速域衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき（スマートアシスト装着車）

アドバイス

- 下記の場合、停車前アイドリング ストップしない場合があります。
- ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
- ブレーキ ペダルを踏む力が弱いとき
- 勾配のある坂道を走行しているとき
- ゆるやかに減速しているとき



停車後アイドリング ストップ条件

- 車両が停車しているとき
- ブレーキ ペダルを踏んでいるとき
- アクセル ペダルを踏んでいないとき
- ABS、VDCが作動していないとき
- 低速域衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき（スマートアシスト装着車）

アドバイス

- 下記の場合、停車後アイドリング ストップしない場合があります。
- ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
- ブレーキ ペダルを踏む力が弱いとき
- 急勾配の坂道で停車したとき

○エンジン再始動条件

アイドリング ストップ中に、下記のいずれかの操作を行うと、エンジンが再始動します。

- ブレーキ ペダルから足を離す
- ブレーキ ペダルをすばやく踏み増しする
- アクセル ペダルを踏む
- セレクト レバーをⒺ・Ⓕレンジに操作する
- セレクト レバーをⒼレンジに操作したあと、他のレンジに操作する
- 「アイドリング ストップ」OFFスイッチを押して、システム作動を停止する
- フロント デフロスター スイッチを“ON”にする（オート エアコン装着車）
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シート ベルトを外す



👉 アドバイス

エンジンの再始動について

- 下記の場合でも、アイドリング ストップ中にエンジンが再始動し、クリープ現象*が発生しますので、ブレーキペダルはしっかりと踏み続けてください。
- アイドリング ストップ中に、アイドリング ストップが作動可能な条件を満たさなくなった場合（「アイドリング ストップ」表示灯は緑色に点滅後消灯）
 - ・ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下したとき
 - ・坂道などで停止状態から車両が動き出したとき
 - ・停車前アイドリング ストップ中に下り坂などで加速したとき
 - ・バッテリーの放電量が多いとき
 - ・警告灯（エンジン、CVT、ABS、VDC&TRC）が点灯するなど、各システムに異常が発生したとき
 - ・エアコンの制御システムに異常が発生したとき（オート エアコン装着車）
 - ・冷房時はエアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき（オート エアコン装着車）
 - ・アイドリング ストップしてから約3分経過したとき

* エンジンがかかっているとき、セレクト レバーがP、Rレンジ以外の位置で動力がつかなくなった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと車両が動き出す現象。

👉 アドバイス

- アイドリング ストップ中、「アイドリング ストップ」システムに異常が発生した場合、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期になった場合（「アイドリング ストップ」OFF表示灯はオレンジ色に点滅）

アイドリング ストップ時間が短くなる場合

- 下記の場合、アイドリング ストップ時間が短くなる場合があります。
 - ・外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にアイドリング ストップしたとき（オート エアコン装着車）
 - ・電装品などの消費電力が大きいとき

エンジンが再始動しない場合

- 下記の場合、警告ブザーが鳴って「アイドリング ストップ」表示灯が点滅し、安全確保のためブレーキ ペダルから足を離しても、エンジンは再始動しません。
 - ・アイドリング ストップ中にボンネットを開けたとき
(警告ブザー→ 219 ページ)

エンジン再始動時の電装品の動作について

- オーディオの音量が大きいなど、アイドリング ストップ中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時に下記の電源が一時的に“OFF”になることがあります。
 - ・オーディオ
 - ・カー ナビゲーション（別売）
- アイドリング ストップからエンジンが再始動すると、アクセサリ ソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。



警告ブザー

アイドリング ストップ中に、運転席シート ベルトを外したり、運転席ドアやボンネットを開けたりすると、警告ブザーが鳴ります。

○運転席シート ベルトを外したとき
警告ブザー（断続音）が鳴り、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に高速で点滅します。

エンジンが再始動します。

▼対処方法

運転席シート ベルトを確実に着用してください。警告ブザーが止まります。

○運転席ドアを開けたとき

警告ブザー（断続音）が鳴り、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に高速で点滅します。

エンジンが再始動します。

▼対処方法

運転席ドアが開いていないかを確認し、確実に閉めてください。警告ブザーが止まります。

○ボンネットを開けたとき

警告ブザー（断続音）が数秒間鳴り、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に高速で点滅します。

安全確保のため、通常のエンジン停止状態になります。（エンジン警告灯・チャージ警告灯・オイル プレッシャー警告灯も同時に点灯します）

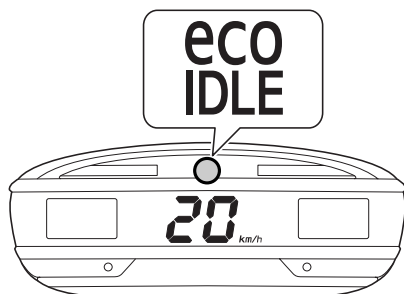
▼対処方法

ボンネットが開いていないかを確認し、確実に閉めてください。

セレクト レバーをPレンジに操作してから、エンジン スイッチを操作して、エンジンを始動してください。



「アイドリング ストップ」* 表示灯（緑色）



「アイドリング ストップ」に関する操作状況、車両の状態をお知らせします。

○点灯

- 電源を“ON”にしたとき
（数秒後消灯）
- アイドリング ストップが作動可能な条件を満たしたとき
＜スタンバイ条件成立＞
- アイドリング ストップ中

○消灯

- アイドリング ストップからエンジンが再始動したとき
- アイドリング ストップが作動可能な条件を満たしていないとき
＜スタンバイ条件不成立＞

○低速点滅後、消灯

- アイドリング ストップ中に、アイドリング ストップが作動可能な条件を満たさなくなり、エンジンが再始動したとき

○高速点滅

アイドリング ストップ中に下記の状態になると、高速点滅すると同時に警告ブザーが鳴ります。

- 運転席シート ベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- ボンネットを開けたとき

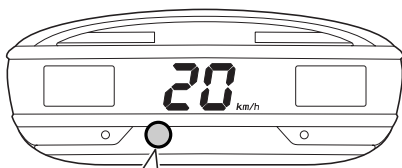
（警告ブザー→ 219 ページ）

* 本書では、eco IDLEを「アイドリング ストップ」と表記しています。

車を運転するにあたって アイドリング ストップ システムの使いかた



「アイドリング ストップ」* OFF表示灯 (オレンジ色)



eco
IDLE
OFF

- 「アイドリング ストップ」OFFスイッチを押して、eco IDLE作動を停止すると点灯します。
(「アイドリング ストップ」OFFスイッチ→ 222 ページ)
- 下記の状態になると、電源が“ON”のときに点滅します。
 - ・「アイドリング ストップ」システムに異常があるとき
 - ・エンジン部品 (スターター) やバッテリーが交換時期のとき

⚠注意

オレンジ色に点滅した場合

- スバル販売店で点検を受けてください。

メーター表示

アイドリング ストップ時間を、メーターのディスプレイに表示できます。
アイドリング ストップ時間自動表示の設定を“dSP On”にすると、アイドリング ストップ中に、自動で下記の表示に切り替わります。

○アイドリング ストップ時間表示
電源を“ON”にしてからのアイドリング ストップ時間を表示します。

(アイドリング ストップ
時間→ 157 ページ)

○節約燃料表示

エコドライブアシストディスプレイ装着車

アイドリング ストップ時間の表示と連動して、節約燃料を表示します。

(節約燃料表示→ 163 ページ)

* 本書では、eco IDLEを「アイドリング ストップ」と表記しています。



「アイドリング ストップ」* OFFスイッチ

「アイドリング ストップ」の作動を停止したいときにスイッチを押します。

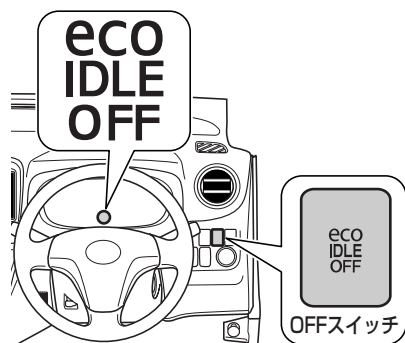
▼操作方法

スイッチを押すと、アイドリング ストップは作動停止状態になり、メーター内の「アイドリング ストップ」OFF表示灯がオレンジ色に点灯します。

もう一度スイッチを押すと、「アイドリング ストップ」作動停止状態が解除され、「アイドリング ストップ」OFF表示灯が消灯します。

(「アイドリング ストップ」
表示灯→ 220 ページ)

(「アイドリング ストップ」
OFF表示灯→ 221 ページ)



アドバイス

- アイドリング ストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、アイドリング ストップは作動停止状態になります。(「アイドリング ストップ」OFF表示灯はオレンジ色に点灯します)
- 「アイドリング ストップ」はエンジン スイッチ操作によるエンジン始動をするたびに、作動可能状態に戻ります。

* 本書では、eco IDLEを「アイドリング ストップ」と表記しています。



ヒル スタート アシスト

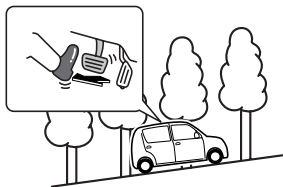
アイドリング ストップからブレーキ ペダルをゆるめてエンジンが再始動する際、最長約 2 秒間ブレーキ力を保持するシステムです。

坂道発進時の後退を軽減します。

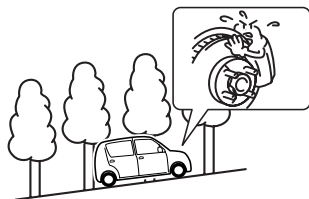
ただし、アイドリング ストップしていないときは作動しません。

▼ 作動の流れ

1. ブレーキ ペダルを踏む力をゆるめる



2. ブレーキ力保持



3. エンジン再始動



4. 発進



⚠ 警告

- ヒル スタート アシストは、坂道で車両を停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキ ペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒル スタート アシストを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。常に周囲の状況を確認して、適切にセレクト レバー、ブレーキ ペダル、アクセル ペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキ ペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。





⚠警告

- ゆるやかな上り坂で停車前アイドリング ストップしたあと、車両が停止する前にアクセル ペダルを踏んで再加速しようとした場合、車両が後退することがあります。
車両が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキ ペダル、アクセル ペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または急な上り坂では、システムが作動していても、車両が後退することがあります。駐車ブレーキをかけたりするなどして発進してください。



アドバイス

- ヒル スタート アシストの作動により、下記の状態になることがあります。が、異常ではありません。
- ブレーキ ペダルの踏みごたえが変わる
- ブレーキ ペダルが振動する
- ブレーキから音が発生する
- ヒル スタート アシストは、坂道だけではなく、平坦な道路でも作動します。

「アイドリング ストップ」専用 バッテリー

「アイドリング ストップ」装着車は、高性能な専用バッテリーを搭載しています。バッテリーを交換するときは、この車専用のスバル指定バッテリーに交換してください。

（「アイドリング ストップ」専用
バッテリー→ 357 ページ）

⚠注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリング ストップが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。アイドリング ストップが正常に作動しなくなります。



アドバイス

- バッテリーは定期的に充電することで、長持ちさせることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。



発電制御

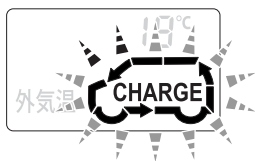
発電制御

減速時の発電によってバッテリーを集中充電することにより、走行中（加速やクルージングなど）の発電を抑制、燃料消費量を低減させ、燃費を向上させる効果があります。

○ 発電状態表示

発電状態表示装着車

発電制御中、ディスプレイに発電状態を表示します。



(発電状態表示 → 165 ページ)



MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.



装備品の使いかた

車の装備品の使いかたについて説明しています。

■ 空調

マニュアル エアコン	228
オート エアコン	236

■ オーディオ

アンテナ	248
オーディオの取り扱い	249
オーディオ インデックス	252
インテグレートッドCDプレーヤー & AM/FMチューナー	253

■ 室内装備品

室内照明	266
アクセサリ ソケット	267
サン バイザー	268
グローブ ボックス	269
カップホルダー (前席)	270
ボトルホルダー	270
サブトランク	271
ショッピングフック	271
アシストグリップ	272



空調

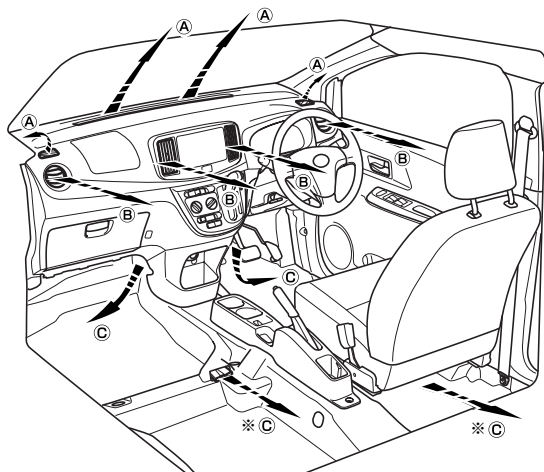
マニュアル エアコン

オプション/グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

コントロール パネルの操作により、吹き出し口から冷風、または温風が吹き出します。

▼ 吹き出し口の位置



※はタイプ別装備

⚠ 警告

- 「アイドリング ストップ」によるアイドリング ストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。

(ガラスの曇りを取るとき → 235 ページ)

👉 アドバイス

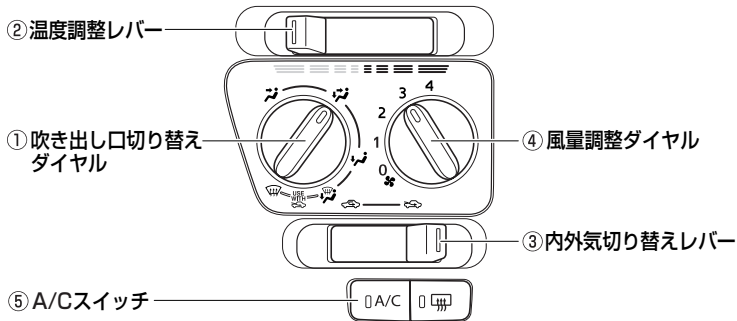
「アイドリング ストップ」によるアイドリング ストップ中にエアコンを作動させるには

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
- ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
- 「アイドリング ストップ」OFFスイッチを押す

(「アイドリング ストップ」 → 212 ページ)



マニュアル エアコン コントロール パネル



○各ダイヤル／レバー／スイッチの
使いかた

①吹き出し口切り替えダイヤル
イラストの方向へ風が出てきます。風量
は吹き出し口によって異なります。



ダイヤル					
吹き出し口	(B)	(B) (C)	(C) (A)	(A) (C)	(A)

() は特に風量の少ないものを示します。

▼操作方法

ダイヤルを左右に回して、切り替えます。

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い温度で動作させている場合は、吹き出し口を、またはに切り替えないでください。

外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。





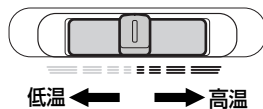
アドバイス



- このマークは、①吹き出し口切り替えダイヤルを☁️または☁️☁️に合わせるときに③内外気切り替えレバーを☁️（外気導入）に合わせて使用することをおすすめするためのものです。☁️☁️（外気導入）に合わせることでガラスが曇りにくくなります。

②温度調整レバー

風の吹き出し温度を調整します。



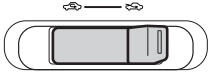
▼操作方法

レバーを左右に動かして、調整します。



③内外気切り替えレバー

内気循環、外気導入の切り替えを行います。



内気循環		外気をシャ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。
外気導入		外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

▼操作方法

レバーを左右に動かして切り替えます。

⚠注意

- “内気循環” を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。通常は、“外気導入” を使用してください。
- 渋滞に巻き込まれたときや、トンネル内は、“内気循環” にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。
- ①のダイヤルが、またはのとき “内気循環” にしないでください。ガラスが曇りやすくなります。

👉アドバイス

- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。



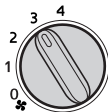
装備品の使いかた

空調

④風量調整ダイヤル

吹き出し口からの風の強さを切り替えま
す。

ダイヤルにより 4 段階の切り替えがで
きます。



▼操作方法

ダイヤルを回して操作します。



アドバイス

- “0” の位置にすると、ファンが停止
します。

⑤A/Cスイッチ

冷房、除湿機能の作動と停止を行います。

作動表示灯



▼操作方法

ファンが作動中のとき、スイッチを一度
押すとエアコンが作動し、作動表示灯が
点灯します。

もう一度押すとエアコンが停止し、作動
表示灯が消灯します。



アドバイス

- 停車時（アイドリング ストップ中は
除く）の冷房効果を向上させるため
に、エンジン アイドリング回転を少
し高くするアイドル アップ装置が付
いています。アイドル アップ装置作
動中の発進、停止時の運転操作に注意
してください。
冷房中、一時停止する場合はブレーキ
ペダルをしっかり踏んでください。
(CVT車の運転→ 202 ページ)
- 外気温が 0℃近くまで下がると、エア
コンの除湿機能が作動しない場合があ
ります。



風向きの調整

左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

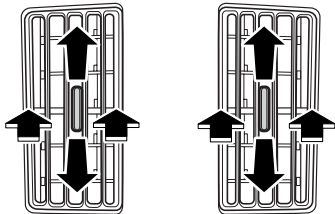
アドバイス

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

○ 中央吹き出し口

▼ 操作方法

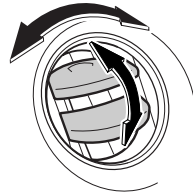
上下方向はノブを動かして調整します。
左右方向は吹き出し口の端を押して調整します。



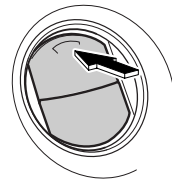
○ 左右吹き出し口

▼ 操作方法

カバーを動かして調整します。
カバーを一番下まで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。



吹き出し口を開けるときは、<ほみ部分を押しします。





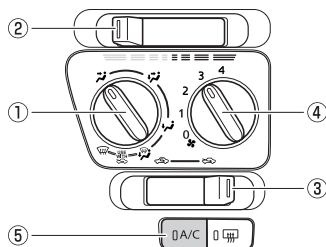
装備品の使いかた 空調

マニュアル エアコンの使いかた

代表的な使用例におけるダイヤル、レバー、スイッチのセット位置を説明します。

○通常の冷房

室内を冷やしたいときに使用します。



- ① 最低側
- ② 低温側
- ③ 外気導入
- ④ お好みの位置
- ⑤ ON

👉 アドバイス

急速に冷房したいときは

- ②のレバーを最低温に、③のレバーを“内気循環”にしてください。

ただし“内気循環”で長時間使用すると車内の空気が汚れます。換気のためときどき“外気導入”にしてください。

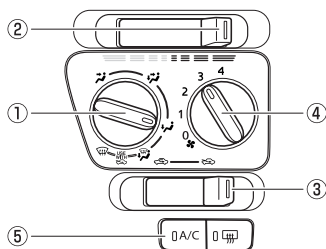
冷えてきたら②のレバーを高温側に動かし、お好みの温度に調整してください。

車内の温度が高いときは

- 駐車のと車内の温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

○通常の暖房

室内を暖めたいときに使用します。



- ① 高温側
- ② 外気導入
- ③ お好みの位置
- ④ OFF

👉 アドバイス

急速に暖房したいときは

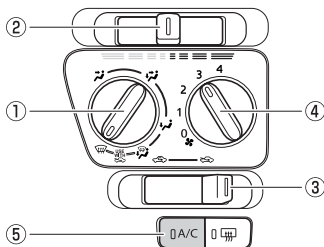
- ②のレバーを最高温に、③のレバーを“内気循環”にしてください。

ただし“内気循環”で長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなりますので一時的にご使用ください。

暖かくなってきたら②のレバーを低温側に動かし、お好みの温度に調整してください。

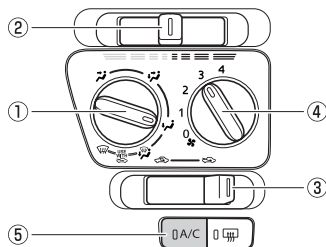


○ ガラスの曇りを取るとき
寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。



- ① 4
② お好みの位置 ④ お好みの位置
③ 外気導入 ⑤ ON

○ 除湿暖房するとき（曇り止め）
雨の日など湿気が多く、ガラスが曇りやすいときに使用します。



- ① 4
② お好みの位置 ④ お好みの位置
③ 外気導入 ⑤ ON

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- ②のレバーを最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

👉 アドバイス

- 外気温が 0℃ 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

👉 アドバイス

- 外気温が 0℃ 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- ①のダイヤルを4にすると、曇り取りと同時に足元にも送風されます。

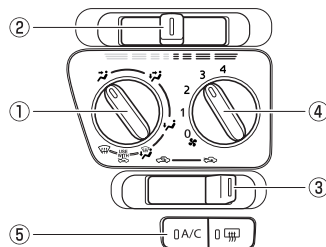
外気が汚れているときは

- 一時的に③のレバーを“内気循環”にしてください。

より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。
- ④のダイヤルを操作して、風量を増す
- ②のレバーを操作して、設定温度を上げる

○ 換気するとき
導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。



- ① 4
② お好みの位置 ④ お好みの位置
③ 外気導入 ⑤ OFF





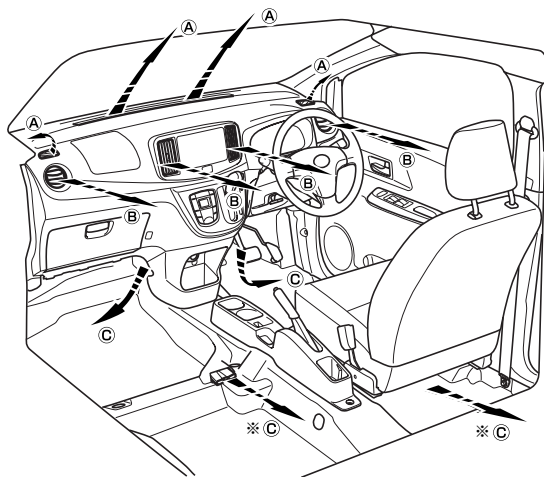
オート エアコン

オプション/グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

コントロール パネルの操作により、吹き出し口から冷風、または温風が吹き出します。

▼ 吹き出し口の位置



※はタイプ別装備

⚠ 警告

- 「アイドリング ストップ」によるアイドリング ストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。

(ガラスの曇りを取るとき → 245 ページ)

👉 アドバイス

- エアコンの操作や室内温度により、アイドリング ストップが作動しない場合や、アイドリング ストップ中にブレーキ ペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動することがあります。

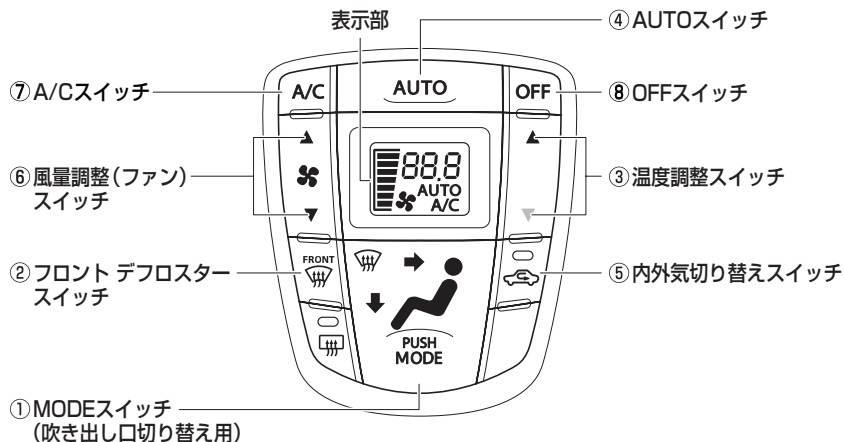
「アイドリング ストップ」によるアイドリング ストップ中にエアコンを作動させるには

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
 - ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
 - 「アイドリング ストップ」OFFスイッチを押す

(「アイドリング ストップ」 → 212 ページ)



オート エアコン コントロール パネル



○各ダイヤル／スイッチの使いかた

①MODE (吹き出し口切り替え用)

スイッチ

吹き出し口を選択します。

選択された吹き出し口がスイッチに表示されます。

選択された吹き出し口から風が出てきます。

風量は吹き出し口によって異なります。



表示				
吹き出し口	(B)	(B) (C)	(C) (A)	(A) (C)

() は特に風量の少ないものを示します。

▼操作方法

スイッチを押すごとに、吹き出し口が「 → → → 」の順に切り替わります。

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口をに切り替えしないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。







装備品の使いかた 空調

②フロント デフロスター スイッチ
ガラスの曇りを取ります。



▼操作方法

- スイッチを押すと自動的にエアコンが作動し、吹き出し口が切り替わります。同時に内外気切り替えが外気導入に切り替わり、MODEスイッチに“”が表示されます。
- もう一度スイッチを押すと“”が非表示になり、元の状態に戻ります。

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、スイッチを“ON”にしないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

👉アドバイス

- スイッチが“ON”のときは、アイドリング ストップをしません。
- アイドリング ストップ中にスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。

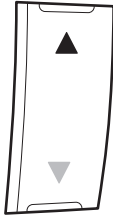
(「アイドリング ストップ」

→ 212 ページ)



③温度調整スイッチ

室内の設定温度を調整します。
設定温度が表示部に表示されます。



▼操作方法

スイッチを押して調整します。

- 室内温度を高くするには▲側のスイッチ、低くするには▼側のスイッチを押します。



アドバイス

- 設定温度を 18℃～32℃の間で調整することができます。最大冷房にすると“LO”、最大暖房にすると“HI”の表示になります。

④AUTOスイッチ

スイッチを押すと、吹き出し口、風量、および内外気の切り替えが自動的に調整されます。



▼操作方法

スイッチを押すと“ON”になります。
“ON”のときは表示部に“AUTO”が表示されます。

アドバイス

- AUTOスイッチが“ON”のときは、下記のようになります。
- 吹き出し口、または風量を手動で調整すると、表示部の“AUTO”が表示されなくなりますが、調整した機能以外は自動調整のままとなります。すべての機能を自動調整に戻すときは、再度AUTOスイッチを押してください。
- 吹き出し口が ❏ または ❏ で、冬場などの寒いときには、温風の準備が出来るまで、中央、左右、足元吹き出し口から風は出ません。
- 吹き出し口が ❏ または ❏ で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動します。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。
- AUTOスイッチが“ON”のときで、アイドリング ストップ中は、風量が少なくなるように調整されることがあります。
エンジンを再始動すると、風量は自動調整に戻ります。

(「アイドリング ストップ」

→ 212 ページ)





⑤内外気切り替えスイッチ

内気循環、外気導入の切り替えを行います。



- 内気循環

外気をシャ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

- 外気導入

外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

▼操作方法

スイッチを押して内気循環、外気導入を切り替えます。

- 作動表示灯が点灯している状態が“内気循環”
- 作動表示灯が消灯している状態が“外気導入”



⚠注意

- “内気循環” を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。通常は、“外気導入” を使用してください。
- 渋滞に巻き込まれたときや、トンネル内は、“内気循環” にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。

👉アドバイス

- 設定温度や室内温度などにより、自動的に“内気循環”または“外気導入”へ切り替わることがあります。
 - エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

⑥風量調整（ファン）スイッチ

吹き出し口からの風の強さを調整します。風量が表示部に表示されます。



▼調整方法

スイッチを押して調整します。

- 風量を強くするには▲側のスイッチ、弱くするには▼側のスイッチを押します。
- ファンを停止させたいときは、OFFスイッチを押します。

👉アドバイス

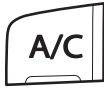
- 吹き出し口が🌀または🌀で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動する場合があります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。



装備品の使いかた 空調

⑦A/Cスイッチ

冷房、除湿機能の作動と停止を行います。



▼操作方法

ファンが作動中のとき、スイッチを一度押すとエアコンが作動し、表示部に“A/C”が表示されます。

もう一度押すとエアコンが停止し、表示部の“A/C”が消灯します。



アドバイス

- 停車時（アイドリング ストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジン アイドリング回転を少し高くするアイドル アップ装置が付いています。アイドル アップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。

冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

（CVT車の運転→ 202 ページ）

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

⑧OFFスイッチ

空調機能の停止を行います。



▼操作方法

スイッチを押します。



風向きの調整

左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

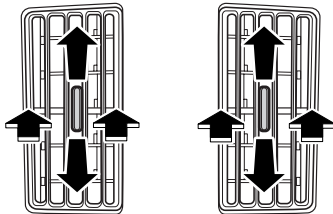
アドバイス

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

▼操作方法

上下方向はノブを動かして調整します。
左右方向は吹き出し口の端を押して調整します。

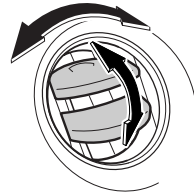
○中央吹き出し口



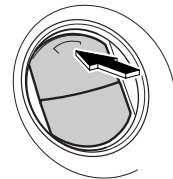
○左右吹き出し口

▼操作方法

カバーを動かして調整します。
カバーを一番下まで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。



吹き出し口を開けるときは、くぼみ部分を押しします。





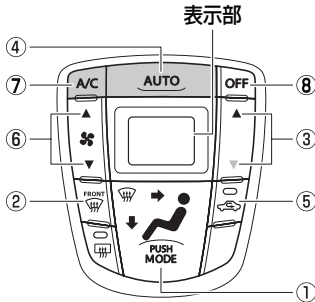
装備品の使いかた 空調

オート エアコンの使いかた

代表的な使用例におけるスイッチのセット位置を説明します。

○通常の使いかた

室内温度を一定に保ちたいときに使用します。



- | | |
|----------|----------|
| ① 操作不要 | ⑤ 操作不要 |
| ② OFF | ⑥ 操作不要 |
| ③ お好みの温度 | ⑦ お好みの設定 |
| ④ ON | ⑧ 操作不要 |

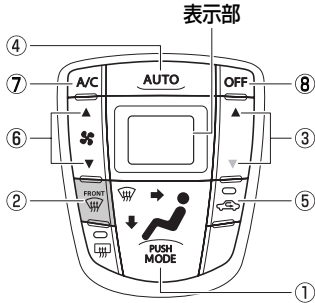
アドバイス

- ④のスイッチを“ON”にすることにより、状況に応じて①・⑤・⑥のスイッチが最適な状態に自動的に選択されま
す。
- 設定温度は 25℃を目安に、お好みで調整してください。
乗車直後の室内温度が高い（または低い）ときに、設定温度を 25℃より極端に低く（または高く）調整しても、希望の室内温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- 冷房、除湿をするときは、⑦のスイッチを“ON”にします。



○ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。



- | | |
|----------|--------------|
| ① 操作不要 | ⑤ 操作不要(外気導入) |
| ② ON | ⑥ お好みの風量 |
| ③ お好みの温度 | ⑦ 操作不要 |
| ④ OFF | ⑧ 操作不要 |

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- ③のスイッチを最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

👉アドバイス

- 外気温が 0℃ 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- ②のスイッチが“ON”のときは、アイドリング ストップをしません。
- アイドリング ストップ中に②のスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。

(「アイドリング ストップ」
→ 212 ページ)

外気が汚れているときは

- 一時的に“内気循環”にしてください。

より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。
- ⑥のスイッチを操作して、風量を増す
- ③のスイッチを操作して、設定温度を上げる



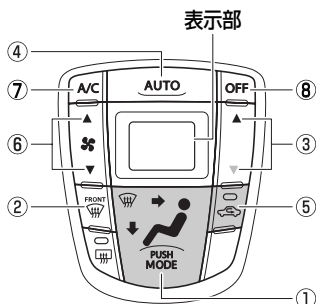


装備品の使いかた

空調

○換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。



- | | |
|----------|----------|
| ① 風 | ⑤ 外気導入 |
| ② OFF | ⑥ お好みの風量 |
| ③ お好みの温度 | ⑦ OFF |
| ④ OFF | ⑧ 操作不要 |

温度調節センサー

オート エアコンには、自動的に温度調節を行うために、日射センサーと内気センサーが取り付けられています。

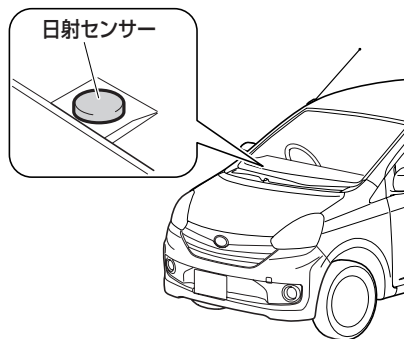
👉 アドバイス

- 日射センサーの上に物を置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

○日射センサー

日射量を検知します。

インストルメント パネル上部に取り付けられています。

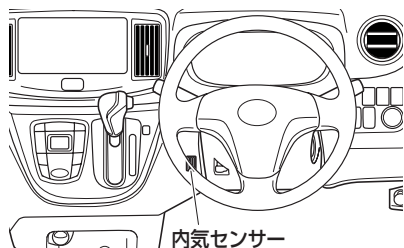




○内気センサー

室内温度を検知します。

インストルメント パネル中央部（運転席側）に取り付けられています。





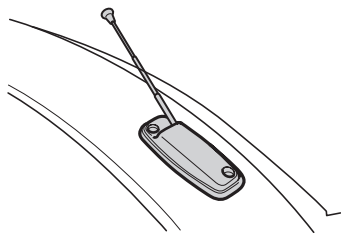
オーディオ

アンテナ

ラジオを受信するときは、アンテナをいっぱいまで伸ばしてください。

▼使用方法

使用するときは、アンテナの先を持っていっぱいに引き出します。収納するときは、アンテナの根元を持って少しずつ収納してください。



△注意

- 走行中に引き出し、収納などの操作をしないでください。運転のさまたげになるほか車外の物に当たったり、急ブレーキをかけたときけがをするおそれがあり危険です。
- 下記のようなときは、アンテナを収納してください。破損したり、変形したりする場合があります。
 - 自動洗車機を使用するとき
 - ボディカバーをかけるとき
 - 立体駐車場など屋根の低いガレージなどに入れるとき
 - 降雪時に長時間駐車するとき



オーディオの取り扱い

オプション/グレード別装

△注意

- 運転中は、車外の音が聞こえる程度の音量でお楽しみください。大きな音量を出すと車外の音が聞こえず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にオーディオの操作をしないでください。運転のさまたげになり、思わぬ事故につながります。

👉アドバイス

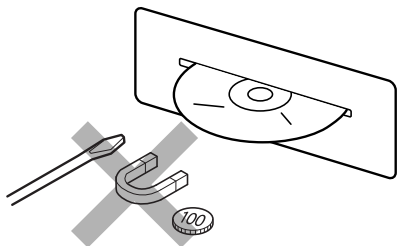
- オーディオを聞いているとき、室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。
- エンジン停止時は、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーあがりを起こし、エンジンの始動ができなくなります。
- ラジオの受信は、電波の強さが変化したり、電車・信号機などの障害物の影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。
- 水分や高温・多湿・ほこり・ゴミを嫌いますので、車内清掃や換気に十分注意してください。
- オーディオ本体のお手入れは、乾いた柔らかい布でふいてください。損傷の原因となるおそれがある固い布や、ベンジン・シンナー・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また、汚れがひどい場合には、柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し、軽くふき取ってください。
- 車内の温度に気を付けてください。極寒や酷暑のとき、特に夏期は車内の温度が大変高くなり、故障の原因となるおそれがありますので、車内の換気に注意し、適温で使用してください。



CDプレーヤーの取り扱い

アドバイス

- 挿入口には、指定されているCD以外の物を入れたり、ドライバーなどの金属物や磁石などを近付けないでください。故障の原因となります。また、CDに磁石などを絶対に近付けないでください。



- CDが挿入された状態でエンジンを始動すると、「カチッ」・「ウーン」などという音が数回しますが、これは再生準備のための作動音で、故障ではありません。
- CDを挿入して数秒すると、セットされずに戻ってくることがあります。この場合は、CDの異常が考えられますので、CDに異常がないかを確認してください。
- 取り出しボタンを押しても、CDが挿入されたまま取り出せないときは、プレーヤーの保護のため、機能が停止することがあります。この場合、スバル販売店にご相談ください。

アドバイス

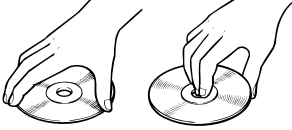
- 車を降りるときは、必ずCDをオーディオ本体から取り出し、ケースに入れて、高温にならない場所に保管してください。
- CDを直射日光に長時間当てたり、挿入口に残した状態のまま長時間放置しないでください。また、高温・多湿な場所（インストルメント パネルの上やシートの上など）に長時間放置しないでください。CDがひずみ、使用できなくなるおそれがあります。従来のオーディオ レコードと同様にプラスチック製ですので、その原因となります。そり防止のため、必ずケースに入れ、直射日光の当たらない場所に保管してください。



CDの取り扱い

アドバイス

- CDを持つときは、信号面に触らないようにしてください。両端を挟むようにして持つか、中央の穴と端を挟んで持ってください。



- CDは内部で高速回転しますので、異常なCD（ハート型など異形のCD、ヒビが入ったCDや大きくそったCD）は使用しないでください。



- 記録部分に透明または半透明部分があるCDは、正常に出し入れや再生ができなくなるおそれがありますので、使用しないでください。
- ラベル面（印刷面）にも紙やシールなどを貼り付けたり、傷などを付けないようにしてください。
- CDに指紋やホコリが付いた場合でも、CDに記録された信号には直接影響しませんが、汚れにより、信号記録面からの反射光の明るさが低減して音質が低下したり、音飛びを起こすことがあります。

アドバイス

- CDが汚れたときは、柔らかい布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。
- レコード スプレー・帯電防止剤などは使用できません。またベンジン・シンナーなどの揮発性の薬品をかけると、表面が侵されることがありますので使用しないでください。



- 振動の激しい悪路を走行すると、音飛びを起こすことがあります。
- 真冬の車内は極度に冷えています。この状態で、ヒーターを入れてすぐに使用すると、CDや光学部品（プリズムやレンズなど）が曇って、正常に再生されることがあります。CDが曇っているときは、柔らかい布でふいてください。光学部品が曇っているときは、1時間ほど放置しておけば自然に曇りが取れ、正常に再生されます。



オーディオ インデックス

インテグレートッドCDプレーヤー & AM/FMチューナー

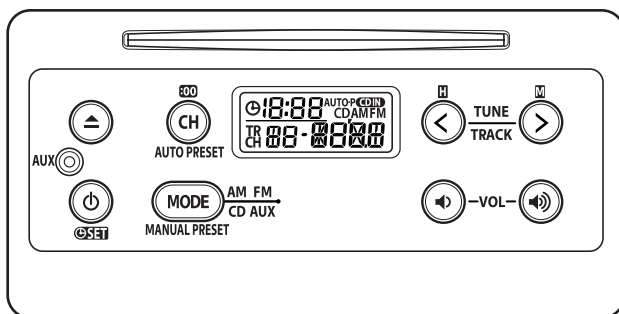
(基本操作→ 253 ページ)

(時計調整→ 254 ページ)

(ラジオの受信→ 256 ページ)

(CDの再生→ 260 ページ)

(AUX (外部入力) 端子→ 264 ページ)

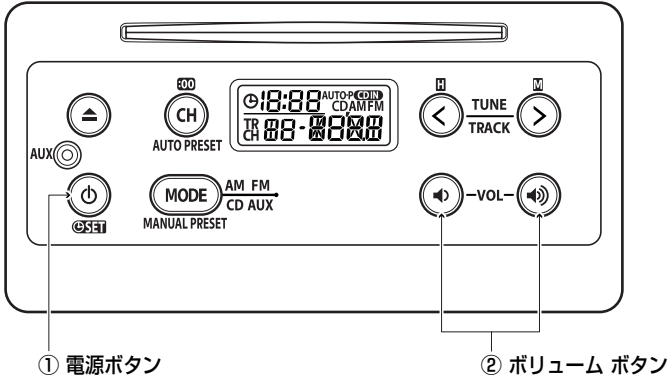




インテグレートCDプレーヤー & AM/FMチューナー

オプション/グレード別装備

基本操作



○電源を入れる

①電源ボタン



1. 車両の電源を“ON”または“ACC”にします。
 - ・前回、車両の電源を“OFF”にしたときにオーディオの電源が入っていた場合は、自動的に電源が入ります。
2. ボタンを押すと、オーディオの電源が入ります。
 - ・もう一度ボタンを押すと、電源が切れます。

○音量を調整する

②ボリューム ボタン



右側のボタンを押すと大きくなり、左側のボタンを押すと小さくなります。

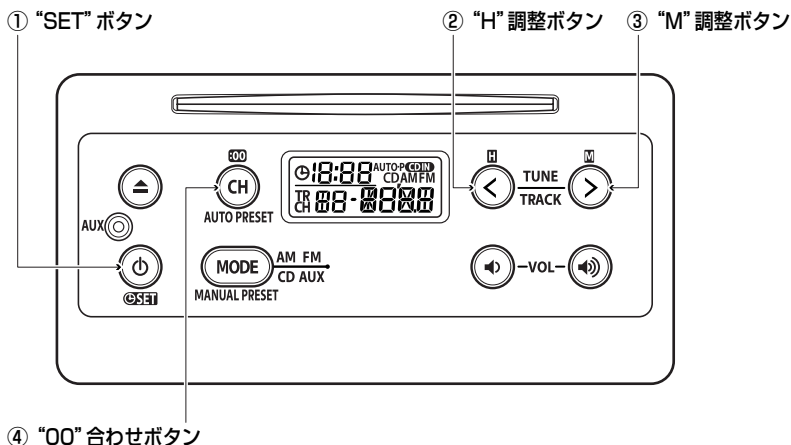
👉 アドバイス

- 音量調整は「0～63」の範囲で調整できます。



時計調整

オーディオの電源の“ON”・“OFF”に関わらず、車両の電源を“ON”または“ACC”にすると、ディスプレイ部に時計が表示されます。



👉 アドバイス

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、初期設定の状態から時計の作動が開始されることがあります。この場合は、再度調整してください。
- 時刻の表示は、12 時間表示です。

○ 時計調整モードにする

- ① “SET” ボタン



ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 調整後、もう一度ボタンを押すと、時計の調整が完了します。

○ “時” を調整する

- ② “H” 調整ボタン



時計調整モード中に、ボタンを押します。
(時計調整モード→ 254 ページ)

- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
(押し続けると、早送りします)



- “分” を調整する
- ③ “M” 調整ボタン



時計調整モード中に、ボタンを押します。
(時計調整モード→ 254 ページ)

- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
(押し続けると、早送りします)

- 時報 “:00” に合わせる
- ④ “:00” 合わせボタン



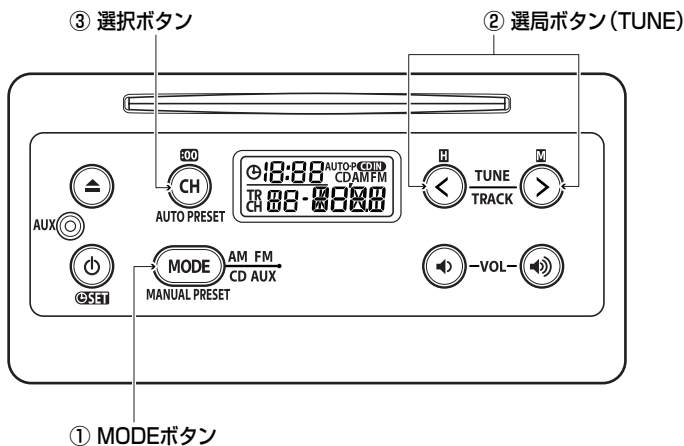
AUTO PRESET

時計調整モード中に、ボタンを押します。
(時計調整モード→ 254 ページ)

(例) 1:00～1:29→1:00
(例) 1:30～1:59→2:00



ラジオの受信



○ラジオを受信する

①MODEボタン



ボタンを押して、AM / FMモードを選択します。

- ラジオを聞いているときに、ボタンを押すと、AM / FMが切り替わります。
- ディスプレイ部に、選択したモードが表示されます。

👉アドバイス

- CDが挿入された状態で、AUX（外部入力）端子にオーディオケーブルが接続されていると、ボタンを押すごとに「AM→FM→CD→AUX」の順にモードが切り替わります。





○周波数を変える

②選局ボタン (TUNE)



▼手動で選択するには

ボタンを押して希望の周波数を選択します。

- 周波数を高い方に選択するには右側のボタン、低い方に選択するには左側のボタンを押します。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

▼自動で選択するには

ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 周波数を高い方に選択するには右側のボタン、低い方に選択するには左側のボタンを押します。
- 放送が受信されると、自動的に止まります。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

自動選択を止めるには、もう一度ボタンを押します。

アドバイス

- 受信感度が良く、ディスプレイ部に表示されている周波数に一番近い周波数が自動で選択されます。
- 山岳部や弱電界地域で自動選択を行った場合、受信できる周波数があっても、自動的に止まらないことがあります。この場合、手動選択を行ってください。



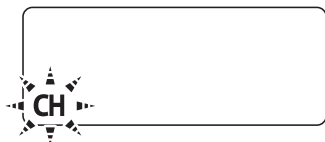
装備品の使いかた オーディオ

- 選択した周波数を記憶させる
(マニュアル プリセット)

① MODEボタン



1. 記憶させる周波数を選択します。
 2. ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。
- ディスプレイ部の「CH」が点滅します。



3. 「CH」が点滅している間に選択ボタンで記憶させたいチャンネルを選択します。



- 選択ボタンを押すたびに「CH1→CH2→CH3→CH4→CH5→CH6→CH1」の順にチャンネルが変わり、ディスプレイ部に表示されます。
4. もう一度MODEボタンを押して記憶させます。

アドバイス

- AM・FM各 6 局まで周波数を記憶させることができます。

- 自動で放送局を記憶させる
(オート プリセット)

③ 選択ボタン



ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 記憶操作が終了すると、「ピッピ」と音がして、記憶した中で一番低い周波数が受信されます。



👉 アドバイス

- オート プリセットをするごとに、現在受信状態の良い周波数が低い順に 6 局まで、選択ボタンに記憶されます。なお、オート プリセットをする前に記憶させていた周波数は消去されず。
- 受信周波数が 6 局未満のときは、受信することができた周波数だけが記憶されます。その場合、記憶されなかったチャンネルを選択すると、ディスプレイ部に「-----」が表示されます。
- 地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感が悪い場合、自動で記憶されないことがあります。その場合、オート プリセットをする前に記憶させていた放送局が選択ボタンに記憶されたままになります。
- 同じ放送局からの受信でも、選択ボタンで選択し、記憶させた周波数とオート プリセットで記憶させた周波数は一致しないことがあります。
- オート プリセットによる記憶操作を同じ場所で繰り返しても、受信状態によっては、操作ごとに記憶される周波数が異なることがあります。

- 記憶させた放送局を呼び出すには
③ 選択ボタン



ボタンを押すたびに、記憶した放送局が選択されます。

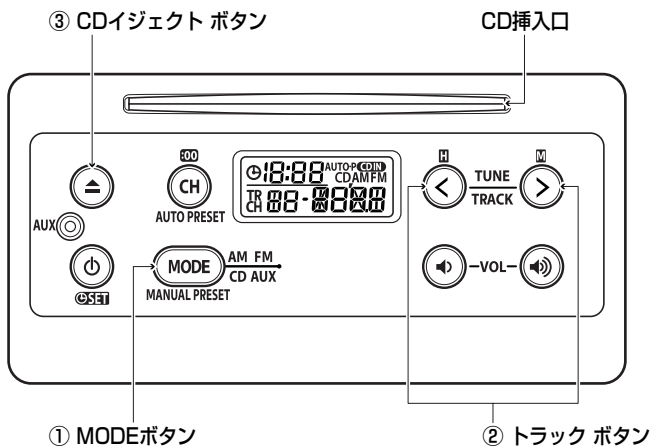
- 選択ボタンを押すたびに「CH1→CH2→CH3→CH4→CH5→CH6→CH1」の順にチャンネルが変わり、ディスプレイ部に表示されます。

👉 アドバイス

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、記憶させた周波数は消去され、初期設定の状態に戻ることがあります。この場合は、再度記憶させてください。



CDの再生



CDプレーヤーの使いかたについては、「オーディオの取り扱い」のページも併せてお読みください。

アドバイス

- 下記のマークが付いているディスクを使用してください。



- CD TEXTは表示されませんが、再生は可能です。
- 音楽用CD-R (CD-Recordable) ・ CD-RW (CD-ReWritable) に記録された音楽用データを再生できます。
ただし、特性・傷・汚れなどにより再生できない場合があります。
- ディスクの状態（録音環境・データ内容）により再生できない場合があります。
- MP3・WMA*・AAC方式などの圧縮オーディオ フォーマットには対応していません。
- CD-ROM・コピー プロテクト機能付ディスクには対応していません。
- 8cmCDには対応していません。
- Dual Discには対応していません。Dual Discを使用すると、機器の故障の原因になるおそれがあります。

* WMAは米国Microsoft corporationの米国およびその他の国における登録商標です。



○CDを再生する

①MODEボタン

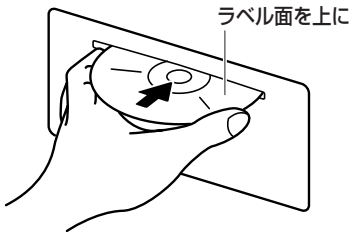


▼CDが挿入されているとき
ボタンを押してCDモードに切り替えると、自動でCDを再生します。

▼CDが挿入されていないとき
CDを挿入すると、自動でCDモードに切り替わり、CDを再生します。

 **アドバイス**

- 前回、車両の電源を“OFF”にしたときにCDを再生していた場合は、自動的にCDが再生されます。
- CDを挿入するときは、ラベル面を上にして挿入します。



- CDが挿入されていない状態では、ボタンを押してもCDモードに切り替わりません。
- CDが挿入された状態で、AUX（外部入力）端子にオーディオケーブルが接続されていると、ボタンを押すごとに「AM→FM→CD→AUX」の順に切り替わります。

○早送り・早戻しをする

②トラック ボタン



- 早送りをするには右側のボタン、早戻しをするには左側のボタンを押します。
- ボタンを押している間、早送り（または早戻し）され、希望の位置で手を離すと、その位置から再生されます。



装備品の使いかた オーディオ

- 頭出しをする
- ② トラック ボタン



- 曲を進めるには右側のボタン、曲を戻すには左側のボタンを押します。

曲の再生中に

- 右側のボタンを押すと、次の曲が再生されます。
- 左側のボタンを押すと、その曲の始めに戻ります。このとき、もう一度ボタンを押すと、前の曲が再生されます。

- CDを取り出す
- ③ CDイジェクト ボタン



- CDが取り出されると、CDが再生される前の状態に戻ります。

アドバイス

- 車両の電源を“OFF”にすると、CDを取り出すことができなくなるため、“OFF”にする前にCDを取り出してください。



○エラー メッセージ

ディスプレイ部にエラー メッセージが出た場合、下表にしたがって処置をしてください。

メッセージ	内容と処置
Err 1	CDが汚れているときや裏返しになっているとき、また対応していないCDが挿入されたときに表示されます。CDを確認してください。
Err 3	何らかの原因でCDプレーヤーが作動しないときに表示されます。挿入されているCDを取り出してください。
Err 4	CDプレーヤーに過剰な電流が流れて作動しないときに表示されます。挿入されているCDを取り出してください。
WA IT	CDプレーヤーの温度が高くなり、作動しないときに表示されます。温度が下がるまで、しばらくそのままお待ちください。

アドバイス

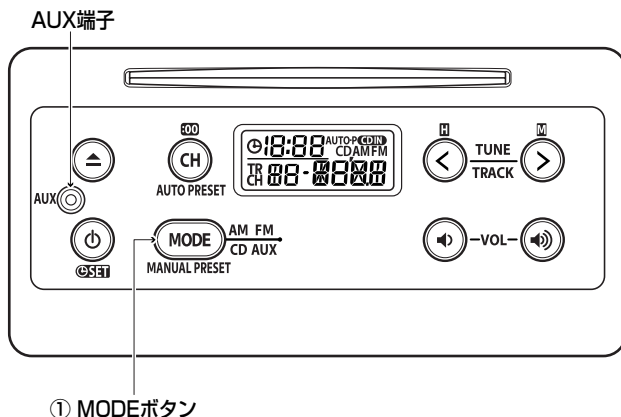
- 処置をしても、エラー メッセージが表示されたままの場合や機能が停止したままの場合は、スバル販売店にご相談ください。



装備品の使いかた オーディオ

AUX（外部入力）端子

ポータブル オーディオなど市販の機器を接続して、その音声を車両のスピーカーで聞くことができます。



○外部入力モードに切り替える

①MODEボタン



- 市販のオーディオ ケーブル（抵抗なし）を使用して、ポータブル オーディオをAUX端子に接続します。



- ボタンを押すと、ディスプレイ部に“AUX”と表示され、外部入力モードに切り替わります。

👉 アドバイス

- AUX（外部入力）端子にオーディオ ケーブルが接続されていないと、外部入力モードに切り替わりません。
- CDが挿入された状態で、AUX（外部入力）端子にオーディオ ケーブルが接続されていると、MODEボタンを押すごとに「AM→FM→CD→AUX」の順に切り替わります。



アドバイス

AUX (外部入力) 端子について

- ステレオ ミニプラグ (3.5φ) が接続できます。オーディオ ケーブル (抵抗なし)、接続する機器の取扱説明書をよくお読みください。
- 接続する機器の電源は、機器の付属のバッテリーなどを使用してください。車に装着されているアクセサリ ソケットで充電しながら使用すると、雑音が出ることがあります。
- より良い音質で聞くには、接続する機器の音量を最大にして、オーディオ本体で音量を調整してください。
- 外部入力モード中に入力端子のプラグを抜いたり、接続する機器側のプラグを抜き差しすると、雑音が出ることがあります。



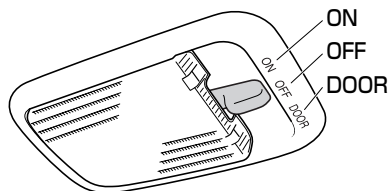
室内装備品

室内照明

ルーム ランプ

スイッチの位置によって、点灯、消灯の切り替えができます。

- ▼スイッチが“ON” のとき
ドアの開閉に関係なく点灯します。
- ▼スイッチが“OFF” のとき
ドアの開閉に関係なく消灯します。
- ▼スイッチが“DOOR” のとき
ドア連動機能により、点灯・消灯します。
(ドア連動機能→ 266 ページ)



ドア連動機能

室内照明とメーター内のエコドライブアシスト照明（アンバー照明仕様車）は、ドア操作、電源の操作に連動して、点灯・消灯します。

- 室内照明は、スイッチが“DOOR” のときに連動します。

(メーター→ 154 ページ)

👉 アドバイス

- 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

○タイマー機能

- すべてのドアが閉まっているとき、電源の操作により照明が点灯・消灯します。

電源	室内照明	エコドライブアシスト照明
ON	消灯	点灯
ACC または OFF	約15秒間点灯後に消灯	



- 電源が“OFF”または“ACC”のとき、下記の操作に連動して照明が点灯・消灯します。

▼ 運転席ドアの施錠・解錠

運転席 ドアロック	室内照明/ エコドライブアシスト照明
施錠	消灯
解錠	約15秒間点灯後に消灯

▼ ドアの開閉

ドア	室内照明/ エコドライブアシスト照明
いずれか開	点灯
全閉	約15秒後に消灯

○ バッテリーあがり防止機能

バッテリーあがり防止のため、自動的に室内照明とエコドライブアシスト照明（アンバー照明仕様車）を消灯する機能です。

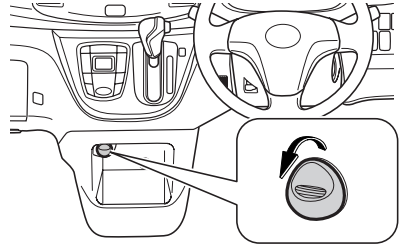
- 電源が“OFF”または“ACC”で、ドアを開けたまま約 10 分が経過すると、自動的に消灯します。
- 再度、点灯させるには、すべてのドアを閉めるか、電源を“ON”にしてください。

アクセサリー ソケット

電化製品の電源用ソケットとして利用することができます。

▼ 使用方法

カバーを外し、電化製品の電源プラグを差し込んで使用します。



⚠ 注意

- 電気容量は、DC12Vで最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量以上の電化製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電化製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- エンジンを停止した状態で使用しないでください。バッテリーあがりのおそれがあります。また、エンジンがかかっても、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。
- アクセサリー ソケットを使用しないときは、カバーを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかると、故障したり、ショートするおそれがあります。



👉 アドバイス

- アイドリング ストップからエンジンが再始動すると、アクセサリ ソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。

(「アイドリング ストップ」
→ 212 ページ)

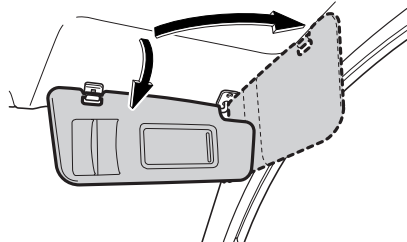
- 故障を防ぐため、電化製品はスバル指定品をおすすめします。

サン バイザー

直射日光などでまぶしいときに使用します。側面に移動させて使用することもできます。

▼ 使用するとき

図中の矢印の方向に動かします。

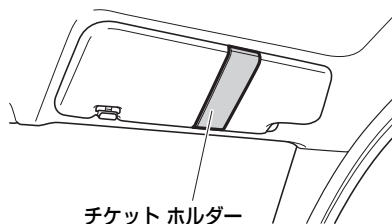


👉 アドバイス

- サン バイザーと天井の間に物を挟まないでください。発進時に物が落ちるおそれがあり危険です。

チケットホルダー

チケット類を収納することができます。



👉 アドバイス

- チケットホルダーにチケット類以外の物を入れないでください。発進時に物が落ちるおそれがあり、危険です。

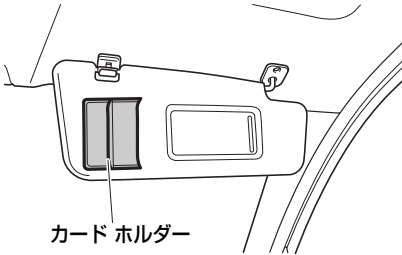


カードホルダー

カード類を収納することができます。

👉 アドバイス

- カードホルダーにカード類以外の物を入れしないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり、危険です。



バニティミラー

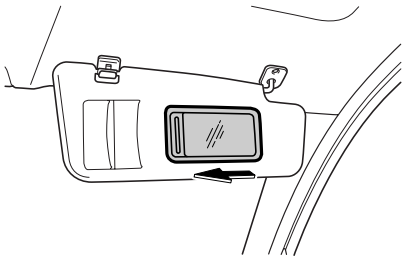
鏡として使用できます。

⚠️ 注意

- 走行中は使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 使用方法

カバーを矢印の方向にスライドさせます。

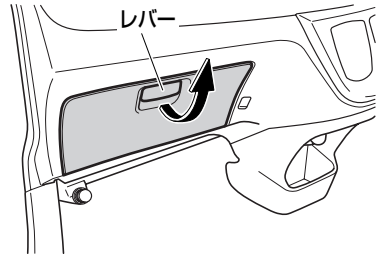


グローブボックス

物入れとして利用できます。

▼ 開閉方法

- レバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。



⚠️ 注意

- 走行中はグローブボックスを必ず閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたカバーに体が当たるなど思わぬけがをするおそれがあります。



装備品の使いかた 室内装備品

カップホルダー（前席）

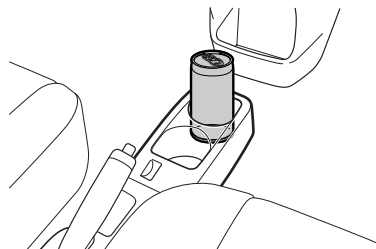
ペットボトルや缶ジュース、カップなどを置くときに便利です。

⚠注意

- 飲み物には、フタをするなどしてこぼさないように注意してください。振動で中身がこぼれるおそれがあります。特に温かい飲み物には、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- 飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
- カップホルダーには、ペットボトルやカップ、飲料缶以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。

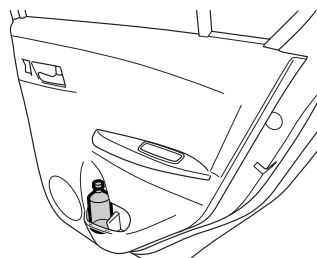
▼使用方法

そのままペットボトルや缶ジュース、カップを置いて使用します。



ボトルホルダー

ペットボトルなどを置くときに便利です。リヤドアにあります。



👉アドバイス

- 飲み物が入った栓をすることができない容器（缶やカップなど）を置かないでください。また、飲み物が入ったまま栓をしていないペットボトルを置かないでください。ブレーキ時に、飲み物がこぼれるおそれがあります。



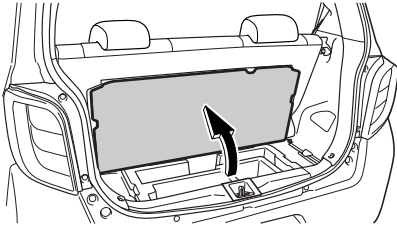
サブ トランク

収納スペースとして利用できます。
また、ジャッキ、工具などの格納場所
になっています。

(格納場所→ 276 ページ)

▼使用方法

リッド（フタ）を持ち上げて使用します。



ショッピング フック

軽量の荷物や、袋をかけておくのに便利
です。

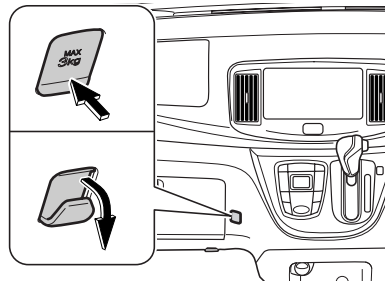
インストルメント パネル中央（助手席
側）にあります。

⚠注意

- 特に重たい物や、大きな物をショッピ
ング フックにかけないでください。
（最大荷重量約 3kg）
フックが折れたり、走行中に外れたり
するおそれがあります。

▼使用方法

- フックの下部を押さえ、反転させて使
用します。
- 元に戻すときは、そのまま反転させフ
ックを格納してください。



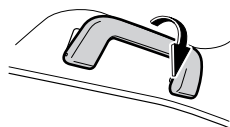


アシスト グリップ

引き起こして使用できます。

▼使用方法

- 矢印の方向に引き起こします。
- 使用後は、自動的に元に戻ります。



⚠注意

- 特に重たい物や、大きな物をアシストグリップにかけないでください。アシストグリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

Dotted lines for writing content.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.



いざというときに

車載工具の使いかたや、車を運転するうえで
いざというときの処置の方法について
説明しています。

■ 工具類

格納場所	276
ジャッキの使いかた	277

■ いざというときの処置

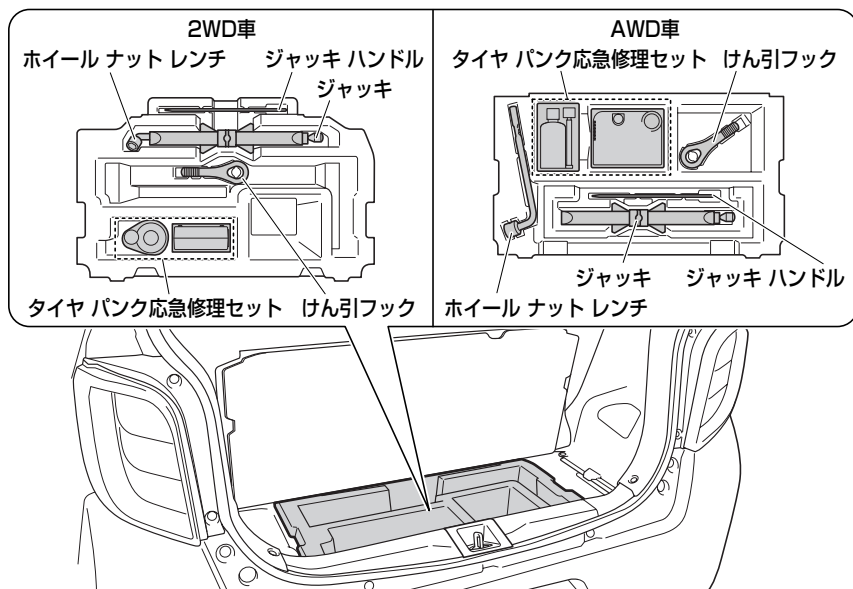
エンジンがかからないとき	282
スタック（立ち往生）したとき	282
故障したとき	284
けん引される時	285
パンクしたとき	288
タイヤ パンク応急修理セット	288
バッテリーあがりの処置	298
オーバーヒートの処置	300
ヒューズの交換	301
電球（バルブ）交換	306
アクセスキーが使用できないとき	316
キーを閉じ込めたとき	320
車両を緊急停止するには	320
事故が起きたとき	322



工具類

格納場所

サブ トランクに収納しています。



⚠注意

- ジャッキ、工具、タイヤパンク応急修理セットは所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。



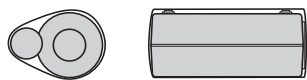
○タイヤ パンク修理セット

使用するときは、袋から出してください。

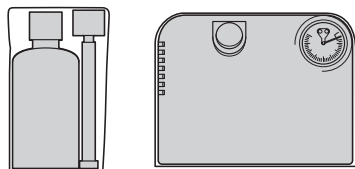
⚠️注意

- 収納するときは、上から見て下図になるように収納してください。誤った方向で収納すると、サブ トランクに正しく収納することができず、飛び出すおそれがあります。

2WD車



AWD車



ジャッキの使いかた

⚠️警告

- ジャッキ アップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると大変危険です。
- ジャッキ アップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキ アップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをPレンジに入れて、輪止めをしてください。車が動き出すおそれがあります。危険です。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなかたい場所を選んでセットしてください。ジャッキ アップしたとき、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、タイヤの交換およびタイヤ チェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキ アップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車を損傷するおそれがあります。
- ジャッキ アップするときは、人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm以上離れないようにしてください。
- ジャッキ アップしているときは、エンジンをかけないでください。





⚠警告

- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。

⚠注意

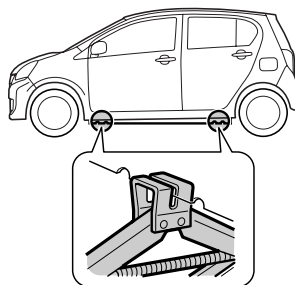
- 車に備え付けのジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキをセットする位置

ジャッキは必ずジャッキ セット位置にセットしてください。

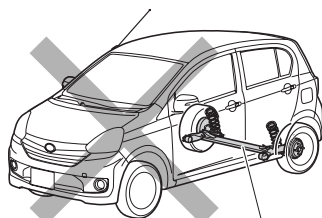
▼セットする位置

取り替えるタイヤに近いジャッキ セット位置（切り欠きと切り欠きの間）にセットします。



⚠注意

- 2WD車はリヤ サスペンション ビームにジャッキをかけないでください。



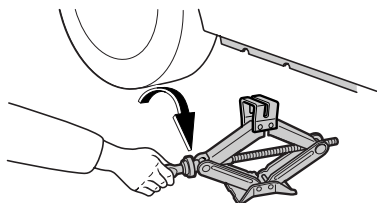
リヤ サスペンション ビーム



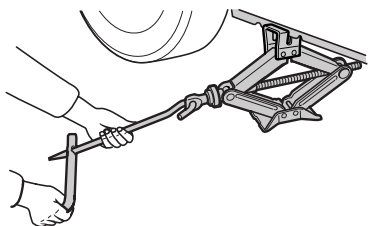
ジャッキのかけかた

▼ 操作手順

1. ジャッキを手で回して、セット位置（切り欠きと切り欠きの間）まで上げます。

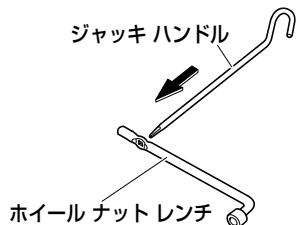


2. ジャッキが確実にセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にかかっていることを確認し、ジャッキ ハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車を持ち上げます。



👉 アドバイス

- ジャッキ ハンドルは図のように組み立てて使用してください。





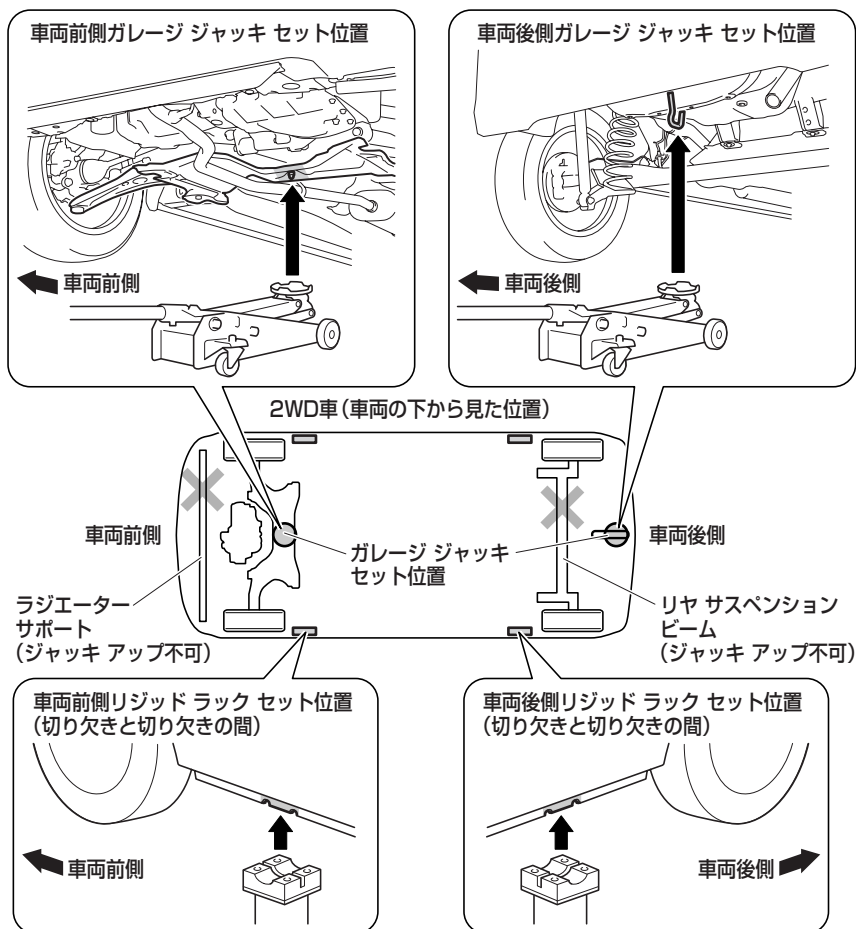
ガレージ ジャッキ (市販品) を使用する場合

ガレージ ジャッキを使用する場合は、図のガレージ ジャッキ位置にセットしてジャッキ アップを行ってください。その際は、必ずリジッド ラック (市販品) をリジッド ラック セット位置 (切り欠きと切り欠きの間) にセットしてください。

⚠️注意

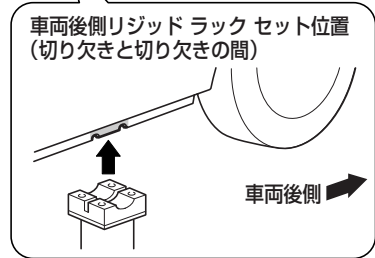
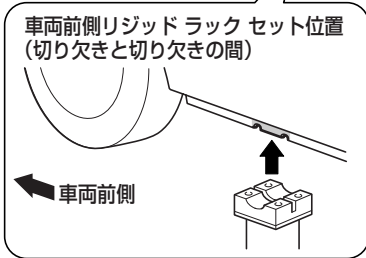
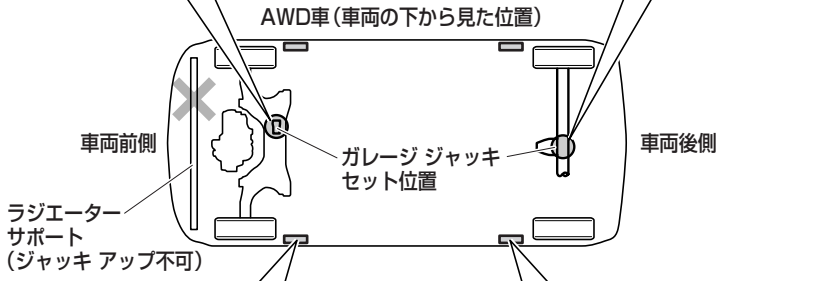
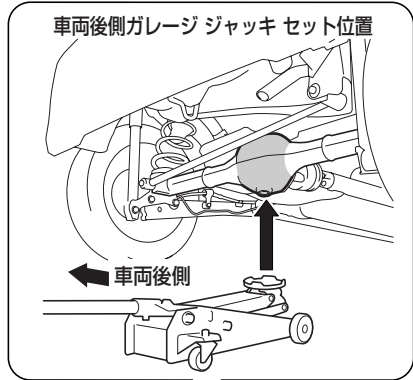
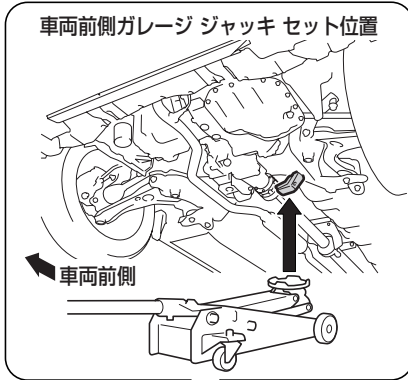
- ガレージ ジャッキ、およびリジッド ラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしないと、車が損傷したり、けがをするおそれがあります。

2WD車





AWD車





いざというときの処置

エンジンがかからないとき

燃料カット システム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、燃料カット システムが作動している可能性があります。燃料カット システムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際には電源を“OFF”または“ACC”に戻してから行ってください。

⚠警告

- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずに、お近くのスバル販売店にご連絡ください。

スタック（立ち往生）

したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、下記の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼ 脱出操作をする前に

⚠警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。スタックから脱出する際に、車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- セレクト レバーを操作するときは、アクセル ペダルを踏んだまま操作しないでください。車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⚠注意

- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。

（けん引される時→ 285 ページ）

▼脱出手順

1. 駐車ブレーキをかけ、セレクトレバーを回レンジに入れ、エンジンを停止します。
2. タイヤ前後の土や雪などを取り除きます。
3. スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めになります。
4. エンジンを始動します。
5. セレクトレバーを回レンジ、または回レンジに確実に入れ、注意しながら、アクセルペダルを軽く踏みます。

👉アドバイス

VDC&TRC装着車

- TRCの作動で脱出しにくいときは、TRCを停止してください。

（VDC&TRC OFFスイッチ→ 84 ページ）





いざというときに いざというときの処置

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押しもらってください。

⚠️注意

- 車を押す場合、セレクト レバーは **N** レンジに入れてください。

👉アドバイス

- 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

○踏切内の場合

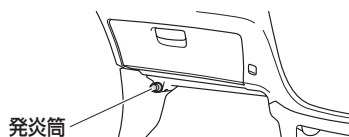
踏切内で動かなくなったり、脱輪などで
すぐ動かせない場合は、**ただちに踏切の
非常ボタンを押してください。**

発炎筒

発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、
非常事態が発生したときに使用する非常
信号用具です。

▼設置場所

グローブ ボックス左下に設置されていま
す。



⚠️注意

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けるとやけどの危険があるのでさけてください。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用すると、火災をまねく危険がありますのでさけてください。
- トンネル内では使用しないでください。トンネル内では非常点滅灯や懐中電灯で合図してください。

👉アドバイス

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。



けん引される時

故障車の移動は、スバル販売店、スバル指定サービス工場、または専門業者に依頼し、車両積載車で4輪とも持ち上げて運搬してください。

(スバル販売店、スバル指定サービス工場とJAFロードサービスの連絡先は、別冊の「スバル サービス ネットワーク」に記載されています。)

⚠警告

- 後輪だけをもち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
 - AWD車の場合、前輪、または後輪だけをもち上げたけん引は絶対にしないでください。
- 前輪、または後輪だけをもち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、車がレッカー車(台車)から飛び出すおそれがあります。

やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、下記の注意にしたがってください。

▼けん引を行う前に

⚠注意

- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。
- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、スバル販売店、スバル指定サービス工場にご確認ください。駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。
- ロープによるけん引をするときの速度は30km/h以下、けん引距離は50km以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- プッシュ エンジン スイッチが故障したときは、ハンドル ロックが解除できないため、ロープによるけん引はできません。





いざというときに いざというときの処置

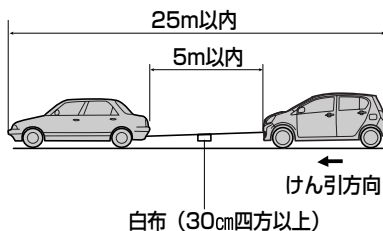
⚠注意

- けん引される車は、下記の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあります。
- できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
- 電源はハンドル ロックを解除させるために“ACC”にし、セレクト レバーはNレンジにしてください。
- エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキ ペダルを踏んでください。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。

けん引の方法

前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。

また、けん引ロープには必ず白い布（30cm四方以上）を付けてください。





ロープをかける位置

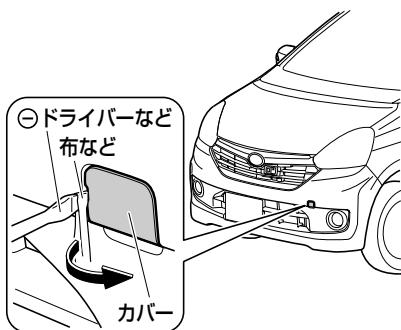
ロープは必ずけん引フックにかけてください。

けん引フックは、サブトランクに格納しています。

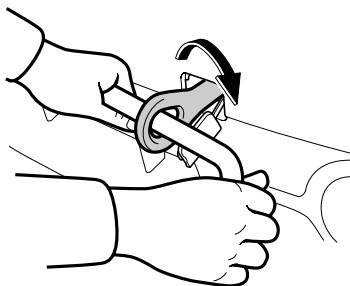
(格納場所→ 276 ページ)

▼けん引フックの取り付けかた

1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、カバーとバンパーのすき間に入る程度の薄刃の⊖ドライバーなどを用意します。
2. 用意した⊖ドライバーなどを図の位置の切りかきから差し込み、カバーを外します。



3. けん引フックを矢印の方向に回しながら差し込み、ホイール ナット レンチでしっかりと固定します。



👉 アドバイス

- けん引が終わったら、けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。



パンクしたとき

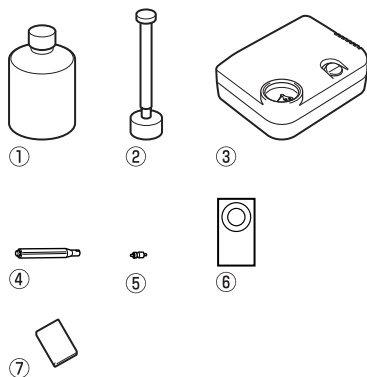
高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかりとって、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

タイヤ パンク応急修理セット

タイヤ パンク応急修理セットは、タイヤがパンクしたとき、パンク穴をふさぐタイヤ パンク応急修理剤と空気を注入するタイヤ空気充填用コンプレッサーを用いて応急修理を行う際に使用します。

- タイヤ パンク応急修理セット装着車には、応急用スペア タイヤは装着されていません。
- タイヤ パンク応急修理セットは、応急時のタイヤ修理用です。応急修理後は、すみやかにタイヤの交換、またはスバル販売店で、点検、修理を受けてください。

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤ パンク応急修理セットで応急修理を行うことができます。



- ① タイヤ パンク応急修理剤
- ② 注入ホース
- ③ タイヤ空気充填用コンプレッサー
- ④ バルブ コア回し
- ⑤ 予備バルブ コア
- ⑥ 速度制限シール
- ⑦ 取扱説明書



⚠️注意

- タイヤ パンク応急修理剤は、飲用すると体に害があります。もし誤って飲用された場合は、できるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- タイヤ パンク応急修理剤が、目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、ただちに水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- タイヤ パンク応急修理セットは、指定の場所に格納してください。また、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
(格納場所→ 276 ページ)
- タイヤ パンク応急修理剤は衣服などに付着すると、取れなくなるおそれがありますので注意してください。

👉アドバイス

- タイヤの空気充填用コンプレッサーは、タイヤ空気充填専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
- タイヤの空気充填用コンプレッサーはDC12V専用です。ほかの電源での使用はできません。
- タイヤ空気充填用コンプレッサーを使用する際、故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
 - 10分以上連続して使用しないでください。
 - 降雨時など、水がかからないようにしてください。
 - 砂ぼこりなどを吸い込ませないようにしてください。
 - 使用中に、動作が鈍くなったり、本体が熱くなったときはただちにスイッチを“OFF”にし、30分以上放置してください。
 - 分解、改造などは絶対にしないでください。
 - 強い衝撃や圧力を加えないでください。
- タイヤ パンク応急修理剤は有効期限を過ぎる前に交換してください。
- 有効期限はタイヤ パンク応急修理剤ボトルに表示されています。

有効期限表示



- 交換するときは、スバル販売店にご相談ください。

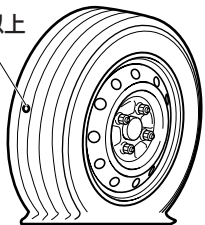


いざというときに いざというときの処置

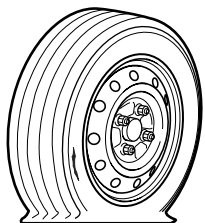
アドバイス

- 下記のような場合は、タイヤパンク応急修理セットによる応急修理ができません。スバル販売店またはJAFなどにご連絡ください。JAFロードサービスについては別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。
- 約4mm以上の切り傷や刺し傷

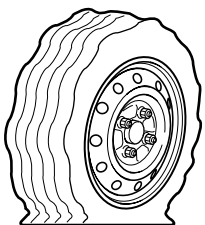
4mm以上



- タイヤ サイド部が損傷を受けた場合

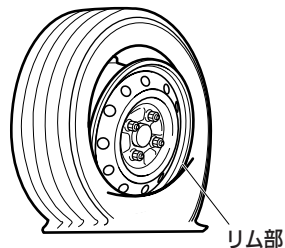


- ほとんど空気の抜けた状態で走行した場合

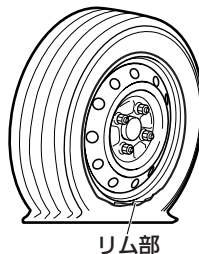


アドバイス

- タイヤがリムの外側に完全に外れている場合



- リム部が破損している場合



- タイヤが2本以上パンクしている場合
(修理剤はタイヤ1本分です)



タイヤの応急修理方法

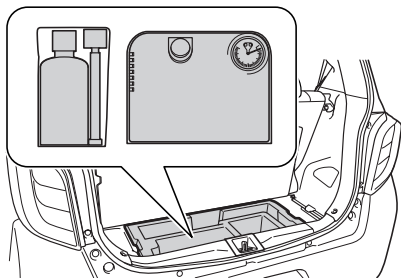
⚠注意

- 路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる地面が硬くて平らな場所に移動してください。その際は非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。

👉アドバイス

- タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かずにそのまま応急修理してください。

タイヤ パンク応急修理セットはサブトランクに格納しています。



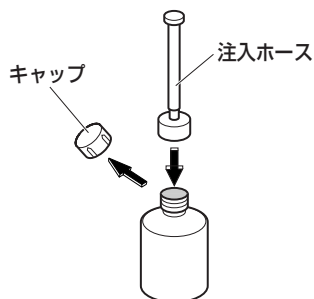
▼使用方法

1. タイヤ パンク応急修理剤ボトルとタイヤ空気充填用コンプレッサーを取り出します。
2. タイヤ パンク応急修理剤ボトルをよく振ります。

👉アドバイス

- タイヤ パンク応急修理剤ボトルは注入ホースをねじ込む前に振ってください。

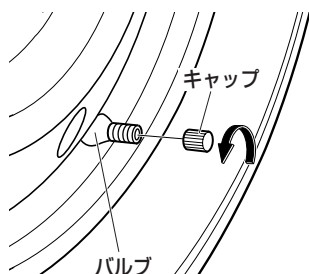
3. タイヤ パンク応急修理剤ボトルのキャップを外し、中ぶたをつけたまま注入ホースをタイヤ パンク応急修理剤ボトルにねじ込みます。
(注入ホースをねじ込むと中ぶたが破れます)



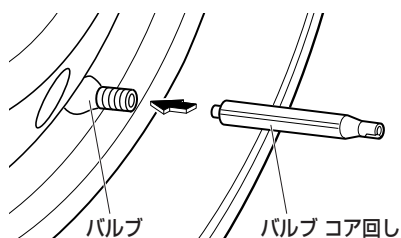


いざというときに いざというときの処置

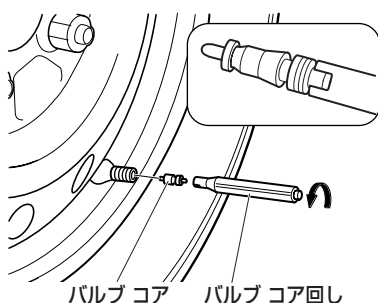
4. パンクしたタイヤのバルブからキャップを左に回して外します。



5. バルブ コア回しを図の向きでバルブに押し付けて、タイヤの空気を完全に抜きます。



6. バルブ コア回しの溝がある部分で、バルブ コアを左に回して外します。



⚠注意

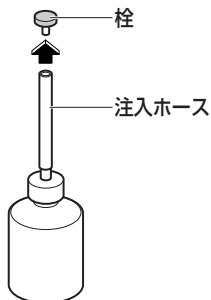
- バルブ コアを外すとき、タイヤに空気が残っているとバルブ コアが飛び出すことがあります。慎重に外してください。

👉アドバイス

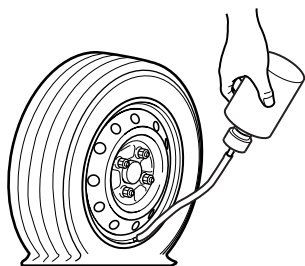
- バルブ コアは再度使用しますので汚れないようにきれいなところに保管してください。



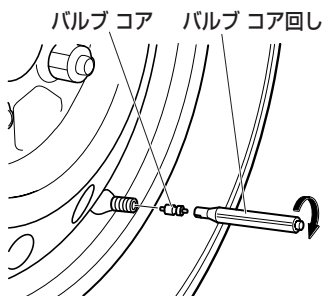
7. 注入ホースの栓を外し、注入ホースの先端をタイヤのバルブに差し込みます。



8. タイヤパンク応急修理剤を逆さまにして持ち、手で何回も圧迫し、修理剤をすべてタイヤ内に注入します。



9. 注入し終わったら、注入ホースをタイヤバルブから引き抜き、バルブコアをタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。



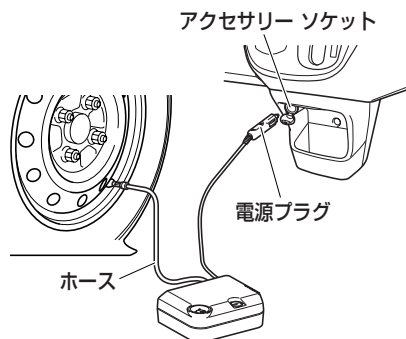
👉 アドバイス

- 空になったタイヤパンク応急修理剤ボトルは、タイヤ交換、または恒久修理のときに修理剤の回収に使用しますので、捨てずにスバル販売店までお持ちください。



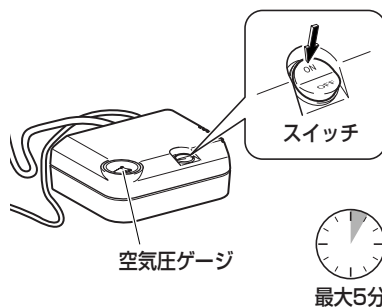
いざというときに いざというときの処置

10. タイヤ空気充填用コンプレッサーに格納されているホースと電源プラグを取り出します。
11. タイヤ空気充填用コンプレッサーのホースをタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。
12. タイヤ空気充填用コンプレッサーの電源プラグを車両アクセサリーソケットに差し込みます。

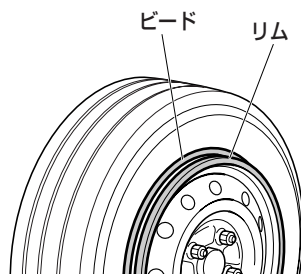


13. 車両の電源を“ACC”にします。
 14. タイヤの指定空気圧を確認します。
- 指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。

15. タイヤ空気充填用コンプレッサーのスイッチを入れ、コンプレッサーの空気圧ゲージで確認しながら、タイヤを指定空気圧まで昇圧してください。



- タイヤのビードがリムから外れている場合は、空気が漏れないようにリムとタイヤの隙間をなくすようにしてコンプレッサーを起動させてください。
(隙間がなくなれば空気圧が上がりませ)



⚠注意

- タイヤが膨らむとビードがリムにはまり込むので、指などを挟まないようにしてください。
- タイヤ空気充填用コンプレッサーは10分以上連続して使用しないでください。モーターが過熱し損傷するおそれがあります。



👉 アドバイス

- タイヤ空気圧を、指定の空気圧まで昇圧するには約 5 分程度必要です。もし、5 分以内に十分昇圧しないなら、ジャッキでタイヤを地面から浮かせて手で 2~3 回以上回し、タイヤ パンク応急修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ってください。

(ジャッキの使いかた→ 277 ページ)

- 5 分以内に指定の空気圧まで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、タイヤ パンク応急修理剤で修理することができません。スバル販売店または、JAFなどにご連絡ください。

👉 アドバイス

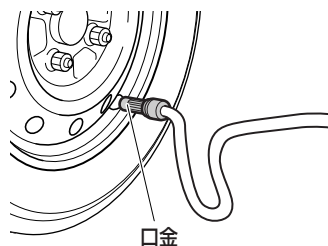
- JAFロード サービスについては別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

16. 指定の空気圧まで昇圧できれば、タイヤ空気充填用コンプレッサーのスイッチをきってコンプレッサーを車両から取り外し、すみやかに走行してください。

- 急加速、急ブレーキ、急ハンドルをさけ、80km/h以下で慎重に運転してください。

👉 アドバイス

- 空気を入れすぎた場合は、ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。

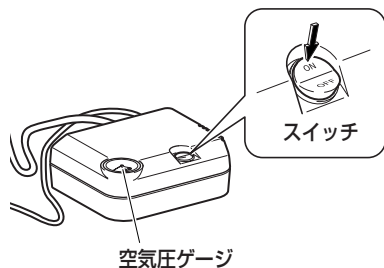


17. 10 分間または 5 km程度走行後、交通のさまたげにならない安全な場所に停車し、車両の電源を“OFF”にします。



いざというときに いざというときの処置

18. タイヤ空気充填用コンプレッサーを
手順 11～12 の要領で車両に接続し
ます。
19. 車両の電源を“ACC”にして、タイ
ヤの空気圧を空気圧ゲージでチェッ
クしてください。



アドバイス

- 空気圧を測定するときは、タイヤ空気
充填用コンプレッサーのスイッチを一
度“ON”にしてコンプレッサーを作動
させます。そのあと、スイッチを
“OFF”にしてからタイヤ空気圧を確認
してください。

- 空気圧が 130kPa以下に低下してい
たら、タイヤパンク応急修理剤による
修理はできません。走行を中止し、ス
バル販売店または、JAFなどにご連絡
ください。

アドバイス

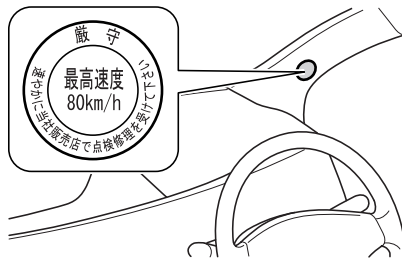
- JAFロードサービスについては別冊の
「メンテナンスノート」を参照して
ください。

20. 空気圧が 130kPa以上であれば、パン
ク応急修理の完了です。
再度コンプレッサーのスイッチを入
れ、指定空気圧まで昇圧してくださ
い。

アドバイス

- 必ず空気圧を確認して応急修理を完了
してください。

21. 異常がなければ、付属の速度制限シ
ールを運転者のよく見えるところに
貼り、急加速、急ブレーキ、急ハン
ドルをさげ、80km/h以下ですみやか
にスバル販売店まで走行します。



警告

- 速度制限シールは、ハンドルのパッド
部などエアバッグ展開面に貼らないで
ください。SRSエアバッグが正常に作
動しなくなり、重大な傷害を受けるお
それがあります。
また、メーターやウィンドウ ガラス
など、運転のさまたげになるようなと
ころに貼らないでください。思わぬ事
故につながるおそれがあり危険です。



○応急修理後の処置

タイヤ パンク応急修理剤を使用したタイヤは、すみやかに交換、修理を行ってください。交換、修理についてはスバル販売店にご相談ください。

アドバイス

- ホイールは、付着したタイヤ パンク 応急修理剤を抜き取れば再使用できます。ただし、バルブ コアは新しい物と取り替えてください。
こぼれたタイヤ パンク 応急修理剤はふき取ってください。
- タイヤ パンク 応急修理剤の空容器は、タイヤ交換時に、使用済みの修理剤の回収に使用しますので、スバル販売店までお持ちください。
- タイヤ パンク 応急修理剤を使用した場合は、再び、新しい修理剤を車両に装備しておく必要がありますので、スバル販売店にご相談ください。
- 修理業者等にタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤ パンク 応急修理剤を使用したことを知らせてください。

タイヤ パンク 応急修理セットの 点検

いざというとき使用できるようにタイヤ パンク 応急修理セットの各部品は日常点検を実施してください。

- タイヤ パンク 応急修理剤の有効期限の確認
- アクセサリー ソケット 電源の確認
(電化製品を使用するなどして、作動で点検してください)
- タイヤ空気充填用コンプレッサー作動の確認
(タイヤ空気充填用コンプレッサーの電源プラグをアクセサリー ソケットに差し込み、電源を“ACC”にします)





いざというときに いざというときの処置

バッテリーあがりの処置

下記のような症状が見られるとバッテリーあがりと考えられます。

- スターターが回らない。
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッド ランプがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- キーレス アクセス装着車のアクセスキーでドアが解錠しない。

⚠警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- バッテリーを交換するときは、この車専用のスバル純正バッテリーに交換してください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化や「アイドリング ストップ」によるアイドリング ストップが正常に作動しなくなる原因となります。

(「アイドリング ストップ」専用
バッテリー→ 357 ページ)

- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。「アイドリング ストップ」によるアイドリング ストップが正常に作動しなくなります。

(「アイドリング ストップ」専用
バッテリー→ 357 ページ)

👉 アドバイス

- バッテリーあがりを防ぐために下記のことをお守りください。
- エンジンを止めたままランプをつけたリ、オーディオを長時間使用しない。
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る。
- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。
- バッテリーを交換したとき、新しいバッテリーは、バッテリーを設置するトレイの車両後方側に設置してください。



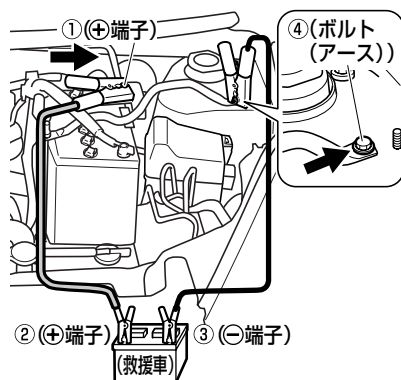
▼ 処置を行う前に

⚠ 警告

- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスにより爆発するおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いたら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースター ケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの⊖端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。

▼ 処置の手順

1. バッテリーの⊕端子のカバーを外し、ブースター ケーブルを図の番号順で接続します。
 - ① バッテリーあがり車の⊕端子
 - ② 救援車の⊕端子
 - ③ 救援車の⊖端子
 - ④ 下記の箇所
(ボルト (アース) につなぐ)





いざというときに いざというときの処置

2. 救援車（電源側の車）を始動し、少しエンジン回転を高め保ちます。
3. バッテリーあがり車のエンジンを始動します。
4. ブースター ケーブルを接続順序の逆で外します。

⚠注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12Vバッテリー車と接続してください。
- ケーブル接続の際には、ブースターケーブルを矢印の方向にして、⊕端子に接続させてください。
また、⊕端子をボディ金属部や⊖端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。

オーバー ヒートの処置

下記の状態がオーバー ヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
 - ボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき
- 車を安全な場所に止め、下記の処置をしてください。

▼ 処置を行う前に

⚠警告

- 水温が高いときは、冷却水注入口を外さないでください。冷却水の圧力が冷却水注入口にかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、大変危険です。

▼ 処置の手順

1. ボンネットから蒸気が出ていたら、エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しボンネットを開け、風通しを良くします。
2. ボンネットから蒸気が出ていなければ、エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しを良くします。



3. 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジン ルームをチェックします。エンジン ルーム内が下記のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてスバル販売店にご連絡ください。
 - 冷却ファンが回転していないとき
 - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
 - 冷却水リザーバー タンクの水がないとき
 - ファン ベルトが切れているとき
4. 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止めます。
5. エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファン ベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検します。
6. 冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水の補給は、別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

アドバイス

- オーバー ヒートを防止するため、日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンス ノート」参照）

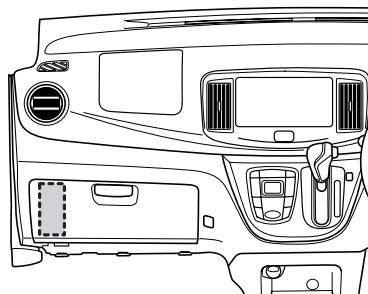
ヒューズの交換

ランプが点灯しない場合や、電気系統の装置がはたらかない場合は、ヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。ヒューズについてはスバル販売店にご相談ください。

ヒューズの位置

- インストルメント パネル
ヒューズ ボックス

グローブ ボックス奥に設置されています。

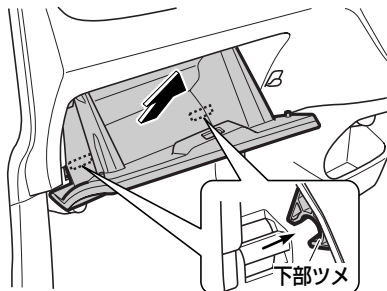




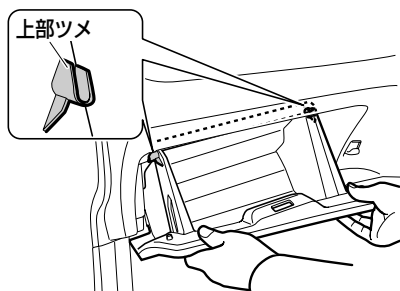
いざというときに いざというときの処置

▼グローブ ボックスの取り外しかた

1. 電源を“OFF” にします。
2. グローブ ボックスを開けます。
3. グローブ ボックスを矢印の方向へ引き上げて下部ツメを外します。

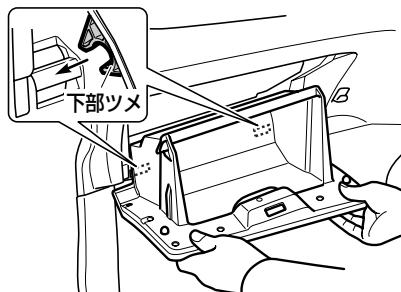


4. 上部ツメが引っかからないように、少し傾けながら、グローブ ボックスを取り外します。

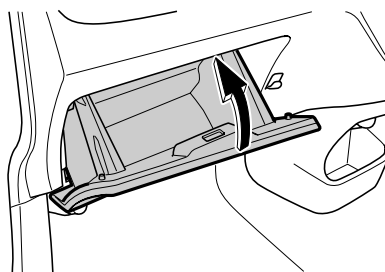


▼グローブ ボックスの取り付けかた

1. グローブ ボックスの下部ツメを取り付けます。



2. グローブ ボックスを矢印の方向に押し込みます。

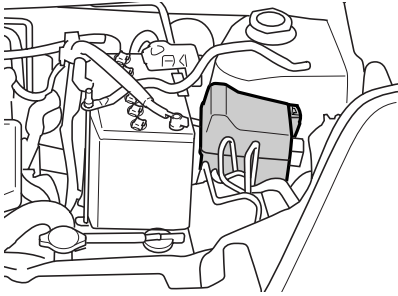


👉 アドバイス

- グローブ ボックスを取り付けるときは、十分にかん合していることを確認してから、ボックスを閉めてください。下部ツメのかん合が不十分なままだと、ボックスが開かなくなります。



○エンジン ルーム ヒューズ ボックス



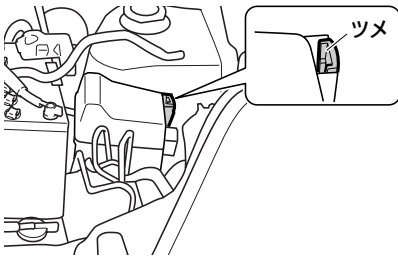
ヒューズ ボックス

ヒューズ ボックスのラベルに各ヒューズのアンペア数と受け持つ装置の名称を表示しています。

ヒューズは、ラベル表示にしたがって交換してください。

▼取り外しかた

1. 電源を“OFF” にします。
2. カバー横のツメを押しながら、カバーを取り外します。



▼取り付けかた

取り外すときと逆の手順で行います。

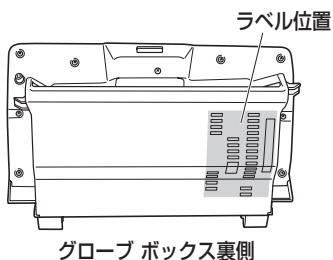


いざというときに いざというときの処置

○インストルメント パネル
ヒューズ ボックス

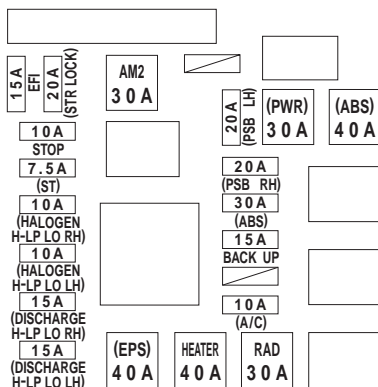
▼ラベル位置

グローブ ボックスの裏側に表示されてい
ます。



TAIL	(ETCS)
10A	10A
DOME	HORN/HAZ
5A	10A
(FOG RH)	AM2
7.5A	7.5A
(FOG LH)	(AM1)
7.5A	5A
	D/L
BACK UP	15A
5A	POWER B
(RR WIPER)	20A
10A	ECU IG2
WASHER	5A
15A	E/G
FR WIPER	10A
25A	IG1/BACK
POWER IG	5A
30A	(SEAT HTR)
	10A
(ECU-B)	ECU IG1
10A	7.5A
(A/C)	SOCKET
5A	15A
(DEFOG2)	ACC
5A	5A
DEFOG1	(H-LP HI RH)
15A	10A
	(H-LP HI LH)
	10A

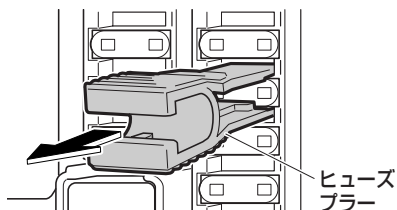
○エンジン ルーム ヒューズ ボックス
ヒューズ ボックスのカバーに表示されて
います。





ヒューズの点検と交換

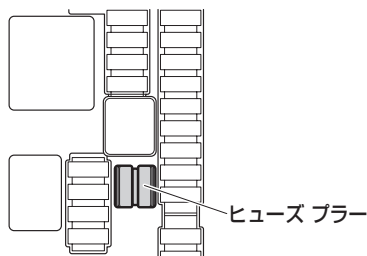
1. 備え付けのヒューズ プラーを使用し、ヒューズを挟んで外します。



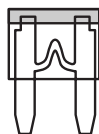
アドバイス

ヒューズ プラーの位置

- インストルメント パネル ヒューズボックス内にあります。



2. 取り外したヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換してください。ヒューズが切れていないときはほかに原因が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。



(正常)



(切れているとき)

△注意

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、スバル販売店で点検を受けてください。
- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

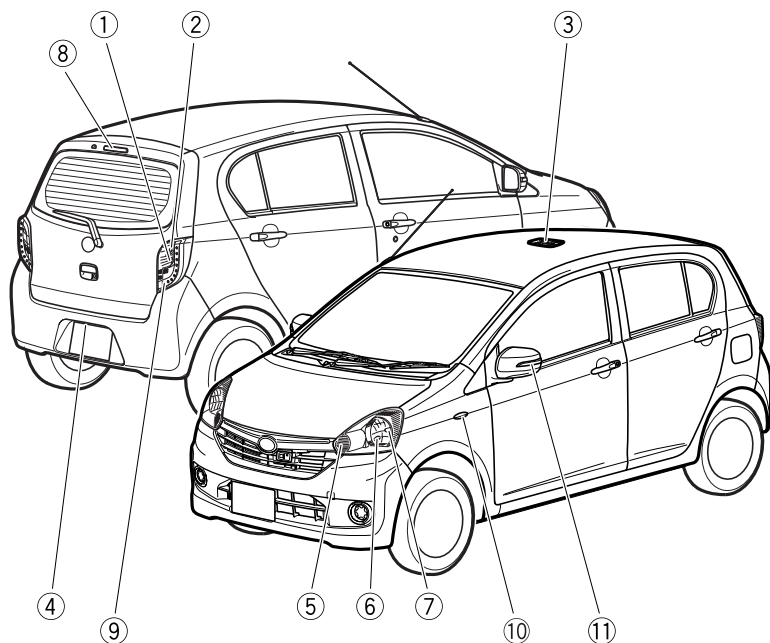


電球 (バルブ) 交換

ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、スバル販売店にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。





ランプ	電球(バルブ)	
	W(ワット)数	タイプ
① 後退灯	16	T16
② 後面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21	S25 (アンバー)
③ ルーム ランプ	8	T10
④ 番号灯	5	T10
⑤ 前面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21	T20 (アンバー)
⑥ 車幅灯	5	T10
⑦ 前照灯	60/55	H4

⚠注意

- 電球は上記のワット数、タイプのもので交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

下記の電球の交換は、スバル販売店にご相談ください。

- ⑧ハイマウント ストップ ランプ (LED)
- ⑨制動灯 兼 尾灯 (LED)
- ⑩側面方向指示灯 兼 非常点滅灯 (ドア ミラー ターン ランプ装着車以外)
- ⑪側面方向指示灯 兼 非常点滅灯 (LED)
(ドア ミラー ターン ランプ装着車)

👉アドバイス

- 側面方向指示灯 兼 非常点滅灯 (ドア ミラー ターン ランプ装着車以外) は、レンズセット交換になるため、電球のみの交換をすることができません。スバル販売店にご相談ください。

LEDランプについて

- LEDを使用しているランプは、LEDのみの交換をすることができません。スバル販売店にご相談ください。
- ハイマウント ストップ ランプ、制動灯 兼 尾灯などは複数のLEDで構成されています。もし、LEDが1つでも点灯しないときは、スバル販売店で交換してください。



いざというときに いざというときの処置

交換の手順

⚠警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

⚠注意

- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- ⊖ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。
- 前照灯用のハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷を付けたりと破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。

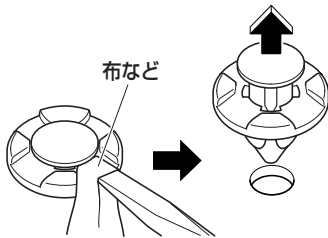


👉 アドバイス

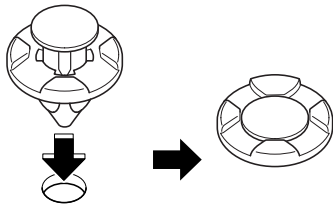
- ヘッド ランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。

クリップの取り付け、取り外しについて

- クリップ タイプA
- 取り外すときは、⊖ドライバーで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張ります。

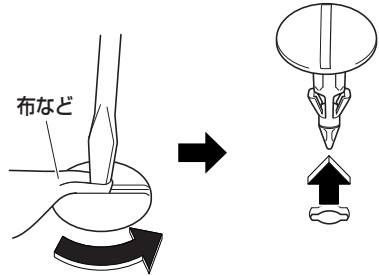


- 取り付けるときは、取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込みます。

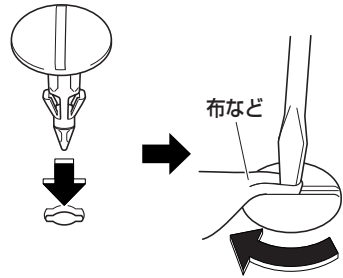


👉 アドバイス

- クリップ タイプB
- 取り外すときは、ドライバーで矢印の方向へ 90° 回して取り外します。



- 取り付けるときは、差し込んでからドライバーで矢印の方向へ 90° 回して取り付けます。



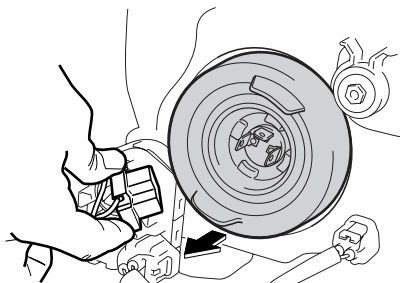


いざというときに いざというときの処置

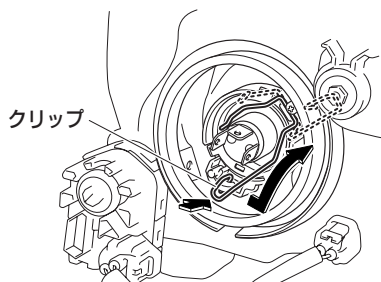
○前照灯

▼取り外し手順

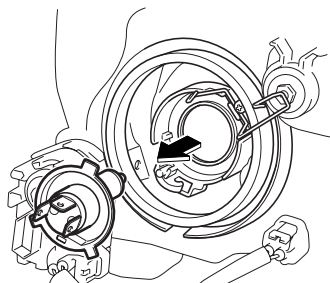
1. コネクターを取り外したあと、カバーを取り外します。



2. クリップを矢印の方向に外します。

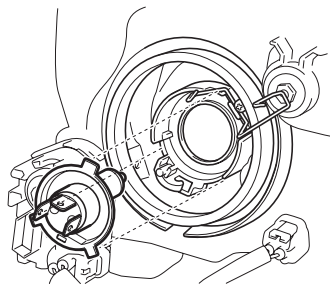


3. バルブを取り外します。

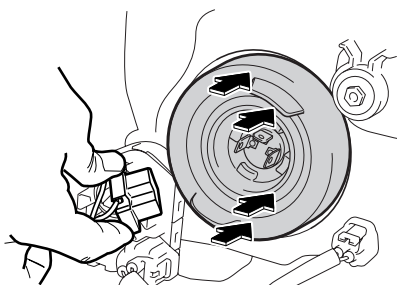


▼取り付け手順

1. バルブの突起部をヘッド ランプ本体の溝にはめ込みます。



2. クリップを確実にフックに取り付け、バルブを固定します。
3. 矢印の方向にカバーを押さえて、確実にカバーを取り付けたあと、コネクターを取り付けます。

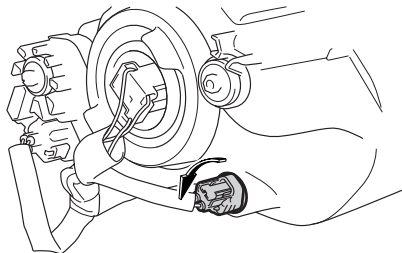




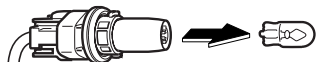
○車幅灯

▼取り外し手順

1. ソケットを回して取り外します。



2. ソケットから電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。

○前面方向指示灯 兼 非常点滅灯

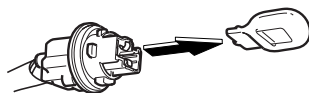
車両右側

▼取り外し手順

1. ソケットを回して取り外します。



2. ソケットから電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。



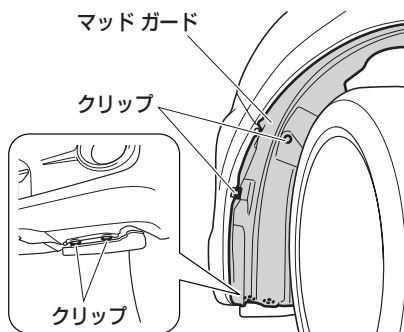
いざというときに いざというときの処置

車両左側

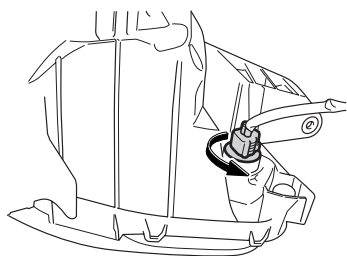
車両左側の前面方向指示灯 兼 非常点滅灯はエンジン ルームから交換できないため、マッド ガードをめくって交換してください。

▼取り外し手順

1. ハンドルを右に、いっぱいまで回します。
2. クリップ（4 個）を取り外し、バンパーとマッド ガードの間に手が入るくらいマッド ガードをめくります。



3. ソケットを回して取り外します。



4. ソケットから電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

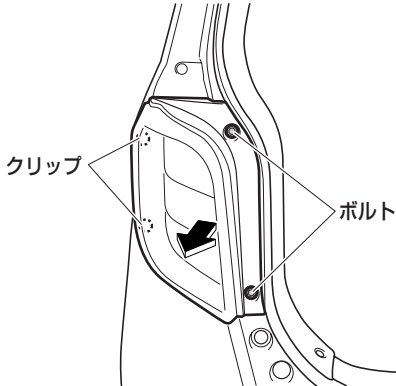
逆の手順で行います。



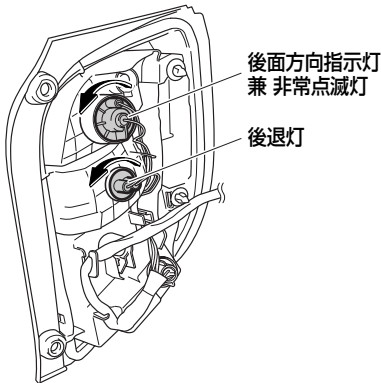
○リヤ コンビネーション ランプ

▼取り外し手順

1. リヤ ゲートを開けます。
2. ボルト（2本）を取り外します。
3. 車両後方にランプ本体を引いて、車両からランプ本体を取り外します。



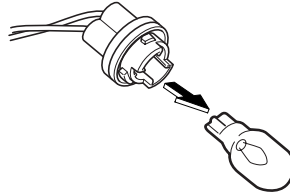
4. 交換する電球のソケットを回して取り外します。



5. 電球を取り外します。

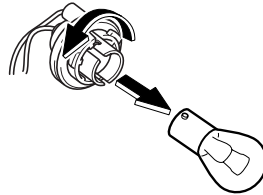
後退灯

ソケットから電球を引き抜きます。



後面方向指示灯 兼 非常点滅灯

電球を押しながら回して、ソケットから抜き取ります。





いざというときに いざというときの処置

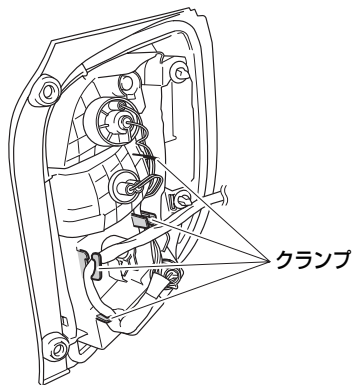
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

⚠ 注意

- ランプ本体を取り付けるときは、必ず配線をクランプに取り付けてください。

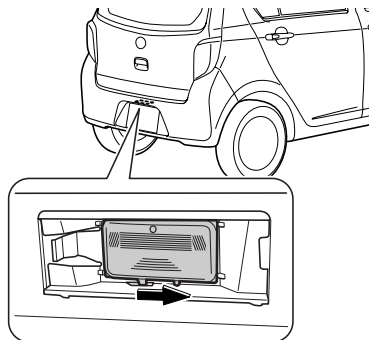
クランプに取り付けていないと配線が車体に挟み込まれ、損傷するおそれがあります。



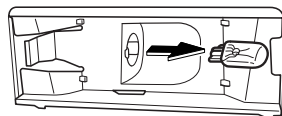
○ 番号灯

▼ 取り外し手順

1. レンズを矢印の方向にスライドさせて取り外します。



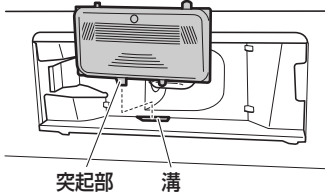
2. 電球を引き抜きます。



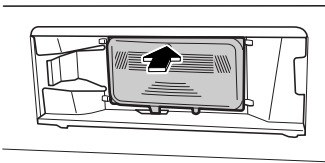


▼取り付け手順

1. 電球を取り付けます。
2. レンズの突起部をランプ本体の溝に入れます。



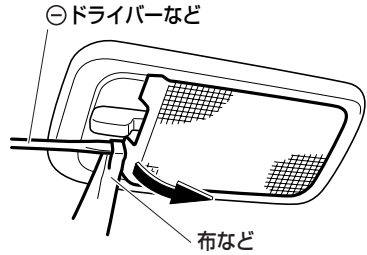
3. レンズを矢印の方向に押し付けて取り付け、確実に固定されたことを確認します。



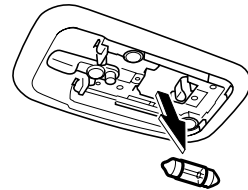
○ルーム ランプ

▼取り外し手順

1. ①ドライバーなどを差し込んで、カバーを取り外します。



2. 電球を取り外します。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。



いざというときに いざというときの処置

アクセス キーが 使用できないとき

キーレス アクセス装着車

電池の消耗などにより、アクセス キーが使用できない場合は、メイン キー、またはアクセス キー（メカニカル キー）を使用してドアの施錠、解錠、およびエンジン スイッチの操作を行うことができます。

⚠警告

- 電池の消耗などにより、アクセス キーが使用できない場合でも、アンテナは電波を発信していますので、植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器を使用されている方は、車室外アンテナ・車室内アンテナから約 22 cm以内に近づかないようにしてください。

（アンテナ→ 114 ページ）

👉アドバイス

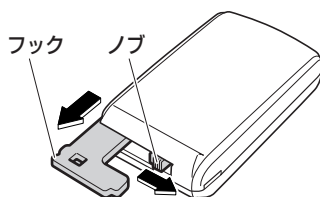
- ここで説明しているエンジンのかけかたは一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。

（キーの電池交換→ 341 ページ）

メカニカル キーの取り出しかた

▼取り出しかた

アクセス キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、アクセス キーから、メカニカル キーのフック部を引いて取り出します。



👉アドバイス

- 使用後は、メカニカル キーを必ずアクセス キーに格納しておいてください。



ドアの施錠、解錠

▼操作を行う前に

👉アドバイス

盗難警報装置がセットされている場合

- アクセス キー以外でドアを解錠してドアを開けると、盗難警報装置の警報が作動します。

警報が作動した場合は、ただちに次項「エンジンのかけかた」の手順 1~3 にしたがって、キーを認識させてください。警報が停止します。

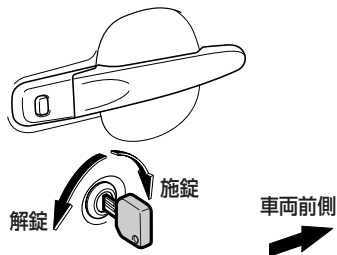
(盗難警報装置→ 127 ページ)

(エンジンのかけかた→ 318 ページ)

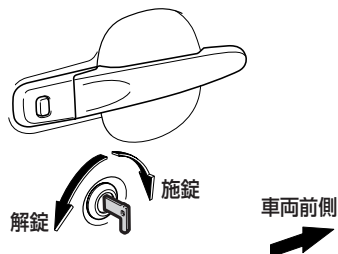
▼操作方法

キーを確実に差し込んでから回します。
キーを車両前側に回すと施錠され、後ろ側に回すと解錠されます。

メイン キー



メカニカル キー





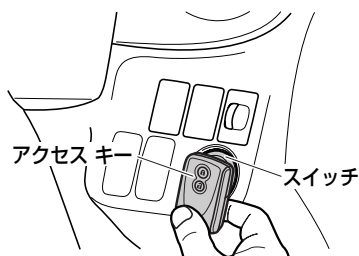
いざというときに いざというときの処置

エンジンのかけかた

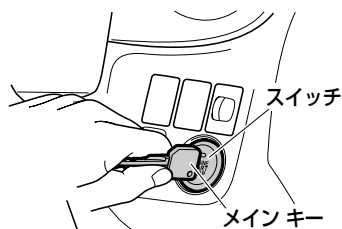
▼操作方法

1. セレクト レバーがPレンジにあるのを確認し、ブレーキ ペダルをしっかり踏み込みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、キーを①のようにプッシュ エンジン スイッチに接触させます。
3. キーが認識されて、「ピー」というブザー音が鳴り、スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。

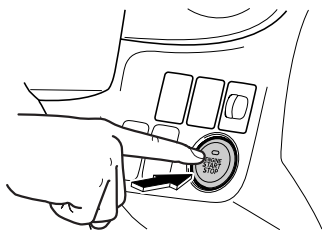
アクセス キー



メイン キー



4. キーの認識後、約 4 秒以内にスイッチを押すと、エンジンが始動します。



▼エンジンの停止方法

通常のエンジン停止方法と同様に、セレクト レバーをPレンジに入れてスイッチを押します。

(エンジンの停止→ 195 ページ)

▼電源の切り替え方法

「エンジンのかけかた」の手順 4 で、ブレーキ ペダルから足を離してエンジンスイッチを押します。

スイッチを押すごとに

「OFF→ACC→ON→OFF」の順に電源が切り替わります。

👉アドバイス

- 下記の状態になると、スイッチを押してもエンジンの始動（電源の切り替え）はできません。もう一度はじめからやり直してください。
- キーの認識後、約 4 秒以上経過した
- 電源を“OFF”にした
- 手順通りに操作をしてもエンジンが始動できないときは、スバル販売店にご相談ください。



👉 アドバイス

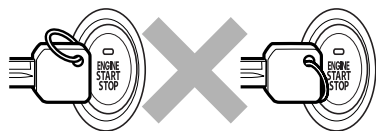
ハンドル ロックを解除するには

- エンジンの始動操作をしたときに、スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、ハンドル ロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。

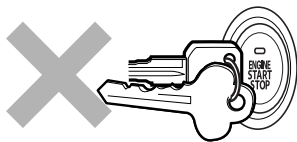
ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

メイン キーでエンジンのスイッチ操作を行う場合

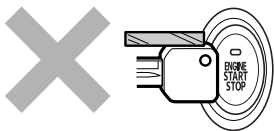
- 下記のような状態では、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンのスイッチ操作ができない場合があります。
- キー グリップに金属製のリングをのせたままのとき



- キー グリップにほかのキーの金属部が接しているとき

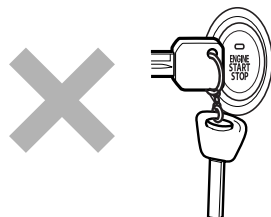


- キー グリップに金属製の物が接しているとき

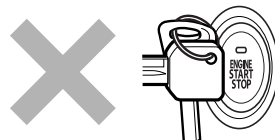


👉 アドバイス

- メイン キーがほかの車両のイモビライザー機能用キー（信号アンテナ内蔵の物）と近いとき



- メイン キーがほかの車両のイモビライザー機能用キー（信号アンテナ内蔵の物）と重なっているとき





いざというときに いざというときの処置

キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAFなどを呼んでください。

別冊の「スバル サービス ネットワーク」に記載されています。

▼キーをなくした場合

電波式リモコン ドア ロック装着車

キー ナンバーを最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

👉アドバイス

- キーの閉じ込みで困らないために下記
の習慣を心がけてください。
- 日頃からキーを使ってロックしてください。
- バッグなどにスペア キーを入れておいてください。

キーレス アクセス装着車

保管していたメイン キー（またはアクセス キー）とキー ナンバー プレートを最寄りのスバル販売店にお持ちください。

👉アドバイス

- アクセス キー使用時は特にキーを閉じ込めやすくなります。ドアを施錠する際は、必ずアクセス キーを携帯していることを確認するか、電波式リモコン ドア ロック操作で施錠を行ってください。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、下記の手順で車両を停止させてください。

○緊急停止方法

1. ブレーキ ペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

⚠警告

- ブレーキ ペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2. セレクト レバーをNレンジに入れま
す。

▼セレクト レバーがNレンジに入った場合

3. 減速後、車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止します。

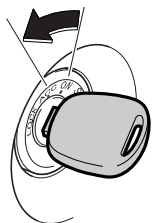


▼セレクト レバーがNレンジに入らない場合

4. ブレーキ ペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。
5. エンジンを停止します。

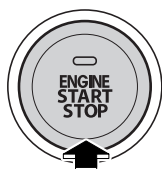
プッシュ エンジン スイッチ装着車以外

エンジン スイッチを“ACC”の位置にして、エンジンを停止します。



プッシュ エンジン スイッチ装着車

スイッチを 3 秒以上押し続けるか、3 回以上連打して、エンジンを停止します。



3秒以上押す、または3連打する

6. 車を安全な道路脇に停めます。

警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止する

ときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないください。





事故が起きたとき

交通事故が起きたときはあわてずに下記の処置を取りましょう。

▼ 処置の方法

1. ただちに車を止めます。車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を取ります。
2. 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。
3. 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察署または派出所へ事故を報告して警察官の指示にしたがいます。この届出は法令で義務付けられています。
4. 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。
5. 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.



車のお手入れ

車の整備、お手入れの方法について
説明しています。

■ 車のお手入れ

エンジン ルーム-----	326
消耗品の補給、交換-----	327
タイヤの点検-----	330
タイヤ交換-----	332
ワイパーの交換-----	336
エアコンのお手入れ-----	340
キーの電池交換-----	341
室内のお手入れ-----	344
ボディ、塗装面のお手入れ-----	345

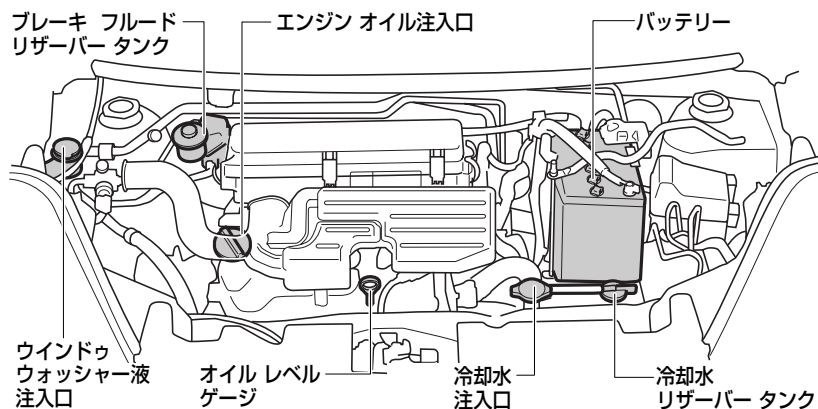


車のお手入れ

車を安全、快適にご使用いただくには、日頃のお手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

エンジン ルーム

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



⚠注意

- エンジン ルーム周辺に人がいるときは、プッシュ スタートの操作をしないでください。エンジンが始動すると、けがをするおそれがあります。



消耗品の補給、交換

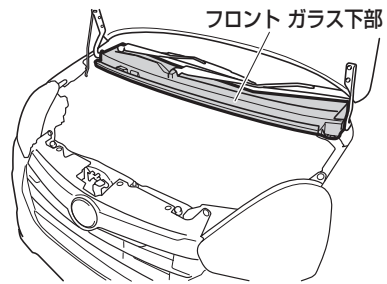
消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

⚠警告

- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
- やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
- 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。
オイルが付着したときは、ただちに拭き取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

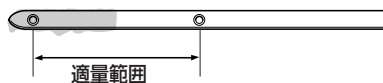
- エンジン ルームを点検するときは、フロント ガラス下部周辺に物を置かないでください。エンジン内部に物が落下し、故障につながるおそれがあります。





エンジン オイル

エンジン オイルの量を定期的に点検してください。なお、高速走行を行う前には、必ず点検してください。



オイル レベル ゲージ

アドバイス

- エンジン オイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをすることはありますが、通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、エンジン オイル注入口の裏側や、オイル注入口にエンジン オイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジン オイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。この現象によるエンジン オイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありませぬ。

冷却水

▼冷却水の点検について
冷却水リザーバー タンクの側面の目盛りで行ってください。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

警告

- 水温が高いときは、冷却水注入口を外さないでください。冷却水の圧力が冷却水注入口にかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、大変危険です。

ウインドウ ウォッシャー液 の補給

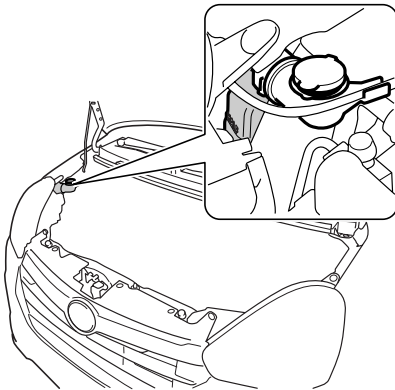
ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、スバル指定ウインドウ ウォッシャー液を補給します。

アドバイス

- ウインドウ ウォッシャー液はスバル指定をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウインドウ ウォッシャー タンクはフロント、リヤ兼用です。

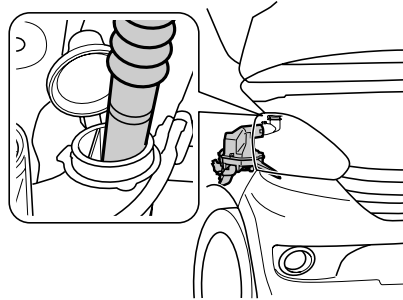
▼ 点検のしかた

ウォッシャー タンクの側面から、液面を目視により確認します。



▼ 補給のしかた

ウォッシャー タンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。



警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

注意

- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液をあふれるほど入れないでください。



タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、最低でも月に1回行ってください。

タイヤが冷えているときに、タイヤゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。

空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

(タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。)

⚠警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象*によりタイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

👉アドバイス

- タイヤが冷えているときとは、一般道路で走行距離が1km以下の場合、または3時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが暖まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているので、約20～30kPa (0.2～0.3 {kgf/cm²}) 空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。

また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

⚠警告

- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、スバル販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

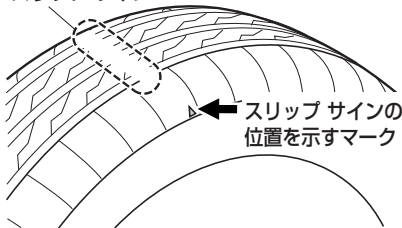
* 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップサイン（摩耗限度表示）により点検してください。

また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

スリップサイン



⚠ 警告

- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象*により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

* 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

タイヤのローテーション

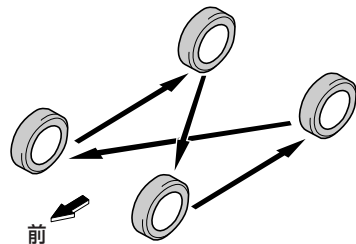
タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。

ローテーションは 5,000km 走行ごとに行ってください。

▼ローテーションのしかた

図の順にローテーションしてください。

（タイヤ交換→ 332 ページ）



👉 アドバイス

- タイヤ パンク応急修理セット装着車では、応急用スペアタイヤを利用してタイヤのローテーションができません。スバル販売店にご相談ください。

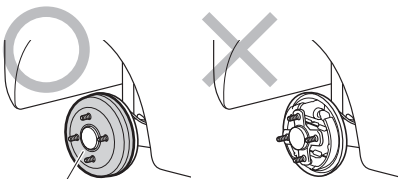


タイヤ交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠警告

- ジャッキ アップした車の下にもぐらないでください。万一、ジャッキが外れると大変危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキ ドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキ ドラムが外れていないことを確認してください。
ブレーキ ドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず大変危険です。



ブレーキ ドラム

⚠注意

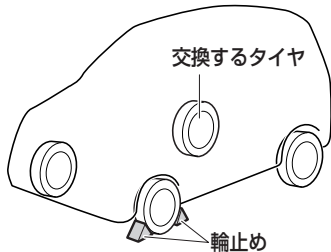
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。
- アルミ ホイール装着車は、専用品以外のナットは使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。
- 傷、変形がある物は再使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
(タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています)
- 車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人は車から降り、重い荷物は車から降ろしてください。

⚠注意

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。
- この車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。

交換の手順

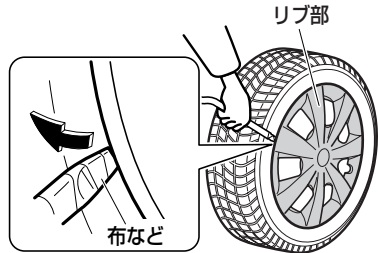
1. 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、セレクト レバーをPレンジの位置にします。
2. 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めを置きます。



アドバイス

- 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。
3. 工具、ジャッキを取り出します。
(格納場所→ 276 ページ)
(ジャッキの使いかた→ 277 ページ)

4. フル ホイール キャップ装着車は、傷付き防止のため、先端に布などを巻いたジャッキ ハンドルを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフル ホイール キャップを外します。



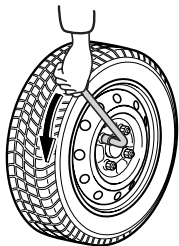
注意

- キャップは手で外さないでください。けがをするおそれがあります。
- ホイール キャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたり、ボディなどを傷付けるおそれがあります。
- ジャッキ ハンドルは必ず穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んでください。ホイール キャップが割れるおそれがあります。

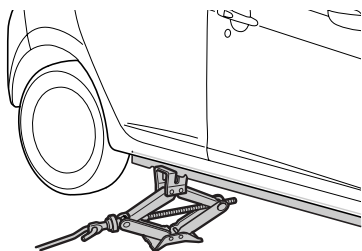


車のお手入れ 車のお手入れ

5. ホイール ナット レンチでホイール ナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。

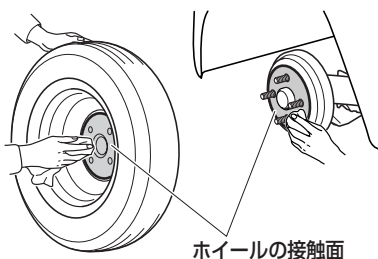


6. タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりとジャッキ アップし、車体を上げます。
(ジャッキの使いかた→ 277 ページ)



7. 4 個のホイール ナットを外し、タイヤを外します。
● タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きに置いてください。

8. 取り付けるタイヤのホイールの接触面の汚れをふき取ります。

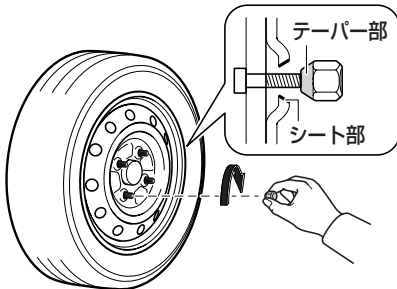


⚠注意

- タイヤを取り付けるときに、ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

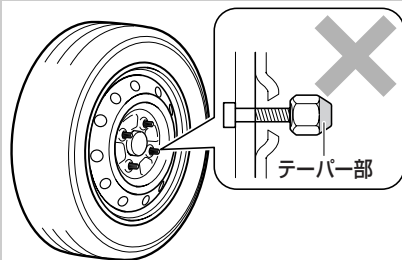
9. タイヤを取り付けます。

10. ナットのテーパー部分がホイールのシート部に軽くあたるまで、ナットを右に回して仮締めします。



⚠警告

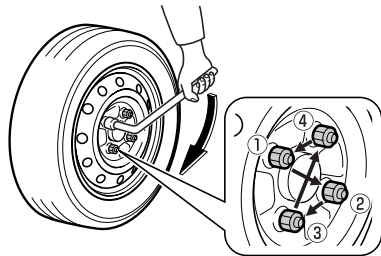
- 必ずナットのテーパー部分を内側にして取り付けてください。テーパー部分を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⚠注意

- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。

11. タイヤが地面につくまで車体をおろし、ホイール ナットを均等に対角線の順にホイール ナット レンチで 2、3 度にわたり十分締め付けます。



⚠注意

- ホイール ナット レンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。
- 締め付力 (ホイール ナット レンチ先端にて) : 440~590N {45~60kgf}
- 締め付トルク : 103N・m {1,050kgf・cm}

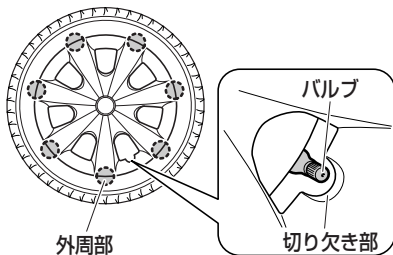




車のお手入れ 車のお手入れ

12. フル ホイール キャップ装着車は、フル ホイール キャップを取り付けます。

- タイヤのバルブとフル ホイール キャップの切り欠き部を合わせ、フル ホイール キャップの外周部を押して取り付けます。



13. 工具、ジャッキ、タイヤを片付けます。

14. 走行後ホイール ナットのゆるみがないことを点検します。

⚠注意

- タイヤを脱着したときは、しばらく走行したあと、再度ホイール ナットにゆるみがないことを確認してください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検をスバル販売店で受けてください。

ワイパーの交換

⚠注意

- ワイパー ブレード、ラバーはスバル指定品をおすすめします。スバル指定品以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパー ブレード ラバーを使用し続けると、ウインドウ ガラスを傷付けるおそれがあります。拭きむらがある場合は、早めに交換してください。
- フロント ワイパー アームを起こすときは、必ず運転席側のワイパー アームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパー アームから戻してください。
- ワイパー ブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパー アームを倒さないでください。ウインドウ ガラスやボンネットに傷が付くおそれがあります。
- 起こしたワイパー アームに戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパー アームが変形したり、ウインドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを作動させてください。ウインドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。

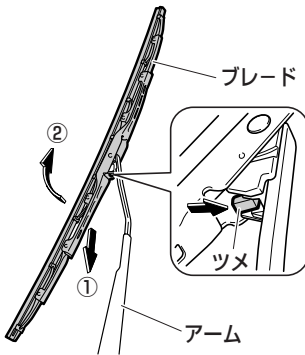


フロント ワイパー

○ワイパー ブレード

▼取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードをツメが見える角度まで傾けます。
3. ツメを押しながら、ブレードを矢印①の方向に引いたあと、矢印②の方向に抜き取ります。



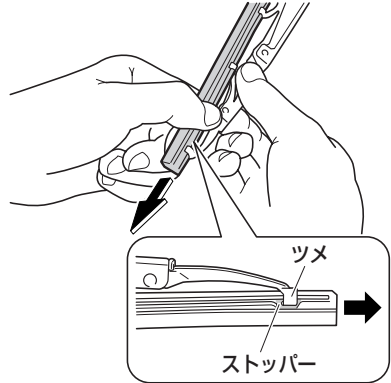
▼取り付けかた

- ブレードをアームに取り付けます。
- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

○ワイパー ブレード ラバー

▼取り外しかた

1. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引きます。



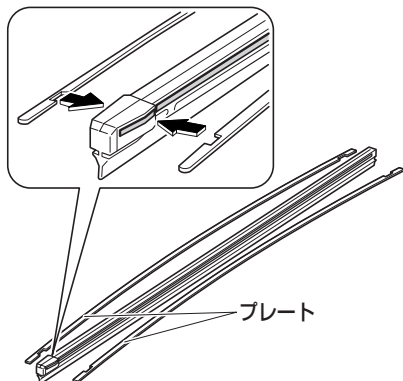
2. そのままラバーをブレードから引き抜きます。



車のお手入れ 車のお手入れ

▼取り付けかた

1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。



4. ストッパーがない側からラバーをプレートに挿入します。
5. 取り付けたとき、ストッパーのある側が運転席側になるようにしてください。

⚠注意

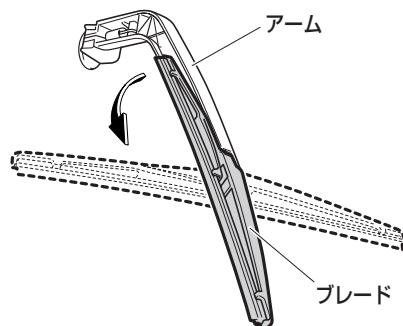
- ラバーのストッパーにプレートのツメを確実に挿入してください。ウィンドウガラスに傷が付くおそれがあります。

リヤワイパー

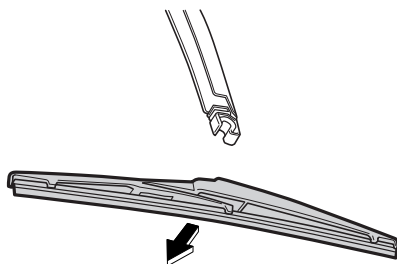
○ワイパー ブレード

▼取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードを矢印の方向に回し、アームと垂直にします。



3. ブレードを矢印の方向に引いて、アームからブレードを引き抜きます。



▼取り付けかた

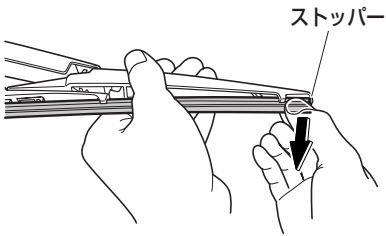
逆の手順で行います。



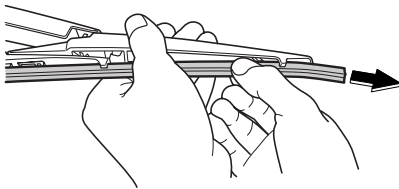
○ワイパー ブレード ラバー

▼取り外しかた

1. ラバーを手前に引いて、ブレードの先端部のストッパーから取り外します。

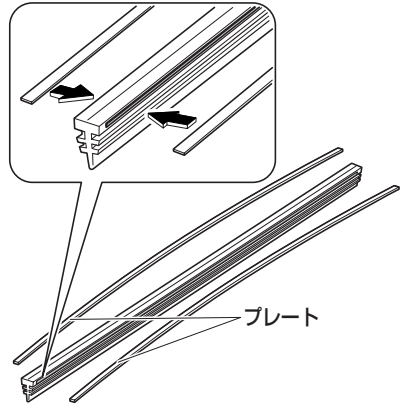


2. ラバーをブレードから引き抜きます。



▼取り付けかた

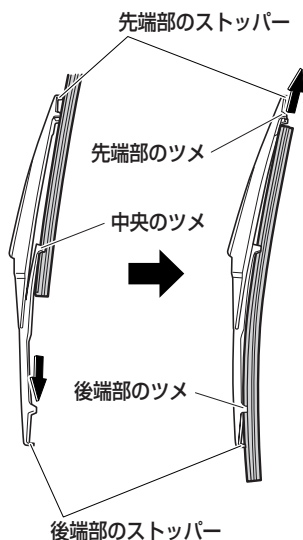
1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。





車のお手入れ 車のお手入れ

4. ブレードの中央のツメからラバーを挿入します。
5. ブレードの後端部のツメにラバーを通し、さらにラバーを挿入して、後端部のストッパーを通過させます。
6. 先端部のツメにラバーを通し、先端部のストッパーまで挿入します。
7. 後端部のツメにラバーが確実に挿入されていることを確認してください。



⚠注意

- ラバーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウインドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。

エアコンのお手入れ

エアコン ガス

エアコン ガスは新冷媒 HFC134a (R134a) を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。

👉 アドバイス

- エアコン ガスの補充、エアコンの修理をする場合はスバル販売店にご相談ください。

クリーン エア フィルター

エアコンには、車外から進入する粉じんなどを除去し、車内を快適な空気に保つクリーン エア フィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。

- フィルターの交換については、スバル販売店にご相談ください。
- 交換の目安は 20,000km (大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所は 10,000km) です。

👉 アドバイス

- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

キーの電池交換

次のようなときは、キーの電池消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

- スイッチを押しても作動しない
- 著しく作動距離が短くなった
- インジケーターが点灯しない
- 電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、スバル販売店での交換をおすすめします。

⚠注意

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにご注意ください。
- 電池を交換するときは以下のことに注意してください。故障の原因になるおそれがあります。
- 濡れた手で電池交換をしない
- 電子部品に触れたり、端子を曲げたりしない
- 油や異物を入れない

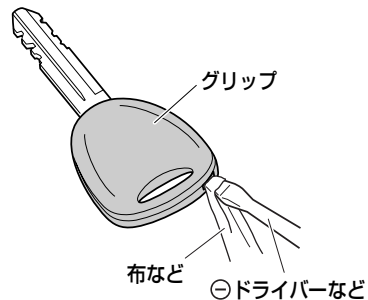
電波式リモコン ドア ロック 装着車

▼使用電池について

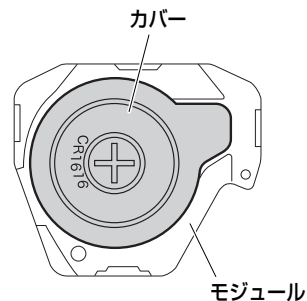
使用電池は「CR1616 (3V)」です。

▼交換方法

1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、くぼみに入る程度の薄刃の⊖ドライバーなどを用意します。
2. 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、グリップを外します。



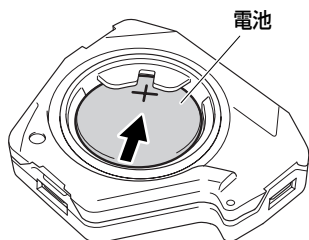
3. モジュールの裏側のカバーを外します。





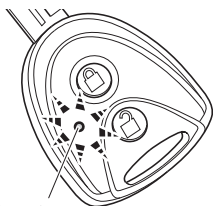
車のお手入れ 車のお手入れ

4. 矢印の方向に軽く押し込んで電池を取り出し、新しい電池と交換します。



▼ 交換したあと

1. カバーとモジュール、およびグリップを逆の手順で取り付けます。
2. スイッチを押したとき、インジケータが点滅することを確認します。



インジケータ

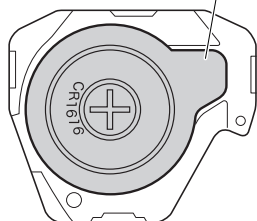
⚠ 注意

- 電池交換をする場合は、必ず身体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気によりメインキーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。
- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように特にご注意ください。

👉 アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 故障の原因となりますので、下記のことをお守りください。
 - 端子部分などを曲げない
 - 水、油などでぬらさない
 - ゴミなどの異物を入れない
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。
- 電池交換はスバル販売店に依頼することをおすすめします。
- 電池は新品を使用してください。
- 電池交換後はメインキーの機能が正常であることを確認してください。
- ボタン電池を廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。電池が重なり合ったり、他の金属製品を混ぜたりすると電池がショートして、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。また、自治体が条例などを定めている場合は、その条例にしたがってください。
- カバーをはめ込むときは、突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。カバーが確実にはめ込まれていないと、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。

突起部



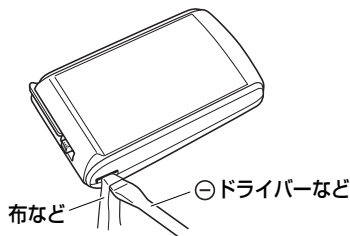
キーレス アクセス装着車

▼使用電池について

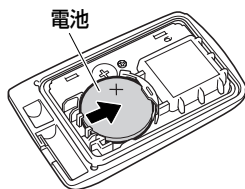
使用電池は「CR2032 (3V)」です。

▼交換方法

1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、くぼみに入る程度の薄刃の⊖ドライバーなどを用意します。
2. 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、アクセス キーのカバーを外します。



3. 矢印の方向に軽く押し込んで電池を取り出し、新しい電池と交換します。



▼交換したあと

1. カバーを逆の手順で取り付けます。
2. スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認します。



⚠注意

- 電池交換をする場合は、必ず身体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気によりアクセス キーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。
- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように特にご注意ください。



👉 アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 故障の原因となりますので、下記のことをお守りください。
 - 端子部分などを曲げない
 - 水、油などでぬらさない
 - ゴミなどの異物を入れない
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。
- 電池交換はスバル販売店に依頼することをおすすめします。
- 電池は新品を使用してください。
- 電池交換後はアクセス キーの機能が正常であることを確認してください。
- ボタン電池を廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。電池が重なり合ったり、他の金属製品を混ぜたりすると電池がショートして、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。また、自治体が条例などを定めている場合は、その条例にしたがってください。

室内のお手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材などの汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。

室内側のウィンドウ ガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

⚠️ 注意

- シートの下など見えにくい場所や狭い場所に手を入れるときは、けがをしないように十分注意してください。
- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
特にシート ベルトについては、必ず中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。

👉 アドバイス

- リヤ ウィンドウ ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

ボディ、塗装面のお手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つために、洗車、ワックスがけを月1回程度の割合で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボディカバーを付けるように心がけましょう。車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。

下記の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コール タール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

アドバイス

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足回りを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めにペイントで補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。

洗車

▼ 洗車の手順

1. 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗います。汚れのひどい箇所はカーシャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に洗い落とします。
2. 水が乾かないうちにふき取ります。

注意

- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。効が悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効が回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。
- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。

アドバイス

- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤を使用すると、車体の色によっては色落ちの原因になることがあります。



車のお手入れ 車のお手入れ

○自動洗車機を使用するとき

⚠注意

- エアコン コントロール パネルの内外気切り替えレバー、またはスイッチで“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ミラー、アンテナは格納し、前側から洗車してください。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

○高圧洗車機を使用するとき

⚠注意

- ドア ガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。

キーレス アクセス装着車

- フロント ドア ハンドル、およびリヤゲート ハンドル下側のスイッチ周辺に洗車ノズルの先端を近付けすぎないようにしてください。水圧によりスイッチが破損するおそれがあります。

ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなつたときに行ってください。

▼ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。ワックスはスバル指定カー ワックスをおすすめします。

⚠注意

キーレス アクセス装着車

- フロント ドア ハンドル、およびリヤゲート ハンドル下側のスイッチ周辺にワックスが付着したときは、鋭利なもので清掃しないでください。スイッチが変形して操作のさまたげになるおそれがあります。

👉 アドバイス

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りのワックスを使用すると、車体の色によっては色落ちの原因になることがあります。



樹脂部分のお手入れ

樹脂塗装部品（バンパーなど）にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。十分に水洗いをしたあとただちに柔らかい布でふき取ってください。

アドバイス

- 樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、スバル販売店にご相談ください。不適當な塗料を使用すると塗膜をいためます。

アルミ ホイールのお手入れ

オプション/グレード別装備

アルミ ホイールはボディの洗車と同じ要領で行い、ボディと同じワックスでワックスがけをしてください。

注意

- アルミ ホイールにワックスがけをする際は、ホイール ナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。必要以上に締め付けられ、ボルトが破損するおそれがあります。

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing a memo.



積雪、寒冷時の取り扱い

積雪時、寒冷時に必要となる
運転知識について説明しています。

■ 積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ -----	350
走行前点検と準備-----	351
積雪、寒冷時の走行 -----	352
走行中の点検と注意 -----	354
走行後の取り扱い-----	354



積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ

点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動やキーレス アクセス（オプション/グレード別装備）に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジン オイル

冬期はオイルの劣化が激しくなります。指定グレードのエンジン オイルを、早めに交換してください。

冷却水

冷却水の凍結を防ぐためにクーラント（不凍液）の濃度の確認をスバル販売店に依頼してください。

ウインドウ ウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

寒冷地用ワイパー ブレード

降雪期に使用する寒冷地用ワイパー ブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。

寒冷地用ワイパー ブレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品をご使用ください。

⚠️注意

- 高速走行時は、通常のワイパー ブレードよりウインドウ ガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合は速度を落として走行してください。



走行前点検と準備

走行前点検の際に下記の点検も行ってください。

足回りなどの着氷

車の下回りをのぞいて、足回りなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

車体への積雪

屋根に積もった雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると視界のさまたげとなり危険です。

⚠️注意

- 氷結している部分を無理に取り除くと塗装などをいためる場合がありますので注意してください。

ドアの凍結

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、破損するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷をとかしてください。開けたあとは水分をよくふき取ってください。不十分ですとまた凍結することがあります。

ウィンドウ ガラスの凍結

凍結しているときは、ぬるま湯をかけて氷をとかし、水分をよくふき取ってください。

⚠️注意

- 氷をとかすときはぬるま湯を使用し、熱湯はかけないでください。ウィンドウ ガラスが割れるおそれがあります。
- フロント ウィンドウ ガラスに付いた氷を取り除くために、氷をたたいて割らないでください。フロント ウィンドウ ガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどが凍ったり、雪が固まって動かないときは、ぬるま湯をかけて氷や雪をとかし、水分をふき取ってください。

⚠️注意

- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどを無理に作動させると、ワイパー ゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

乗車時の注意

靴にこびりついた雪は、乗車時によく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。また、床面などが加湿状態となり、腐食の原因となります。



積雪、寒冷時の取り扱い 積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の走行

雪道、凍結路を走るときはタイヤ チェーンまたは冬用タイヤ（スタッドレス タイヤ）を装着してください。

⚠注意

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリップしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
チェーン装着車、冬用タイヤ（スタッドレス タイヤ）装着車、またAWD車、ABS装着車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤ チェーンの装着

前輪駆動車ですので、チェーンは前 2 輪に装着します。AWD車も前 2 輪に装着します。

タイヤ チェーンは、タイヤ サイズに合った物を使用してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

▼ 指定タイヤ サイズおよびチェーンの種別

タイヤサイズ	タイヤチェーンの種別	
155/65R14	スバル純正チェーン	使用可能
	市販JISチェーン（金属）	使用不可



⚠️注意

- タイヤ チェーンは車のタイヤのサイズに合った、スバル指定品または指定サイズの使用してください。サイズの合わないチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体を破損し、危険です。
- スバル純正以外の金属チェーンを使用すると車体に干渉して異音発生や傷付きによる錆が発生することがあります。
- タイヤ チェーンの取り付けは各タイヤ チェーン付属の取扱説明書にしたがって行ってください。
- タイヤ チェーン装着時は 30km/h以上で走行しないでください。タイヤ チェーンにかかる負担が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。
- 取り付け作業は雪上などをさけ交通のさまたげにならない安全で平らな場所で行ってください。必ず駐車ブレーキをかけ、非常点滅灯を点滅させ、人や荷物は降ろし、停止表示板も使用してください。
- 作業をするときは、車体端部などでけがをしないように注意してください。
- VDC&TRC装着車は、チェーン装着時VDCが正確に作動しない場合があります。

👉アドバイス

- タイヤ チェーンを装着するとホイール キャップやアルミ ホイールに傷が付くおそれがあります。ホイール キャップ装着車はホイール キャップを取り外した状態で、タイヤ チェーンを装着してください。

冬用タイヤ

(スタッドレス タイヤ) の装着

⚠️注意

- 冬用タイヤ (スタッドレス タイヤ) は必ず標準タイヤと同じ指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン (溝模様) の物を装着してください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
(タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています)
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。



走行中の点検と注意

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキパッドのしめりを乾かしてください。

⚠️注意

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

⚠️注意

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。スリップして方向性を失い事故につながるおそれがあります。

走行中の雪の付着

雪道走行時、タイヤハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなるがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

パンク時の対応

タイヤパンク応急修理セットで応急修理をしてください。

(タイヤパンク応急修理セット
→ 288 ページ)

走行後の取り扱い

駐車方法

屋外に駐車するときは、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。

エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなることがあります。

また、ワイパーアームは起こしてください。雪の重みでアーム取り付け部がこわれることがあります。

⚠️注意

- フロントワイパーアームを起こすときは、必ず運転席側のワイパーアームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパーアームから戻してください。

👉アドバイス

- 寒冷時は駐車ブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが解除できなくなるおそれがありますので使用しないでください。セレクトレバーをPレンジに入れておきましょう。
- 軒下や樹木の下での駐車はさけてください。落雪で車体を損傷するおそれがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを収納してください。

(アンテナ→ 248 ページ)



洗車方法

凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、早めに下回りと足回りを洗車してください。放置すると腐食の原因となります。洗車後は凍結防止のため水分をよくふき取ってください。

アドバイス

- ドアのキー挿入口やドア周りのゴム部の水分は特によくふき取ってください。

格納方法

長時間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドア周りの凍結を防ぐために、ボディカバーを使用してください。

注意

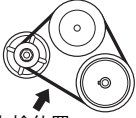
- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布でおおったり、フロントグリルに段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing, arranged in a regular grid pattern across the page.

サービス データ

サービス データ

項 目		サービスデータ	
点火プラグ	メーカー	NGK	デンソー
	プラグ型式	ILKR6F11 (イリジウム プラグ)	SXU20HPR11 (イリジウム プラグ)
ファンベルト	たわみ量(mm) 押力98N{10kgf}時	7.9~9.7(点検時)  点検位置	
アイドリング回転数(rpm)		800	
ブレーキペダル	遊び(mm)	0.5~3.0	
	床板とのすき間(mm) (踏力294N{30kgf}時)	77.0以上(2WD車)、79.1以上(AWD車)	
駐車ブレーキ	引きしろ(操作力196N{20kgf}時)	4~7ノッチ	
バッテリー		M-42	
フューエルタンク	容量(ℓ)(無鉛ガソリン使用)	30(2WD車)、34(AWD車)	
ウォッシュータンク	容量(ℓ)	1.5	

項 目		サービス データ	
エンジン オイル	使用オイルと交換時期	<ul style="list-style-type: none"> • SUBARU MOTOR OIL SN 0W-20*¹または5W-30 • SUBARU MOTOR OIL SM 0W-20*¹または5W-30 • アミックス モーターオイルSAE 0W-20*¹または5W-30 (API分類SM以上) 6か月ごとまたは、10,000kmごと(5,000kmごと* ²)のどちらか早い方	
	交換量(ℓ)	オイル交換時	約2.7
		オイルとオイルフィルター(オイルクリーナー)交換時	約2.9
オイルフィルター(オイルクリーナー)	交換時期	10,000kmごと(5,000kmごと* ²)	
トランスミッション オイル	交換時期	50,000kmごと	
	使用オイル	アミックスCVTフルード-DFE* ¹ またはDC	
	交換量(ℓ)	約2.4(ドレン)、約5.7(全容量)	
トランスファオイル	交換時期	100,000kmごと	
	使用オイル	アミックスデファレンシャルハイポイドギヤオイルSAE80W-90 (API分類GL-5)	
	交換量(ℓ)	約0.57	

*1 最も省燃費性に優れるオイルです。

*2 シビア コンディション条件での定期交換の場合

シビア コンディション条件とは、走行距離大(20,000km以上/年)や短距離走行の繰り返し(8km以下/回)または外気温が氷点下での繰り返し走行が多い場合などに適用します。詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠注意

CVT車のトランスミッション オイルを交換する場合

- スバル指定オイル(アミックスCVTフルード-DFEまたはDC)のみご使用ください。ほかのオイルを使用したり、混合して使用すると、故障するおそれがあります。オイルの交換については、必ずスバル販売店にご相談ください。

サービス データ

項 目		サービス データ
リヤ デファレンシャル オイル	交換時期	30,000kmまたは2年(初回は3年)
	使用オイル	アミックス ATF D3-SP
	交換量(ℓ)	約0.73
ブレーキオイル	交換時期	2年ごと(初回は3年)
	使用オイル	アミックス ブレーキフルード(DOT3相当)
エアクリナーエレメント	交換時期	40,000kmごと(20,000kmごと*)
冷却水 (除くりザーバータンク)	交換時期	2年ごと(初回は3年)
	使用液	アミックス ロングライフ クーラント(高防錆力タイプ)
	規定濃度(%)	30(寒冷地50)
	全容量(ℓ)	約3.2

- * シビア コンディション条件での定期交換の場合
シビア コンディション条件とは、走行距離大(20,000km以上/年)や短距離走行の繰り返し(8km以下/回)または外気温が氷点下での繰り返し走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

タイヤ サイズ	タイヤ空気圧 (空車時: kPa(kgf/cm ²))				タイヤの溝の 深さ(mm)	タイヤ位置 交換時期
	前 輪		後 輪			
	一般	高速	一般	高速		
155/65R14	260{2.6}				1.6以上	5,000kmごと

Dotted lines for writing content.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

さくいん

ア

アイドリング回転数	358
「アイドリング ストップ」	212
「アイドリング ストップ」	
OFFスイッチ	222
「アイドリング ストップ」	
OFF表示灯	221
アイドリング ストップ時間	157
アイドリング ストップ積算時間	158
「アイドリング ストップ」	
表示灯	220
アウター (ドア) ミラー	145
アクセサリー ソケット	267
アシスト グリップ	272
アンダー ボックス	271
アンチロック ブレーキ システム (ABS)	75
アンテナ	248

イ

ELRシート ベルト	47
EPS (電動パワー ステアリング)	
警告灯	178
EBD	75
イグニッション (エンジン)	
スイッチ	190
イグニッション キー	108
ISO FIX対応ISO FIX固定バー &テザー アンカー	59
イモビライザー機能	197
インジケーター ランプ (表示灯)	167
インター ロック	196
インテグレートッドCDプレーヤー & AM/FMチューナー	253
インナー ハンドル	135
インナー (ルーム) ミラー	145

ウ

ウインカー (方向指示) レバー	183
ウインドウ ウォッシャー液の補給	329
ウインドウ ガラス (パワー ウインドウ)	140
ウインドウ デフォッガー	
スイッチ	187
ウインドウ反転機構	143
ウォーニング ランプ (警告灯)	172
ウォッシャー タンクの容量	358
ウォッシャー スイッチ	184
運転席SRSエアバッグ	63
運転席シート ベルト警告灯	175
運転席シート リフター	41

エ

エア クリーナー エLEMENTの	
データ-----	360
エアコン	
オート-----	236
マニュアル-----	228
エアコン ガス-----	340
エアバッグ	
SRSエアバッグ-----	63
SRSサイド エアバッグ-----	69
エア フィルター-----	340
AMラジオ-----	256
AWD車-----	198
ABS-----	75
AUX (外部入力) 端子-----	264
エコ ドライブ アシスト照明-----	166
エコ ドライブ アシスト照明の	
表示設定-----	159
エコ ドライブ アシスト	
ディスプレイ-----	160
SRSエアバッグ-----	63
FMラジオ-----	256
エマージェンシー ストップ	
シグナル-----	77
LLC (冷却水) のデータ-----	360
エンジン オイルのデータ-----	359
エンジン オイル レベル ゲージ----	328
エンジン キー-----	108
エンジン警告灯-----	172
エンジン スイッチ-----	190
エンジン スタート サポート-----	201
エンジン フード (ボンネット) ----	135
エンジン ルーム-----	326

オ

オイルの交換量-----	359
オイル プレッシュャー警告灯-----	172
応急修理セット-----	288
オート エアコン-----	236
オート格納式ドア ミラー	
(キーレス アクセス連動)-----	147
オート (パワー) ウィンドウ-----	140
オーバー ヒート-----	300
オープナー	
フューエル リッド-----	139
ボンネット-----	136
オドメーター (積算距離計)-----	157
オルタネーター (ファン) ベルトの	
点検基準値-----	358
温度調節センサー-----	246

カ

カードホルダー-----	269
外気温-----	161
外部入力端子-----	264
鍵 (キー)-----	108
カップホルダー (前席)-----	270
可変ロード リミッター機構付	
シート ベルト-----	48
間欠ワイパー (ワイパー・	
ウォッシャースイッチ)-----	184

キ

キー	108
キー インター ロック	196
キー (エンジン) スイッチ	190
キー閉じ込み防止機能	126
キー抜き忘れ警告ブザー	126
キーの電池交換	341
キーレス アクセス	112
キーレス アクセス電池残量警告	120
キーレス アクセスの警告	118
給油口 (フューエル リッド)	137
緊急停止するには	320

ク

空気圧	360
空調	228
クーラー (エアコン)	
オート エアコン	236
マニュアル エアコン	228
クラーント (冷却水) のデータ	360
区間距離計	
(トリップ メーター)	157
曇り取り	
フロント (オート エアコン)	245
フロント	
(マニュアル エアコン)	235
リヤ	187
クラクション (ホーン) スイッチ	189
クリーナー (オイル フィルター) の	
データ	359
クリーン エア フィルター	340
グローブ ボックス	269

ケ

警告器 (ホーン) スイッチ	189
計器 (メーター)	154
警告灯	172
警告ブザー	
キー抜き忘れ警告ブザー	126
ランプ消し忘れ警告ブザー	181
警報 (盗難警報装置) の停止方法	129
けん引	285

コ

工具	276
光軸調整ダイヤル	182
高水温警告灯	174
後席 (リヤ シート)	41
航続可能距離	162
固定バー	59
誤発進抑制制御機能	94
コンビネーション スイッチ	179
コンビネーション メーター	154

サ

サービス データ	357
サイド エアバッグ	69
サイド (駐車) ブレーキ	197
サイド (ドア) ミラー	145
サブ トランク	271
3点式ELRシート ベルト	47
サン バイザー	268

シ

CDプレーヤー-----	260
シート	
フロント-----	39
リヤ-----	41
シート アレンジ-----	44
シート ベルト-----	45
シート ベルト警告灯（運転席）-----	175
シート リフター-----	41
CVT警告灯-----	175
CVT車-----	202
室内照明-----	266
シフト セレクト インジケーター-----	170
シフト（セレクト）レバー-----	202
シフト ロック解除ボタン-----	203
シフト ロック装置-----	202
車載工具-----	276
ジャッキの使いかた-----	277
車両盗難防止（イモビライザー）	
機能-----	197
車両を緊急停止するには-----	320
集中ドア ロック-----	125
充電（チャージ）警告灯-----	173
使用オイル-----	359
照度調整-----	160
衝突回避支援ブレーキ機能-----	89
照明-----	266
助手席SRSエアバッグ-----	63
ショッピング フック-----	271

ス

水温警告灯-----	174
水温表示灯-----	168
スイッチ-----	179
スタック（立ち往生）したとき-----	282
ステアリング制御警告灯-----	178
ステアリング ホイール （チルト ステアリング）-----	150
スノー（タイヤ）チェーン-----	352
スパーク（点火）プラグの型式-----	358
スピード メーター-----	156
スマートアシスト-----	86
スマートアシストOFFスイッチ-----	104
スマートアシストOFF表示灯-----	101
スマートアシスト 警告灯-----	100
スマートアシスト 警告灯-----	178
スマートアシスト 作動灯-----	101
スライド調整-----	39

セ

積算距離計（オドメーター）-----	157
セキュリティ表示灯-----	169
節約燃料表示-----	163
節約燃料表示（積算）-----	164
セレクト インジケーター-----	170
セレクト レバー-----	202
先行車発進お知らせ機能-----	98
洗車-----	345
前照灯（ヘッド ランプ）の 切り替え-----	180
前席（フロント シート）-----	39

ソ

速度計（スピード メーター） ----- 156
 ソフト フラット シート----- 44

タ

ターン シグナル インジケーター
 （方向指示器表示灯） ----- 167
 ターン シグナル（方向指示）
 レバー----- 183
 タイヤ交換 ----- 332
 タイヤ チェーン----- 352
 タイヤのデータ ----- 360
 タイヤのローテーション----- 331
 タイヤ パンク応急修理セット ----- 288
 暖房（エアコン）
 オート エアコン ----- 236
 マニュアル エアコン----- 228

チ

チェーン ----- 352
 チェック エンジン警告灯 ----- 172
 チェンジ（セレクト）レバー----- 202
 チケット ホルダー----- 268
 チャージ警告灯 ----- 173
 チャイルド シート----- 50
 チャイルド シート固定バー----- 59
 チャイルド シートの選びかた ----- 52
 チャイルド シートの固定の
 しかた----- 58
 チャイルド シートの種類 ----- 51
 チャイルド プルーフ ----- 125
 駐車ブレーキ----- 197
 駐車ブレーキの点検基準値 ----- 358
 チルト ステアリング ----- 150

ツ

ツール（工具） ----- 276

テ

TRC ----- 80
 TRC OFF表示灯 ----- 83
 低水温表示灯 ----- 168
 ディスク ホイール（タイヤ）の
 交換 ----- 332
 ディスク ホイール（タイヤ）の
 データ----- 360
 低速域衝突回避支援ブレーキ機能 ----- 89
 テザー アンカー----- 59
 デファレンシャル オイルの
 データ----- 360
 デフォッガー スイッチ ----- 187
 デフロスター（曇り取り）
 フロント(オート エアコン) ----- 245
 フロント
 （マニュアル エアコン） ----- 235
 リヤ ----- 187
 デュアルSRSエアバッグ----- 63
 点火プラグの型式----- 358
 電球の交換 ----- 306
 点検整備項目
 （サービス データ） ----- 357
 電池の交換 ----- 341
 電動格納式（ドア）ミラー ----- 146
 電動格納式ヒーター
 ドア ミラー----- 149
 電波式リモコン ドア ロック ----- 110
 電力回生制御 ----- 225

ト

ドア ----- 122
 ドア（パワー）ウインドウ ----- 140
 ドア ミラー
 手動式（鏡面可動） ----- 146
 電動格納式 ----- 146
 ドア ロック ----- 125
 盗難警報装置 ----- 127
 盗難警報装置の警報の停止方法 ----- 129
 時計 ----- 254
 時計調整 ----- 254
 トラクション コントロール
 （TRC） ----- 80
 トランスファ オイルのデータ ----- 359
 トランスミッション オイルの
 データ ----- 359
 トリップ メーター
 （区間距離計） ----- 157

ナ

内気センサー ----- 247

ニ

日射センサー ----- 246

ネ

燃費（平均燃費） ----- 157
 燃料カット システム ----- 282
 燃料給油口
 （フューエル リッド） ----- 137
 燃料計 ----- 156
 燃料残量警告灯 ----- 176
 燃料（フューエル）タンクの容量 ----- 358

ハ

パーキング（駐車）ブレーキ ----- 197
 パーキング（駐車）ブレーキの
 点検基準値 ----- 358
 ハイビーム/パッシング表示灯 ----- 168
 ハザード インジケーター
 （非常点滅表示灯） ----- 167
 ハザード（非常点滅灯）スイッチ --- 183
 発炎筒 ----- 284
 バック（ルーム）ミラー ----- 145
 パッシング
 （ヘッド ランプの切り替え） ----- 180
 バッテリー ----- 224
 バッテリーあがり ----- 298
 バッテリーあがり防止機能 ----- 267
 バッテリーの型式 ----- 358
 発電状態表示 ----- 165
 発電制御 ----- 225
 バニティ ミラー ----- 269
 バルブ（電球）の交換 ----- 307
 パワー ウインドウ ----- 140
 パワー ステアリング警告灯 ----- 178
 パンク ----- 288
 パンク応急修理セット ----- 288
 半ドア警告灯 ----- 176
 ハンドル
 （チルト ステアリング） ----- 150
 ハンド（レバー式駐車）ブレーキ ---- 197

ヒ

ビークル ダイナミクス コントロール (VDC) -----	78
ヒーター (エアコン)	
オート エアコン -----	236
マニュアル エアコン -----	228
ヒートッド ドア ミラー -----	149
非常点滅灯スイッチ -----	183
非常点滅表示灯 -----	167
ヒューズ ボックス -----	304
表示灯 -----	167
ヒル スタート アシスト -----	223

フ

ファン ベルトの点検基準値 -----	358
VDC -----	78
VDC&TRC OFFスイッチ -----	84
VDC&TRC警告灯 -----	82
VDC OFF表示灯 -----	83
VDC作動表示灯 -----	83
V (ファン) ベルトの点検基準値 ----	358
フィルターのデータ -----	359
プッシュ エンジン スイッチ -----	191
不凍液 (冷却水) のデータ -----	360
フューエル ウォーニング (燃料残量警告灯) -----	176
フューエル タンクの容量 -----	358
フューエル (燃料) カット システム -----	282
フューエル メーター (燃料計) ----	156
フューエル リッド -----	137
冬用タイヤ -----	353
プラグの型式 -----	358
プリテンショナー & 可変ロード リミッター機構付シート ベルト -----	48
フル タイムAWDシステム -----	198
ブレーキ (ABS) -----	75
ブレーキ オイルのデータ -----	360
ブレーキ警告灯 -----	173
ブレーキ ペダルの点検基準値 -----	358
ブレード (ワイパー) の交換 -----	336
フロント シート -----	39
フロント シート ベルト -----	47
フロント ドア -----	122
フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチ -----	184

へ

平均燃費	157
ヘッド ランプの切り替え	180
ヘッド レストの調整	40
ヘッド レストの取り外し	42
ベルトの点検基準値	358

ほ

ホイール (タイヤ) の交換	332
ホイール (タイヤ) のデータ	360
方向指示器表示灯	167
方向指示レバー	183
ホーン スイッチ	189
補給口 (フューエル リッド)	137
ポジション表示 (シフト セレクト インジケーター)	170
ボトル ホルダー	270
ボンネット	135

ま

前倒し	42
窓ガラス (パワー ウィンドウ)	140
マニュアル エアコン	228
マルチ インフォメーション ディスプレイ	156

み

ミラー	
ドア ミラー	145
ルーム ミラー	145

め

メーター	154
メカニカル キー	109
メンテナンス データ (サービス データ)	357

ゆ

油圧 (オイル プレッシャー) 警告灯	172
------------------------	-----

ら

ライティング スイッチ	180
ライティング スイッチ表示灯	168
ラジエーター液 (冷却水) の データ	360
ラジオ	256
ラバー (ワイパー) の交換	336
ランプ消し忘れ警告ブザー	181
ランプ自動消灯機能	181

リ

リクライニング調整	40
リバース連動リヤ ワイパー	186
リフター	41
リモコン スイッチ	
キーレス アクセス	115
電波式リモコン ドア ロック	110
リヤ ウィンドウ デフォッガー	
スイッチ	187
リヤ ゲート	131
リヤ シート	41
リヤ シート ベルト	47
リヤ デファレンシャル オイルの	
データ	360
リヤ ドア	122
リヤ ワイパー・ウォッシャー	
スイッチ	185

ル

ルーム ミラー	145
ルーム ランプ	266

レ

冷却水のデータ	360
冷房 (エアコン)	
オート エアコン	236
マニュアル エアコン	228
レーザー レーダー	88
レバー式駐車ブレーキ	197
レベリング スイッチ	182

ロ

ローテーション	331
---------	-----

ワ

ワイパー・ウォッシャー スイッチ	184
ワイパーの交換	336
ワイヤレス ドア ロック	
(電波式リモコン ドア ロック)	110
W数 (電球)	306

3

3点式ELRシート ベルト ----- 47

A

ABS ----- 75
 ABS警告灯 ----- 177
 A/C (エアコン)
 オート エアコン ----- 236
 マニュアル エアコン ----- 228
 AMラジオ ----- 256
 AUX (外部入力) 端子 ----- 264
 AWD車 ----- 198

C

CDプレーヤー ----- 260
 CVT警告灯 ----- 175
 CVT車 ----- 202

E

EBD ----- 75
 ELRシート ベルト ----- 47
 EPS (ステアリング制御)
 警告灯 ----- 178

F

FMラジオ ----- 256

I

ISO FIX対応ISO FIX固定バー
 &テザー アンカー ----- 59

L

LLC (冷却水) のデータ ----- 360

S

SRSエアバッグ----- 63
SRSエアバッグ警告灯 ----- 177
SRSエアバッグ コンピューター----- 73
SRSサイド エアバッグ ----- 69

T

TRC----- 80
TRC OFF表示灯 ----- 83

V

VDC作動表示灯 ----- 83
VDC ----- 78
VDC OFF表示灯 ----- 83
VDC&TRC OFFスイッチ----- 84
VDC&TRC警告灯 ----- 82
V（ファン）ベルトの点検基準値---- 358

W

W数（電球） ----- 306

- 次の名称はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。
当社は使用許諾に基づき使用しております。
 - TRC
 - VSC
- 次の名称はダイハツ工業株式会社の登録商標です。
当社は使用許諾に基づき使用しております。
 - ECO IDLE
 - アミックス
 - AMMIX

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

*お乗りのお車に関してお電話などでお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証などをご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項

型式・車台番号・登録番号・登録年月日

②走行距離

③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール  0120-052215

受付時間 9:00~17:00(平日)、土日祝は9:00~12:00、13:00~17:00

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。

(1) ご意見/ご感想/ご案内 (カタログ、販売店、転居手続き 他)

(2) お問い合わせ/ご相談

※平日の12:00~13:00および土日祝は (1) のインフォメーションサービスのみとなります。

富士重工業株式会社

〒160-8316 新宿区西新宿1-7-2 (スバルビル)

禁複製・転載

編集・発行 **富士重工業株式会社**

スバルカスタマーセンター